

愛知医療学院短期大学 リハビリテーション学科
令和5年度 シラバス

理学療法学専攻

作業療法学専攻

科目 区分	開講科目	科目 区分	開講科目	科目 区分	開講科目
教養基礎科目	科学的思考の基盤		基礎理学療法学		基礎作業療法学
	1 生命の科学		44 理学療法概論		85 作業療法概論
	2 エネルギーのしくみ		45 理学療法研究法Ⅰ		86 臨床運動学
	3 情報処理		46 理学療法研究法Ⅱ		87 基礎作業学
	4 論文講読		47 臨床運動学		88 基礎作業学実習
	人間と生活		48 運動療法総論		作業療法管理学
	5 心理学基礎		理学療法管理学		89 作業療法管理
	6 人間関係論		49 理学療法管理		90 作業療法倫理
	7 コミュニケーション論		50 理学療法倫理		作業療法評価学
	8 レクリエーション		理学療法評価学		91 作業療法評価法
	9 外国語 1（英会話）		51 検査測定法		92 作業療法評価法実習Ⅰ
	10 外国語 2（韓国語会話）		52 検査測定法実習		93 作業療法評価法実習Ⅱ
	11 外国語 3（中国語会話）		53 人体触察法実習		94 身体障害作業評価学
	社会の理解		54 理学療法評価法		95 精神障害作業評価学
	12 現代社会の理解		55 理学療法評価法実習		96 発達障害作業評価学
専門基礎科目	13 生物と環境	専門科目	理学療法治療学	専門科目	作業療法治療学
	複合教養		56 中枢神経系障害理学療法治療学		97 作業療法研究法
	14 教養演習（PT）		57 中枢神経系障害理学療法治療学実習		98 作業治療学理論
	15 教養演習（OT）		58 運動器系障害理学療法治療学		99 作業療法治療学実習
	人体の構造と機能及び心身の発達		59 運動器系障害理学療法治療学実習		100 身体障害作業治療学Ⅰ
	16 解剖学Ⅰ		60 内部疾患系障害理学療法治療学		101 身体障害作業治療学Ⅱ
	17 解剖学Ⅱ		61 内部疾患系障害理学療法治療学実習		102 身体障害作業治療学実習
	18 解剖学Ⅲ		62 小児疾患系障害理学療法治療学		103 精神障害作業治療学
	19 解剖学実習		63 小児疾患系障害理学療法治療学実習		104 精神障害作業治療学実習
	20 生理学Ⅰ		64 老年期障害理学療法学		105 発達障害作業治療学
	21 生理学Ⅱ		65 日常生活活動学		106 発達障害作業治療学実習
	22 生理学実習		66 日常生活活動学実習		107 高齢期作業療法学
	23 運動学総論		67 義肢装具学		108 日常生活作業学Ⅰ
	24 運動学Ⅰ		68 義肢装具学実習		109 日常生活作業学Ⅱ
	25 運動学Ⅱ		69 物理療法学		110 日常生活作業学実習
	26 運動学実習（PT）		70 物理療法実習		111 高次脳障害作業治療学
	27 運動学実習（OT）		71 理学療法特論Ⅰ（神経生理学的アプローチ）		112 義肢装具学
	28 人間発達学		72 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ）		113 義肢装具学実習
	疫病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進		73 理学療法特論Ⅲ（筋生理学のアプローチ）		地域作業療法学
	29 一般臨床医学		74 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法）		114 リハビリテーション関連機器
	30 公衆衛生学		地域理学療法学		115 地域作業療法学
	31 臨床心理学		75 生活環境論		116 地域作業療法実習
	32 内科学		76 予防理学療法実習		117 就労支援学
	33 整形外科学		77 地域理学療法学		総合作業療法学
	34 神経症候学		総合理学療法学		118 臨床実習Ⅰ（見学）
	35 精神医学		78 臨床実習Ⅰ（見学）		119 臨床実習Ⅱ（地域）
	36 小児科学		79 臨床実習Ⅱ（地域）		120 臨床実習Ⅲ（評価）
	37 医療安全学・救急医学		80 臨床実習Ⅲ（評価）		121 臨床実習Ⅳ（総合1）
	38 画像診断学		81 臨床実習Ⅳ（総合1）		122 臨床実習Ⅴ（総合2）
	39 健康科学		82 臨床実習Ⅴ（総合2）		123 卒業研究
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		83 卒業研究		124 総合演習
	40 リハビリテーション概論		84 総合演習		
	41 リハビリテーション社会論				
	42 社会福祉学				
	43 障がい者スポーツ概論				

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生命の科学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	2単位	30時間
担当教員名						
森谷 和司						
実務経験のある教員						
授業概要						
私たち生物はDNAを遺伝子の本体とし、40億年近く前に誕生した生命体から延々とそれを受け継いできている。近年の急速に進歩した生命科学は生命・生物に対して新しい知見や見方を示し、生命に対する考え方を変えている。本講義では、高等学校で学んだ生物学の知識に基づき、主にヒトに関わることを中心に生命現象について学修を進め、生命倫理についても学ぶ。学んだことが専門科目への橋渡しとなり、将来に役立つ科学的なものの見方・考え方ができるようになってくれることを期待する。						
学習到達目標						
知識・理解	①生物や生命現象について、生命科学の基本的な概念や原理・法則を使って説明することができる。(DP3) ②生命倫理とは何か、現代社会との関わり、その重要性と意義について述べるすることができる。(DP3)					
思考・判断 ・表現	③ヒト及び身の回りの生物や生命現象に関する事柄・トピックに、科学的な思考や判断で対処できる。(DP3) ④生命倫理、現代社会との関わり、生命倫理に関する今日の話題について科学的な思考や判断で対処できる。(DP3)					
技能						
関心・意欲 ・態度	⑤ヒト及び身の回りの生物や生命現象に関わる事項について興味・関心を持ち、自ら課題をもって学ぶことができる。(DP3) ⑥生命倫理と現代社会の関わり、生命倫理に関する今日の話題について興味・関心を持ち、自ら課題をもって学ぶことができる。(DP3)					
授業形態						
講義	配付資料とスライドを用い、グループ・ワークも導入する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	森谷	生命とは何か	生命とは何かについてグループ・ディスカッションを行う。生命の特徴、起源、生命の基本単位である細胞について学修する。			
2	森谷	生命をつくる物質	生命をつくる物質の科学的基礎、その性質と役割について学修する。			
3	森谷	細胞の構造と機能	生命の基本単位である細胞の構造、機能について学修するとともに、細胞内での物質の移動、細胞膜を通した物質の移動についても学修する。			
4	森谷	細胞の増殖と分化	細胞分裂、細胞の分化、組織、器官について学修する。			
5	森谷	生命活動とエネルギー	酵素の働き、物質交代とエネルギー交代、エネルギーと生命活動について学修する。			
6	森谷	遺伝子の本体	遺伝子とは何か、その本体のDNAについて学修する。			
7	森谷	遺伝情報の発現	DNAの遺伝情報から転写、翻訳によってタンパク質が合成されるしくみを学修する。			
8	森谷	生物の発生	動物の発生過程と、発生と分化のしくみについて学修する。			
9	森谷	人体のしくみー筋肉と運動ー	ヒトの筋肉運動のしくみ、筋肉運動のエネルギー利用について学修する。			

10	森谷	人体のしくみー神経系ー	ヒトのニューロンの構造と機能、中枢神経と体性神経について学修する。					
11	森谷	人体のしくみー自律神経系と内分泌系ー	ヒトの自律神経、ホルモンのはたらきについて学修する。					
12	森谷	人体のしくみー消化系と呼吸系ー	生命活動に必要な物質の吸収とガス交換について学修する。					
13	森谷	人体のしくみー循環系と排出系ー	ヒトの体内輸送、排出と体内の浸透圧調節について学修する。					
14	森谷	人体のしくみーホメオスタシスー	ヒトの内部環境の調節のしくみについて学修する。					
15	森谷	生命倫理と現代社会・まとめ	生命倫理とは何か、その重要性と意義についてグループ・ディスカッションを行う。生命倫理と現代社会の関わり、生命倫理の今日的話題について学修するとともに、講義全体をとおして自らの学びを振り返る。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			50	①②③④
	課題		●	●		●	30	①②③④⑤⑥
	講義の振り返り（内容の確認、感想、質問など）					●	20	⑤⑥
評価の 特記事項	課題、授業の振り返りは授業ごとに評価する。 全評価の合計が基準(60%)未満の場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
(予習) 次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。（30分程度） (復習) 授業ごとに学修したことを振り返り、知識の整理、復習に務めること。（30分程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
毎回授業の終わりに簡単な課題を提示し、コメントペーパーを回収する。次回の授業の冒頭で課題の講評やコメントペーパーの質問対応等を行う。								
教科書								
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。								
参考図書								
参考文献は講義の中で紹介する。								
備考：履修者への要望								
今までに学んだ生物の知識を深め、生命についての新たな見方・考え方を身に付け、間違った情報に流されず、正しく科学的な判断ができるようになってもらいたい。そのためには、ヒト及び身近な自然、生命倫理等に関する新聞等の記事にも関心を持ち、生命科学のおもしろさを実感してもらいたい。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
エネルギーのしくみ		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	2単位	30時間
担当教員名						
後藤 理夫						
実務経験のある教員						
授業概要						
物理学の中でも特に力学・熱学・電磁気学分野を中心に、エネルギーに関する理論・法則性の理解だけでなく、数量的にも演習問題をくり返し解くことで、専攻の科目における学修成果が十分達成される基礎知識の理解修得を目標とする。						
学習到達目標						
知識・理解	①「エネルギーの概念」を理解し、その法則を使った計算ができる。（DP3）					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	講義を中心とした理論と演習問題の解説で展開する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	後藤	直線運動の加速度	変位、速度と加速度の関係 負の加速度 加速度－時間のグラフ			
2	後藤	力とつりあい （Ⅰ）	力の表し方、つり合う2力（重力・張力・抗力・弾性力等） 力の合成・分解 作用反作用の法則			
3	後藤	力とつりあい （Ⅱ）	剛体のつり合い 剛体と回転、モーメント（トルク） てこの原理			
4	後藤	力とつりあい （Ⅲ）	平行力、平行力の合成と重心 圧力・浮力			
5	後藤	運動の法則 （Ⅰ）	運動の法則（第1慣性の法則・第2運動の法則） 落下運動 斜面上の運動			
6	後藤	運動の法則 （Ⅱ）	摩擦力が働く運動（最大静止摩擦力・動摩擦力） 回転運動と角速度			
7	後藤	力学的エネルギー （Ⅰ）	仕事、力と仕事 仕事の原理 仕事率			
8	後藤	力学的エネルギー （Ⅱ）	運動エネルギー、位置エネルギー、弾性位置エネルギー エネルギー保存の法則 運動量と力積			
9	後藤	熱 （Ⅰ）	熱と温度、熱運動、温度と内部エネルギー 熱と仕事			
10	後藤	熱 （Ⅱ）	物質の三態と状態変化（融点・沸点） 比熱、熱容量、熱平衡			
11	後藤	波動 （Ⅰ）	波の発生、伝わり方、波を表す量 波の性質（独立性・反射・屈折・回折・干渉）			
12	後藤	波動 （Ⅱ）	縦波・横波 音波（音速・三要素・超音波） 光波、電磁波のなかま			

13	後藤	電磁気 (Ⅰ)	静電気 電流と電圧、電気抵抗 電気とエネルギー (消費電力)					
14	後藤	電磁気 (Ⅱ)	磁石と磁力線、電流がつくる磁界、電流が磁界から受ける力電磁誘導、交流と直流 電波					
15	後藤	原子力	核エネルギー 原子力の平和利用と課題					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験		●				80	①
	課題		●				20	①
評価の 特記事項	筆記試験は、講義プリントの練習問題及び課題演習問題より出題する。 課題は、十分な復習活動によって問題を理解する努力度で評価する。 筆記試験と課題を合わせて6割に達しなかった場合、再試験を行う。							
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間								
教科の性質上、予習より復習に力点を置くため、講義終了時に課題の演習問題プリントを配布しますので、解答を答えるだけでなく理論についても理解に努める。 (約1時間程度)								
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法								
課題演習は、全問解答をした上で答え合わせをする (不正解はやり直すこと、解説付きの解答も同時配布します)。 これを次回講義時に提出する。(次々回の講義日に返却された演習問題プリントは各自でファイリング保管して筆記試験に備える)								
教科書								
講義用のプリント学習冊子を初回に配布します。								
参考図書								
特になし (高等学校教科書「物理基礎」「物理」および「問題集」などを残している学生は利用できる)								
備考：履修者への要望								
受講生全員の高等学校における履修は「物理基礎」のみで「物理」を選択履修していない前提での講義内容とします。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
情報処理		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
田中 雅章						
実務経験のある教員						
日本情報処理検定協会 検定委員(2003年～)の実績がある教員が、Word、Excel、PowerPointの効率の良い操作技術について講義をする。						
授業概要						
今日の医療現場で導入されているメディカルコンピューターを操作するための情報技術の修得は必須項目である。本科目は、医療に携わる者として知っておくべき基本的なPCに関する知識や操作を習得する。主としてPCのリテラシー技術を指導し、情報処理作業でムダのないデータ処理ができる技術を習得する。また、カンファレンス資料の作成ができるようにプレゼンテーションなどの情報活用能力の技術を習得する。						
学習到達目標						
知識・理解						
思考・判断 ・表現	①医療現場における情報技術の役割を理解し、自分の考えやイメージを表現し相手に正しく伝えることができる。(DP3)					
技能	②調査データや測定機器で得られた測定値をPCに記録し、統計分析やグラフ化の処理を行うことができる。(DP3)					
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	教科書に沿って、PCを利用する演習形式の講義。本講義ではアクティブラーニングを実践しており、LMSとデジタルコメントシートを採用している。質問等の回答はLMSを通じて全員へフィードバックする。初回にこのシステムの操作方法について説明する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	田中	授業オリエンテーション・データ処理 の基本	授業オリエンテーション、本講義で採用しているLMSとデジタルコメントシートの操作方法を説明する。 Excelの基本的な操作方法を演習する。：教科書 第1章、第4章			
2	田中	データ分析の方法	集計やデータ分析の基本を学び、Excelで関数や絶対指定を使い、効率の良いデータ分析方法を演習する。：教科書 第4章			
3	田中	データの可視化	グラフ作成の基本を学び、Excelで適切な表やグラフを作成するとともに、表の体裁を整える。：教科書 第4章			
4	田中	文書作成	Wordの書式設定や段落指定、フォントの変更等の基本操作を演習する。：教科書 第3章			
5	田中	公文書の作成	公文書の作法や書式を学び、Wordで公文書の作成方法を演習する。：教科書 第3章			
6	田中	報告書の作成	病院利用者の満足度調査と報告書の設計を学び、Excelのグラフを活用し分かりやすい報告書の作成方法を演習する。：教科書 第3章			
7	田中	プレゼンの基礎	プレゼンテーションの基本を学び、PowerPointの基本操作を演習する。：教科書 第6章、第5章			

8	田中	プレゼン資料の作成	提出されたデジタルコメントシートを集約し受講生へフィードバックする。ポートフォリオに基づきリフレクション活動を行う。 Excelで作成した表やグラフをPowerPointに活用する方法を演習する。：教科書 第5章					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	実技試験				●		60	②
	筆記試験			●			40	①
評価の 特記事項	PCを使った実技試験を3回目と6回目に実施する(40%)。8回目に課題を提出する(20%)。 期末に筆記試験を実施する(40%)。 具体的な目標や評価基準はルーブリックに基づく。初回に目標や評価基準となるルーブリック表を示す。 合計点数が6割取れていなかった場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
空き時間にタイピングの習得を推奨する。タイピングが習得できると作業能率が改善され、情報の作業時間が信じられないぐらいに短くなる。練習時間は、1日10分程度。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
実技試験で不合格の場合は、課題ができるようになるまで補習を行う予定である。早い段階でキーボード入力がスムーズにできるように練習することを勧める。								
教科書								
「30時間でマスター Office2021」実教出版								
参考図書								
なし								
備考：履修者への要望								
情報機器を自分の思い通りに使いこなせるように技術を身につける努力を希望する。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
論文講読		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	選択	1単位	15時間
担当教員名						
丹羽 重信						
実務経験のある教員						
授業概要						
専門的な研究や臨床場面では、医学論文を読む機会が多くなるが、本科目はそのための基本となる一般的な論文の読解能力を身につけることを目的とする。日本語での論文講読が中心となるが、将来海外の論文を読む必要が生じることを考慮し、学術雑誌のよく知られた英語論文も題材の一部に加える。授業は、論文の構成や読み取り方についての解説から始まり、いくつかの論文を実際に講読し、内容についてのディスカッションも取り入れながら進める。						
学習到達目標						
知識・理解	①論文の読解法と構成法、英語の文法・語法を応用することができる。（DP2. DP3）					
思考・判断 ・表現	②日本語および英語の文章の論点を見抜き、分かりやすく説明することができる。（DP2. DP3）					
技能	③調査データのポイントを読み取り、専門用語や英語の辞典の情報や資料を活用することができる。（DP2. DP3）					
関心・意欲 ・態度	④論文やニュースに日頃から注意を払い、積極的に調べることができる。（DP2. DP3）					
授業形態						
講義	毎回、論文を読んで研究するとともに、英語の小テストを行い、解説を行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	丹羽	初めての論文（1）	手本となる卒業論文の構成と読み取り方を見定める。また、グローバリゼーションの時代における英語の重要性について考える。			
2	丹羽	初めての論文（2）	論文構成の約束事をより詳しく知る。述語動詞を中心にする英文の基本構造と品詞との関係について確認する。			
3	丹羽	論文を読む（1）	自然科学の論文を見定める。英語話者がいつも意識している時間軸と述語動詞の形との対応について整理する。			
4	丹羽	論文を読む（2）	社会科学の論文を見定める。英語で動詞を、述語動詞としてではなく、準動詞として他の品詞で用いる意味を考える。			
5	丹羽	論文を読む（3）	医療倫理に関する論文を見定める。英語の文と文をつなぎ、重文や複文を作るいろいろな接続詞の働きについて整理する。			
6	丹羽	英語論文を読む（1）	英語による遺伝学に関する論文を読み、その意義について考える。英語の関係代名詞・関係副詞を復習する。			
7	丹羽	英語論文を読む（2）	英語による物理学の論文を読み、その特徴を学ぶ。英語の比較や否定の表現のいろいろな組合せを見定める。			

8	丹羽	まとめ	全講義の復習をおこない、論文研究のまとめとする。				
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法 \ 評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験	●	●	●		20	①②③
	小テスト	●	●			40	①②
	参加貢献度		●	●	●	40	②③④
評価の 特記事項	最終講の筆記試験・毎回行う小テスト・授業中の参加貢献度を上記の割合で評価する。各評価を合計した総合評価が6割に満たないものについて、再試験を課す。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
図書室で備えられた専門書や先輩の卒業論文を読んでみる。これまで使用した英文法の参考書を再読する。（30分程度） また、授業後は文法事項の苦手箇所を復習する。（30分程度）							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
毎講、出席確認をかねた簡単なレポートを提出してもらう。小テストについては各回の講義中に解答解説する。小テストは自己採点とするが、最終の科目試験（日本語のみ）は講師が採点し、結果を報告する。							
教科書							
毎回、論文および英語小テストのプリントを使用する。							
参考図書							
手持ちの英文法の参考書、および英和辞典・和英辞典（電子辞書も可）							
備考：履修者への要望							
どんな学習にも王道はない。焦らず、あきらめず、コツコツと続ける以外に方法はない。時間はかかるが、誰でも上達できるものである。このことを頭に入れて、日頃から読む・聞く・話す・書くことに努めたい。							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
心理学基礎		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	2単位	30時間
担当教員名						
金子 幾之輔						
実務経験のある教員						
金子 幾之輔：日本カウンセリング学会カウンセリング心理士(2021年7月改称)・スーパーバイザーとしてカウンセリングの実務経験を有し、本授業にカウンセリング理論・実習を導入することによって、自己理解や障害者への支援等に関する知識・技能の学修を促進する。						
授業概要						
本科目は、人間の心の諸相を心理学の立場から把握することを目的とし、代表的な心理学の知見を日常生活上の事象と関連付けながら平易に解説し、人の心の仕組みや働きについて学修する。また、カウンセリング理論・実習も導入するなどして自己理解や障害者への支援について考察する。						
学習到達目標						
知識・理解	①心理学の代表的な知見を論じられる程までに心理学に関する基礎知識を説明できる。(DP1) ②自己理解や障害者への支援について説明できる。(DP1)					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	自作の資料に基づいて平易に解説するとともに、体験学習やグループワークも導入する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	金子	心理学とは何か	心理学の領域と歴史等を概観し、心理学の概念や特徴を把握する。			
2	金子	外界認識	人間が行動表出するまでの認識のメカニズムについて学修する。			
3	金子	記憶	記憶のプロセスとさまざまな記憶について学修する。			
4	金子	学習 (1)定義等 (2)古典的条件づけ	学習の定義、意義、種類および学習の基本的メカニズムとしての条件づけについて学修する。			
5	金子	学習 (3)道具的条件づけ (4)その他	条件づけと認知的学習およびその他の学習理論について学修する。			
6	金子	動機づけ	動機づけのメカニズム、生物学的動機と社会的動機について学修する。			
7	金子	人間の成長 (1)発達心理学の視点 (2)子どもの発達	人の成長を発達心理学の視点から捉え、子どもの発達について学修する。			
8	金子	人間の成長 (3)青年期の発達 (4)成人期の発達	上記と同様の視点から、青年期の発達、成人期の発達について学修する。			
9	金子	性格 (1)性格の記述 (2)性格の測定	性格記述の代表的な理論である類型論と特性論について学修する。また、性格測定として、質問紙法の一つである「主張傾向調査法 (AI)」を実施する (体験学習)。			
10	金子	性格 (3)性格の形成 (4)知能 (5)遺伝と環境	性格形成に影響する諸要因、知能の定義・構造・測定、知能の発達を規定する遺伝と環境の要因について学修する。			

11	金子	社会的影響	他者の存在やその働きかけによって、個人の態度や行動が大きく影響される過程について学修する。					
12	金子	人間関係	人間関係の基礎理論としての対人魅力、援助行動について学修する。					
13	金子	心の病気	心の健康と不健康、さまざまな心理的障害について学修する。					
14	金子	カウンセリング	カウンセリングの基礎理論を学修する。また、その実習として面接法を実施する。 (グループワーク)					
15	金子	総括	講義内容の振り返りとまとめを行う。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	レポート試験		●				85	①②
	振り返り度		●				15	①②
評価の 特記事項	・ レポート試験は、最終試験のみとする。 ・ 振り返り度は、毎回の授業の終わりにリフレクション(省察・振り返り：ミニッツペーパーの導入)を行い評価する。 以上2つの評価点を総合して評価する。 ＊本科目では、当該レポートを締切り日時までに提出しなかった場合、原則として不合格とし、再試験を実施しません。また、合格点に満たなかった場合も再試験を実施しません。さらに、特別試験も実施しませんので十分に注意して下さい。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
○事前学習：心理学辞典や心理学概論等の参考文献を用いて、毎回の授業で扱う内容について調べておくこと。（1時間程度） ○事後学習：授業で扱った内容を自分なりにまとめるなどの復習をすること。（1時間程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（レポート、振り返り）に関する質問は適宜受け付ける。								
教科書								
授業に必要な自作の資料を配布する。								
参考図書								
講義の中で適宜紹介する。								
備考：履修者への要望								
心理学の基礎知識を修得するために日常生活上の心理的事象について疑問を抱き、心理学に関する参考文献等を活用するなどしてその問題の解決に向けて努力することを期待する。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人間関係論		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
金子 幾之輔						
実務経験のある教員						
金子 幾之輔：日本カウンセリング学会カウンセリング心理士(2021年7月改称)・スーパーバイザーとしてカウンセリングの実務経験を有し、本授業にカウンセリング理論・技法を導入することによって、人間関係（とくに援助的人間関係）に関する知識・技能の学修を促進する。今後、本授業で学修した内容を日常生活上に活用することによって、一層円滑な人間関係を構築・維持できるようになることを期待する。						
授業概要						
本科目は、対象者との良好な人間関係を形成したり、職場（施設・病院等）における人間関係を円滑化したりするために、社会人として、医療従事者として、或いは個人として、どのように行動すればよいのかについて客観的、科学的に考察し、その行動を実践できるようになることを目的とし、講義形式を中心に一部演習形式を取り入れた授業形態で学修する。具体的には、日常生活上の事例を検討するなどして人間関係に関する基礎的な理論を把握するとともに、体験学習やグループワーク等を通じ援助的人間関係において必要な基本的態度やコミュニケーション技法に関する知識・技能について学修する。						
学習到達目標						
知識・理解	①人間関係に関する基礎的な理論を説明できる。(DP1) ②援助的人間関係において必要な基本的態度について述べることができる。(DP1) ③援助的人間関係において必要なコミュニケーション技法を適用できる。(DP1)					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度	④技法修得に関心を抱き、そのための体験学習やグループワークに意欲的に参加し討議することができる。(DP1)					
授業形態						
講義	自作の資料に基づいて平易に解説するとともに、体験学習やグループワークも導入する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	金子	オリエンテーション	本授業の目的、到達目標、授業計画等について学修する。			
2	金子	1. 人間関係の基礎的な理論	(1) 人間関係の定義、人間関係に関する問題の社会的背景、好ましい人間関係について学修する。			
3	金子	1. 人間関係の基礎的な理論	(2) 人間関係の要因、（3）人間関係の場面について学修する。			
4	金子	2. 援助的人間関係において必要な基本的態度	態度の定義、個人的態度の捉え方（心理検査の体験学習）、援助的態度等について学修する。			
5	金子	2. 援助的人間関係において必要な基本的態度	援助者に望まれる6つの態度（無防衛、共感、受容、熱意、間、距離）についてグループワーク等を通じ学修する。			
6	金子	3. 援助的人間関係において必要なコミュニケーション技法	前述の6つの態度を実現するためのコミュニケーション技法の基礎である（1）促しの技法、（2）繰り返しの技法についてグループワーク等を通じ学修する。			

7	金子	3. 援助的人間関係において必要なコミュニケーション技法	同様に（3）要約の技法、（4）解釈の技法、（5）共感の技法、（6）保証の技法、（7）沈黙の技法、（8）明確化の技法、（9）質問の技法、（10）対決の技法について学修する。					
8	金子	まとめ	これまでの授業の振り返り（リフレクション）を行う。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	レポート試験		●				80	①②③
	振り返り度		●				10	①②③
	参加貢献度					●	10	④
評価の 特記事項	<div>・レポート試験は、最終試験のみとする。</div> <div>・振り返り度は、毎回の授業の終わりにリフレクション（省察・振り返り：ミニッツペーパーの導入）を行い評価する。</div> <div>・参加貢献度は、体験学習やグループワークに意欲的に参加し、討議・発表する度合いによって評価する。</div> <div>以上3つの評価点を総合して評価する。</div> <div>＊本科目では、当該レポートを締切り日時までに提出しなかった場合、原則として不合格とし、再試験を実施しません。また、合格点に満たなかった場合も再試験を実施しません。さらに、特別試験も実施しませんので十分に注意して下さい。</div>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<div>○事前学習：心理学辞典や人間関係学および社会心理学の参考文献等を用いて、毎回の授業で扱う内容について調べておくこと。（1時間程度）</div> <div>○事後学習：授業で扱った内容を自分なりにまとめるなどの復習をすること。（1時間程度）また、援助的人間関係において必要な基本的態度・コミュニケーション技法を修得するために体験学習や実習場面等で熱心にその態度や技法の訓練に取り組むこと。</div>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（レポート、振り返り、参加貢献）に関する質問は適宜受け付ける。								
教科書								
授業に必要な自作の資料を配布する。								
参考図書								
講義の中で適宜紹介する。								
備考：履修者への要望								
援助的人間関係において必要な基本的態度・コミュニケーション技法を向上させるために体験学習や実習場面のみならず、日常生活上においても積極的にその態度や技法を訓練することを期待する。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
コミュニケーション論		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
丹羽 重信						
実務経験のある教員						
授業概要						
現代社会におけるコミュニケーションの有り様は実に多彩であり、コンピュータやスマートフォンなどの普及によって従来にはなかった新しいネットワーク構築が加速しつつある。 本科目では現代のコミュニケーションの実情について広く捉え、日本人の使うコミュニケーション手段の中核としての現代日本語のみならず、それに強い影響を及ぼしている英語表現、さらには唯一の世界共通言語とも言える数学表現をも視野に入れて、将来の研究活動や医療業務に活かせる敬語運用を踏まえたコミュニケーションの在り方について学修する。授業は講義形式を中心とし、お互いに考えディスカッションをするグループワークなどを取り入れることもある。						
学習到達目標						
知識・理解	①日本を取り巻く世界の情勢と、日本社会の変化について、科学的な知識に基づいて具体的に述べることができる。（DP2, DP3, DP6）					
思考・判断 ・表現	②自己中心的な判断ばかりを続けず、他者の立場に立って全体の状況を見直すことができる。（DP3, DP4, DP6）					
技能	③日本語の中の敬語の基本的な仕組み正しく身に付け、適切に使いわけることができる。（DP3, DP6）					
関心・意欲 ・態度	④ことばによるコミュニケーションの限界をわきまえつつ、積極的にネットワークを作っていくことができる。（DP3, DP4, DP6）					
授業形態						
講義	プリントを使用する講義。可能な場合にはディスカッション，インタビューなどを行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	丹羽	自己と他者とのコミュニケーション (1)	「コミュニケーション」とは何かを考え、自己紹介文を書いてみる。			
2	丹羽	自己と他者とのコミュニケーション (2)	インタビューを通して情報を聞き出し、他者紹介文を書いてみる。			
3	丹羽	ことばによるコミュニケーション (1)	日本語の敬語の仕組みが持つ複雑さを知り、その役割について考える。			
4	丹羽	ことばによるコミュニケーション (2)	ことばによるコミュニケーションの限界とノンヴァーバル・コミュニケーションについて考える。			
5	丹羽	動植物とのコミュニケーション	『雑種植物の研究』を発表し「遺伝学の父」と呼ばれることになったメンデルの生涯について学ぶ。			
6	丹羽	ものとのコミュニケーション	放射能の発見と研究の歴史を概観し、ポーランドに生まれた女性科学者マリー・キュリーの生涯について学ぶ。			

7	丹羽	宇宙とのコミュニケーション	『相対性理論』と宇宙研究を考え、自由な精神を持ったアインシュタインの生涯について学ぶ。					
8	丹羽	まとめ	第1回～第7回のふりかえり					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●		●		20	①③
	レポート（課題提出）		●	●	●	●	40	①②③④
	参加貢献度			●		●	40	②④
評価の 特記事項	講義への出席と受講態度で参加貢献度を測り、毎回の課題提出、および筆記試験の結果を総合的に評価する。筆記試験、課題提出、参加貢献度の各評価を合計した総合評価が6割に満たないものについて、再試験を課す。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
百科事典やウィキペディアなどで上記の科学者について調べ、テレビや新聞のニュースで世の中の動きを補う。（30分程度）また、敬語の使用を意識しながら人々の話し言葉にも日頃から注意を払う。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
毎講、出席確認をかねた簡単なレポートを提出してもらう。その中で特に注意を引いたものについて講義中に随時コメントする。最終の科目試験については結果を報告する。								
教科書								
特に指定はしない。講義中に紹介する書籍や映画などを見してみる。								
参考図書								
「メンデル 雑種植物の研究」 岩槻邦男・須原準平 訳 岩波文庫 「キュリー夫人伝」 エーヴ・キュリー著 河野万里子 訳 白水社 「アインシュタイン 相対性理論」 内山龍雄 訳・解説 岩波文庫								
備考：履修者への要望								
電子辞書などを手元に用意しておくこと。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
レクリエーション		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	選択	1単位	15時間
担当教員名						
加藤 真夕美						
実務経験のある教員						
加藤 真夕美:医療機関、介護老人保健施設、保健センター、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、レクリエーション指導の経験を有する教員が、レクリエーションの基礎についての講義および実技指導を行う。						
授業概要						
人が生活する上で、遊び・余暇活動は重要な活動である。本科目は、この遊び・余暇活動の一形態である集団レクリエーションについて、その概念や意義、分類、有効性、留意事項などを学習する。その上で、少人数グループに分かれ、集団レクリエーションの企画、計画書の作成、実施、振り返り、報告書の作成という一連の流れを演習を通して体験的に学び、医療・福祉分野における集団レクリエーションの実践能力の基礎を獲得する。						
学習到達目標						
知識・理解	①レクリエーションの分類を述べることができる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	②医療・福祉現場におけるレクリエーションの意義を討議することができる。（DP1）					
技能	③グループで協力して計画を立て、同級生に対して実施することができる。（DP1, 5） ④レクリエーションを受ける立場を体験し、レクリエーションを受ける人の気持ちを感じ、それを記述することができる。（DP3, 4）					
関心・意欲 ・態度	⑤グループ活動で自身の役割を果たすことができる。また自身のグループワークでの特性を内省し、それを記述することができる。（DP5） ⑥提出物を遅滞なく、かつ内容の不足なく提出することができる。（DP3）					
授業形態						
演習	グループワークによるアクティブ・ラーニング（演習、レポート作成）を主体とし、一部講義形式を交えて行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	加藤	オリエンテーション アイスブレイキング	授業の内容および進行について説明する。グループでの遊びを通してアイスブレイキングを行う。			
2	加藤	レクリエーションの概論	レクリエーションの考え方やリハビリテーションとの関連性について学ぶ。			
3	加藤	レクリエーションの計画立案①	レクリエーションの計画の立て方について学ぶ。			
4	加藤	レクリエーションの計画立案②	グループごとに集団レクリエーションを計画し、計画書を作成する。			
5～7	加藤	集団レクリエーション実践	各グループ20分間の集団レクリエーションを、他グループの学生に対して実践する。またその成果を学生相互に評価し合う。			
8	加藤	レクリエーションの振り返り 障害特性に応じたレクリエーション	集団レクリエーションの他者評価結果をまとめ、グループおよび個人で振り返りを行う。また、障害特性に応じたレクリエーションの工夫について検討する。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法 \ 評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	実技評価		●	●	●	30	②③④⑤
	レポート（グループ）	●	●	●	●	40	①②③⑥
	レポート（個人）		●		●	20	②⑤
	参加貢献度				●	10	⑤⑥
評価の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実技評価は、集団レクリエーション実践後のルーブリックによる他者評価で採点する。 ・レポート（グループ）及びレポート（個人）は、担当教員がルーブリックを用いて採点する。 ・参加貢献度は、グループワーク当日に果たした役割の有無で採点する。 ・再試験は実施しない。 						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
レクリエーション実施に当たっての準備や練習（1時間）							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート（計画書・報告書）は、グループごとに口頭でフィードバックする。また、ルーブリックで採点する。 ・発表内容は、授業内に受講生同士でルーブリック評価を行う。 							
教科書							
参考図書							
「レクリエーション—社会参加を促す治療的レクリエーション」第3版 寺山 久美子、中村 春基 三輪書店 その他、必要に応じて授業内で紹介する。							
備考：履修者への要望							
<ul style="list-style-type: none"> ・希望者数によっては、受講人数に制限を設けることがあります。 ・この科目では、普段交流のない学生を含めた仲間たちと協働作業し、一からレクリエーションプログラムを組み立てていく体験をします。積極的にグループメンバーに関わり、集団の中での自身の得意・不得意な役割を発見するよう努めてください。 							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
外国語 1（英会話）		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
James Higa						
実務経験のある教員						
授業概要						
This is a speaking course designed to help the students feel comfortable using the English that they know and have learned in various health-related and communicative situations. The students will be required to demonstrate their ability to ask and answer questions, and to interact naturally with their classmates, as well as their teacher. In addition to, participating in all the class activities, the students will be expected to work on improving their English skills. The class incorporates group work.						
学習到達目標						
知識・理解	①Can ask and answer basic questions in English. (DP3)					
思考・判断 ・表現	②Can use and understand the vocabulary that they have learned in class. (DP3)					
技能	③Can engage themselves in short conversations. (DP3)					
関心・意欲 ・態度	④Can have a conversation proactively using the vocabulary that they have learned in the class. (DP3)					
授業形態						
講義	Group work					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	James	orientation / self-introduction	review course outline: expectations and homework / talk about self / handout #1			
2	James	friends / classmates / doctor: hospital	introduce classmates / use expressions / / quiz handout #1 / handout #2			
3	James	family / illness: headache, cough, cold, virus	label family members / use expressions / quiz handout #2 / handout #3			
4	James	body parts / body: muscle	identify body parts by name/ use expressons / quiz handout #3 / handout #4			
5	James	hobbies / sports / medicine: pills	things you like to do / play / use expressions / quiz handout #4 / handout #5			
6	James	time / schedule / blood	making appointments / planning / use expressions / quiz handout #5 / handout #6			
7	James	group presentation	final 3 minute group presentation			

8	James	SUMMARY	summary of 1-7				
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法 \ 評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験	●	●			30	①②
	小テスト	●	●			50	①②
	課題（プレゼンテーション）			●		10	③
	参加貢献度				●	10	④
評価の 特記事項	Course grading will be based on class participation (10%) weekly quiz (50%) written assessment (30%) and assignment: group presentation (10%) Students will need to take a re-examination in case the total score is less than 60%.						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
Students will need to collect pictures or make drawings of various topics to be put into their A4 size notebooks. Students will use the pictures or drawings in class, as part of their weekly assignment. *If the student does not complete the homework assignment, he/she will not be able to participate in class. Students will need to prepare for one group presentation and prepare for the weekly vocabulary quiz. Students can expect to spend 60 minutes a week preparing for these assignments.							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
When the students give a presentation, the teacher gives his opinion and advice depending on its subject as needed.							
教科書							
Printed material will be provided by the instructor.							
参考図書							
none							
備考：履修者への要望							
Please come to class with a positive attitude and be willing to participate using only English. All class instructions will be done in English. Please have an A4 size notebook for assignments and homework.							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
外国語 2（韓国語会話）		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	選択	1単位	15時間
担当教員名						
金 春子						
実務経験のある教員						
授業概要						
韓国語を表記する文字ハングル（偉大な文字）は、1443年朝鮮王朝4代目の世宗大王が、庶民のために学者を集めて創らせた文字である。ハングル文字は子音と母音を組み合わせることができる文字である。韓国語の語順は日本語とほぼ同じで、日本人が学びやすい言語であるといえる。本科目では、このようなハングルを読むために基本文型を学び、簡単な挨拶ややさしい会話ができる知識を身に付けることを目標とする。授業は講義形式で行い、発音練習や会話は二人一組で行う。						
学習到達目標						
知識・理解	①ハングル文字を読むことができる。（DP3） ②韓国語会話を聞くことができる。（DP3）					
思考・判断 ・表現	③韓国語で自己紹介ができる。（DP3） ④ハングル文字を書くことができる。（DP3）					
技能						
関心・意欲 ・態度	⑤韓国語を積極的に話すことができる。（DP3）					
授業形態						
講義	講義形式、会話は二人ずつで行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	金	基礎第1課、2課、3課	ハングル：母音、子音を学ぶ、 会話：あいさつ			
2	金	基礎第4課、5課	ハングル：複合母音、パッチムを学ぶ			
3	金	基礎第6課	ハングル：発音の変化			
4	金	第1課 私は浅井ゆかりです。 第2課 出身はソウルですか？	ハングルを読む練習と会話			
5	金	第3課 図書館ではありません。 第4課 時間がありますか。	ハングルを読む練習と会話			
6	金	第5課 何をしますか。 第6課 貿易会社で働いています。	ハングルを読む練習と会話			
7	金	第7課 服を買います。	ハングルを読む練習と会話			

8	金	まとめ	第1回～第7回で学習した内容の復習					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			70	②③④
	課題		●				20	①
	参加貢献度					●	10	⑤
評価の 特記事項	授業態度不良は10％ダウンする。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
学んだところを復習し、ハングルを覚える。（1時間程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
小テスト終了後、解説します。								
教科書								
基礎から学ぶ「韓国語講座」初級 改訂版、 著者：木内明								
参考図書								
特になし								
備考：履修者への要望								
休まず講義に出席する、特に第一回の授業は必ず参加すること、一回目の授業を欠席すると授業についていけなくなる。講義中は私語を慎む。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
外国語 3（中国語会話）		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	選択	1単位	15時間
担当教員名						
侯 英梅						
実務経験のある教員						
授業概要						
本科目では、中国語の発音、文法解説、作文練習を行う。それにより、ピンイン（中国語発音を表記する記号のこと）が読め、挨拶言葉、基礎的な日常会話を習得し、基礎的な文法を理解し、簡単な意思疎通ができることを目標とする。会話文を通じて、基礎文法と基礎語彙の習得を目指す。授業は講義形式にて行う。						
学習到達目標						
知識・理解	①中国語の漢字、発音、基礎文法の学習を通じて、中国語に対する基礎知識を習得する。（DP3）					
思考・判断 ・表現	②「読む、聞く、話す、書く」を通じて医療人材としての思考力や判断力を高めることができる。（DP3）					
技能	③中国語で自己紹介、簡単なコミュニケーション能力を身につけることができる。（DP3）					
関心・意欲 ・態度	④異文化について意欲的に考える姿勢を身につけることができる。（DP3）					
授業形態						
講義	講義形式で行う					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	侯	発音	母音、子音、声調			
2	侯	你好 (ニーハオ)	挨拶言葉、動詞述語文			
3	侯	我是日本人 (私は日本人です)	動詞述語文、「是」の使い方			
4	侯	我想学习汉语 (中国語を勉強したい)	助動詞「想」、形容詞述語文			
5	侯	2023年5月18日	形容詞述語文、数の数え方、年、月、日、曜日、時間の表現			
6	侯	你家在哪里 (どこにお住まいですか)	名詞述語文、特別疑問文、「在」と「有」の使い分け			
7	侯	你的电话号码是多少？ (電話番号を教えてください)	病院での会話の練習			

8	侯	まとめ	前半：1～7課の内容復習				
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法 \ 評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	小テスト	●				30	①
	期末試験	●	●	●	●	70	①②③④
評価の 特記事項	小テストは授業で勉強した文法や発音についてのものです。全部で2回あります。 最終回講義の後半に期末試験を行います。 小テスト、期末試験を合わせて6割に達しなかった場合、再試験を行います。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>1日目の授業前に、Youtubeの関連発音動画を見ながら1～2時間予習してください。</p> <p>1日目の授業後に、ピンインの発音と文法の復習を2～3時間しっかりと行ってください。</p> <p>2日目の授業の前に、Youtubeの関連例文動画を見ながら2時間予習してください。</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
小テストは実施した後、次回授業の冒頭で解説、講評します。							
教科書							
オリジナルテキスト							
参考図書							
講義の中で示します。（Youtube関連動画などの紹介）							
備考：履修者への要望							
<p>国際化社会の中で、医療現場で外国人と接する機会は増え、外国人患者さんと外国語でコミュニケーションができるのは現場で役立ちます。</p> <p>今期の中国語集中講座はコロナの関係で、対面で授業を行う場合、授業内の発音練習は必要最小限で行います。オンライン授業になった場合、発音練習は普通に行います。新しい言語を覚えるために、たくさんの発音練習が必要なため、授業後に必ずYoutubeの関連発音動画を見ながら、声を出して積極的に練習してください。</p> <p>短期講座ですが、受講者の皆様に中国語の発音と基礎文法を身につけてほしいと期待しております。</p>							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
現代社会の理解		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
蔵本 紗知						
実務経験のある教員						
授業概要						
この授業では社会学の基礎を学びます。自分が向き合っていく「社会」とは何かを、社会学の視点から理解します。授業のはじめに社会学の歴史と社会学の基本を学び、次に「医療と福祉」「監視社会」「新型コロナウイルス」などの身近なテーマを通して、現代社会を分析します。						
学習到達目標						
知識・理解	①身近な社会現象について、社会的に説明することができる。（DP3）					
思考・判断 ・表現	②身近な社会現象について、社会学の枠組みをもとに自分なりの考えを述べることができる。（DP3）					
技能						
関心・意欲 ・態度	③身近な社会現象に興味・関心をもち、問題意識をもって情報を調べ、まとめることができる。（DP3）					
授業形態						
講義	毎回、講義の内容と関連したコメントシートを提出してもらいます。状況によってはオンライン授業に切り替わる可能性があります。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	蔵本	イントロダクション：「社会学」とは何か？	現代社会をどう読み解くか、様々な切り口を紹介する。			
2	蔵本	医療と福祉のゆくえ	近年、格差社会という言葉をよく耳にする。社会格差や経済格差は、健康や福祉に影響を及ぼすのだろうか。社会と医療・福祉との関わりを考える。			
3	蔵本	マスメディアのゆくえ	マスメディアがうつす社会は、現実を忠実に反映しているといえるのだろうか。マスメディアの特性を理解し、メディア・リテラシーについて考える。			
4	蔵本	プライバシーのゆくえ	情報化が進み、自治体や民間企業が個人データ管理することが当たり前になってきた。もはやプライバシーという概念は不要なのだろうか。プライバシーとは何かを知り、価値を考える。			
5	蔵本	AIとロボットのゆくえ	AIは社会に欠かせないものとなってきた。AIは社会構造を変化させるのだろうか。また、AIと人間は共生できるのだろうか。AIと社会のこれからを考える。			
6	蔵本	情報化のゆくえ	テレビを見る人が減り、人々の情報源はインターネットに移り変わってきた。SNSでは政治的なデモがよく見られるようになった。SNSは民主主義を発展させるのだろうか。インターネットと社会の関わりについて考える。			
7	蔵本	新型コロナウイルスと社会のゆくえ	新型コロナウイルスの流行をめぐり、社会はどう変わったのだろうか。また、これからどのように変わりうるのだろうか。ポストコロナの社会について考える。			

8	蔵本	エビローク	講義全体のまとめを行う。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	<div>評価の観点</div> <div>評価方法</div>	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標	
	コメントシートと授業への参加・貢献	●	●		●	30	①②③	
	筆記試験	●	●		●	70	①②③	
評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施します。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>①毎日10分程度、テレビやインターネット、新聞などでニュースに触れてください。その際、社会で起こっている出来事について、講義で学んだキーワードで分析を試みてください。</p> <p>②講義では毎回、コメントシートで記述問題に答えていただきます。講義終了後、まわりの受講生と記述問題について話し合ったり、インターネットや新聞・雑誌・書籍等で関連する事柄について調査を行い、自らの答えを振り返ってください。（30分程度）</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
毎回の授業では、復習も兼ねて前回のコメントシートについて取り上げます。								
教科書								
特になし。								
参考図書								
参考文献は講義中に紹介します。								
備考：履修者への要望								
みなさんがこれから出会い、向き合っていく社会はときに面白く豊かで、ときに厳しく難解なものです。この講義を通して社会を読み解く力を身につけ、社会の中で生き抜く力を養ってほしいです。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生物と環境		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	選択	1単位	15時間
担当教員名						
森谷 和司						
実務経験のある教員						
授業概要						
地球上に誕生した生物は、環境との相互作用で多様な生物に進化し、それらは互いに関連し合って生態系を構築している。私たちヒトがどのように環境に適応し生活しているかを学ぶとともに、私たちの生活が生態系のバランスと生物の多様性によって支えられていることに気付き、その恵みを持続させることの重要性を学ぶ。また、生物の多様性や生態系のバランスを保全し、地球の環境を維持するといった視点をもって環境問題を考える。						
学習到達目標						
知識・理解	①地球上には多様な生物が生存し、生態系内で生物群集として互いに関連し共存して生きている。その成り立ちと仕組みについて説明することができる。(DP3) ②ヒトがどのように環境からの刺激を受け取り、応答し、環境に適応して生活しているかについて説明することができる。(DP3)					
思考・判断 ・表現	③生態系のバランスと生物多様性の保持の重要性を、科学的に思考し判断することができる。(DP3) ④ヒトが外界からの刺激に応答し、環境に適応して生活していることの重要性について科学的に思考することができる。(DP3)					
技能						
関心・意欲 ・態度	⑤生態系と生物多様性の保持の重要性を認識し、持続可能な社会の実現に向かって主体的に考え、判断し、行動しようとする事ができる。(DP3) ⑥自らの体で起こる刺激への応答、環境への適応について、課題をもって主体的に考え、判断することができる。(DP3)					
授業形態						
講義	配付資料とスライドを用いた講義を行い、グループワークも導入する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	森谷	地球上の生命	生命の起源とその歴史、生物と環境の相互作用について学修する。			
2	森谷	地球の環境を知る－生態系－	生態系とニッチ、食物連鎖による物質とエネルギーの流れなどについて学修する。			
3	森谷	地球の環境を知る－ヒトと様々な生物との関わり－	地球上で、ヒトは多様な生物と関わり、恩恵を受けて生活していることについて学修する。			
4	森谷	人体の環境応答①	人体の外界からの刺激の受容と伝導の仕組みについて学修する。			
5	森谷	人体の環境応答②	人体の外界からの刺激への応答のしくみについて学修する。			
6	西郷	植物の環境応答	植物の外界からの刺激への応答のしくみについて学修する。			

7	森谷	地球環境問題について知る、考える	地球環境問題の今日的課題について理解し、グループ・ディスカッションを行う。					
8	森谷	地球環境を守る・まとめ	地球環境を守るという視点で、自分たちにできることとは何かを考える。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			50	①②③④
	課題		●	●		●	30	①②③④⑤⑥
	授業の振り返り					●	20	⑤⑥
評価の 特記事項	課題、授業の振り返りは授業ごとに評価する。 全評価の合計が基準(60%)未満の場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（予習）次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。（30分程度） （復習）授業ごとに学修したことを振り返り、知識の整理、復習に務めること。（30分程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
毎回授業の終わりに簡単な課題を提示し、コメントペーパーを回収する。次回の授業の冒頭で課題の講評やコメントペーパーの質問対応等を行う。								
教科書								
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。								
参考図書								
参考文献は講義の中で紹介する。								
備考：履修者への要望								
今までに学んだ生物の知識を深め、新たな見方・考え方を身に付け、身近な自然や新聞等の記事にも関心をもってもらいたい。そして、間違った情報に流されず、正しく科学的に考え判断し、持続可能な社会の実現のため、主体的に行動できるようになってもらいたい。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
教養演習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
松村 仁実						
実務経験のある教員						
松村 仁実:医療機関で理学療法士としての勤務経験のある教員が、理学療法対象者や多職種と関わる上で医療従事者として必要な接遇、コミュニケーション、社会人基礎力など講義や演習等を通して教授する。						
授業概要						
リハビリテーションチームの一員として理学療法士は、様々な社会的背景の患者を対象とするため、患者一人一人の背景についての理解を含めた全人的な対応が求められている。そのため、広い教養を持った感性豊かな人間性、社会ルールについての理解、コミュニケーション力、問題発見能力、問題解決能力等が必要であり、これらの力が専門的な知識・技術を支える。本科目では、理学療法士に求められる力の基礎的事項を講義や演習を通して学修する。						
学習到達目標						
知識・理解	①医療従事者として必要な教養、接遇、コミュニケーション等について理解する。(DP3, 4)					
思考・判断 ・表現	②医療従事者に求められる力について考え、口頭や文章にて説明することができる。(DP3, 4)					
技能	③医療従事者として必要なスキルを身につけるために、自身の課題を把握し改善することができる。ルールに従い、課題レポートを作成することができる。(DP3, 4)					
関心・意欲 ・態度	④医療従事者として必要な基礎的な接遇・マナーを理解し、自身の問題を解決するための行動をとることができる。また、信頼関係を築くための行動をとることができる。(DP3, 4)					
授業形態						
演習	オンラインを用いた課題の提出、グループディスカッションを取り入れたアクティブ・ラーニングや演習が中心です。一部、資料を用いた講義を行います。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	松村	「大学で何を学ぶか」を考える	・オリエンテーション ・愛知医療学院短期大学での学びを考える。			
2	松村	医療人に必要な「教養」を考える	・医療従事者に必要な「教養」を考える ・大学で学ぶ、教養を身につけるための基礎的事項を学修する ・開講科目と理学療法との関連について考える（カリキュラムマップ、カリキュラムツリーとの関連）			
3-5	松村	接遇・コミュニケーション	・社会人基礎力 ・医療従事者、社会人に求められる接遇の基礎 態度 言葉遣いなどを考え、学修する ・医療従事者、社会人として必要なコミュニケーションスキルを学修する ・医療従事者、社会人としての基本的な接遇態度について学修する ・コミュニケーションの導入である第一印象を理解し、適切なコミュニケーションについて学修する			
6	松村	マナー・リスク管理	・SNSのマナー、ネットリテラシー、個人情報保護について学修する ・臨床実習学生として、情報管理の重要性を学修する			
7	松村	読む、理解する(論文にふれる)	論文の構成、読み方を学修する			
8	松村	学術論文を探し、実際に読む。レポートの書き方を学ぶ。	テーマに沿って必要な情報の収集を行う 簡潔にまとめレポートを作成する			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	課題		●	●	●		50	①②③
	レポート		●	●	●	●	40	①②③④
	授業態度					●	10	④
評価の 特記事項	<p>課題については、授業中に提示します。期限内に提出されない場合は0点とします。授業態度不良の場合や正当な理由なき欠席・遅刻は評価点から10%減点します。</p> <p>レポートのテーマについては、授業中に発表します。そのテーマに沿って取り組んでください。提出期日にレポートが提出されない場合は0点となります。</p> <p>なお、すべての評価方法の合計点数が満たない場合でも、再試験は実施しません。</p>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>事前に提示された課題があった場合には確認し、不明点を明らかにしておく。授業中に出された課題を実施し、自己を振り返る。さらに、各回で学んだことを実践できるよう心掛け、医療人また社会人としての素養を身につけて下さい。加えて、本学のアドミッションポリシーとディプロマポリシーをよく理解し、自身の成長に繋がる行動を実践してください。</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
口頭もしくは書面にて行います。								
教科書								
なし								
参考図書								
随時提示します								
備考：履修者への要望								
<p>医療人を目指す学生として、より良い医療人になれるよう、考え、行動してください。</p> <p>教養を身につける為には広い視点で世の中の情勢を知ろうとする必要があります。講義時間以外の生活でも、幅広い方法でアンテナを張り、様々な情報を得られるように取り組みしましょう。</p>								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学Ⅰ		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
清島 大資						
実務経験のある教員						
清島大資：医学部解剖学教室に所属する教員が、正常構造をそれぞれの働きと関連させて系統的に理解してもらうため、人体の構造と機能に関して講義を行う。						
授業概要						
医療専門職を目指す者にとっては、人体の構造と機能に関して高度かつ正確な知識が必要とされる。すべての学習の前提となる人体構造の基本的概念・事項を習得し、人体の構造と機能を理解することで人の全体像をつかむ。本科目では、骨格系・筋系・末梢神経系を部位ごとに学習する。授業は、講義形式により実施し、予習・復習は、授業プリントによるアクティブラーニングを推奨する。						
学習到達目標						
知識・理解	①人体を構成する骨格系や筋系や末梢神経系の肉眼的ならびに組織学的な正常構造をそれぞれの働きと関連させて系統的に理解し、説明できる。(DP1)					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	アクティブラーニング（授業プリント）と補足資料、スライドによる講義を中心に行う。 骨・関節と靱帯・筋については、Google Formsを利用した小テストを行い、学習習熟度を確認する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	清島	解剖学総論	解剖学とは、人体の構造、器官系、細胞と組織			
2	清島	組織学総論	上皮組織、結合組織、骨組織、軟骨組織、血液、筋組織、神経組織			
3	清島	骨格総論	骨の構造と発生、広義の関節、狭義の関節			
4	清島	筋学総論	骨格筋の構造・機能、神経、補助装置、筋の作用と運動			
5	清島	上肢の骨格	上肢帯と自由上肢の骨の名称と形態、関節			
6	清島	上肢の筋	上肢帯と上腕と前腕と手の筋			
7	清島	末梢神経 1	上肢の神経、頭頸部の神経			
8	清島	下肢の骨格	下肢帯と自由下肢の骨の名称と形態、関節			
9	清島	下肢の筋	下肢帯と大腿と下腿と足の筋			
10	清島	末梢神経 2	下肢の神経、体幹の神経			

11	清島	体幹の骨格	脊柱と胸郭を構成する骨の名称と形態、関節					
12	清島	体幹の筋	胸壁筋、腹壁筋、背筋、会陰筋、体幹の運動					
13	清島	頭蓋	頭蓋（神経頭蓋・顔面頭蓋）の骨の名称と形態、関節					
14	清島	頭頸部の筋	頭部の筋、頸部の筋、頭頸部の運動					
15	清島	発生学総論	人体の発生					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●				90	①
	小テスト		●				10	①
評価の 特記事項	点数が全体の6割以下の場合、再試験を行うことがある。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
シラバスに沿って講義を進めるので、その日の講義項目について予習をして講義に臨むこと（30分程度）。予習で理解しにくかったことを講義で解決するように意識して受講する。講義後は必ずその日の内容をまとめ、知識の整理、復習に努めること（30分程度）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
科目試験後、全体へのフィードバックの時間を設定する。								
教科書								
「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」（医学書院）・「骨学のすゝめ」（南江堂）・「骨格筋の形と触察法」（大峰閣）・「機能解剖で斬る神経系疾患第2版」（メディカルプレス）								
参考図書								
「臨床解剖学サブノート」（愛知医科大学解剖学講座）								
備考：履修者への要望								
解剖学は器官系に分けて講義されるが、これらの器官系は互いに関連し合って機能し、生命活動に働いている。したがって学生は学習した事柄をばらばらに覚えるのではなく、自らがつなぎ合わせ、有機的に関連させて理解する努力を怠ってはならない。解剖学の学習では解剖学名を暗記しなくてはならないが、大切なことは人体の構造をその機能と関連させて理解することであり、解剖学名の暗記は必要最小限にとどめながら講義をする。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学Ⅱ		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
中野 隆						
実務経験のある教員						
中野 隆：医学部において、解剖学とくに臨床医学の理解に重要な臨床解剖学の教育と研究に携わってきた。リハビリテーション医学に必須の内容に的を絞った講義を行う。						
授業概要						
解剖学用語の単なる暗記ではなく、解剖学的知識をリハビリテーション医学の理解に応用できることを主眼とした講義を行う。						
学習到達目標						
知識・理解	①循環器系、内臓系等の正常構造と機能について、臨床医学とくに病態生理の理解に応用できる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	②解剖学の知識を応用して、循環器および内臓疾患の病態を説明できる。(DP1)					
技能						
関心・意欲 ・態度	③循環器系、内臓系疾患のメカニズムについて、臨床解剖学的視点で考察できる。(DP1)					
授業形態						
講義	学生自らの思考過程を重視し、理解を深めるように講義を進める。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	中野	循環器系	心臓、大循環			
2	中野	循環器系	小循環、リンパ系			
3	中野	消化器系	口腔、食道			
4	中野	消化器系	胃、小腸、大腸			
5	中野	消化器系	肝臓、門脈系			
6	中野	消化器系	胆路系、膵臓			
7	中野	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔、咽頭			
8	中野	呼吸器系	喉頭、嚥下反射			
9	中野	呼吸器系	気管、気管支、肺			
10	中野	泌尿器系	腎臓			

11	中野	泌尿器系	尿管、膀胱、尿道、排尿反射					
12	中野	男性生殖器系	精巣、精巣上体、副生殖腺					
13	中野	女性生殖器系	子宮、卵巣、卵管、外陰部					
14	中野	感覚器	視覚器、視覚伝導路					
15	中野	感覚器	平衡聴器器、皮膚					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			90	①②
	受講態度					●	10	③
評価の 特記事項	全ての評価方法を合計した評点が60点未満の場合、再試験を行う。受講態度が不良の場合は、減点の対象とする。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
講義内容について教科書を用いて復習し、解剖学あるいは他教科において学んだ知識を有機的に結び付けて理解を深める。（1コマにつき30分程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
試験内容について質問を受け付け、必要に応じて解説する。								
教科書								
「臨床解剖学サブノート」、「機能解剖で斬る神経系疾患第2版」（メディカルプレス）、「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」（医学書院）、「骨学のすゝめ」（南江堂）								
参考図書								
備考：履修者への要望								
知識は実際に使ってみなければ身に付かない。断片的な知識の暗記ではなく、知識を自ら応用して問題を解決する学習姿勢が必須である。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学Ⅲ		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
中野 隆						
実務経験のある教員						
中野 隆：医学部において、解剖学とくに臨床医学の理解に重要な臨床解剖学の教育と研究に携わってきた。リハビリテーション医学に必須の内容に的を絞った講義を行う。						
授業概要						
生体の正常構造と機能を理解し、臨床医学とくにリハビリテーション医学において重要な中枢神経徴候に直結する解剖学的知識を学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①中枢神経系の正常構造と機能について、臨床医学とくに中枢神経徴候の理解に応用できる。(DP 1)					
思考・判断 ・表現	②解剖学的知識を応用して、中枢神経徴候の説明ができる。(DP 1)					
技能						
関心・意欲 ・態度	③中枢神経徴候のメカニズムについて、臨床解剖学的視点で自ら考察できる。(DP2)					
授業形態						
講義	学生自らの思考過程を重視し、理解を深めるように講義を進める。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	中野	神経系総論	中枢神経系と末梢神経系の概観、組織構造			
2	中野	中枢神経系総論	脳室系、髄膜、脳脊髄液			
3	中野	脊髄	脊髄と脊髄神経			
4	中野	脊髄	脊髄の構造			
5	中野	脳幹	神経核、脳幹網様体、中脳			
6	中野	脳幹	橋、延髄			
7	中野	小脳	小脳皮質、小脳髄質、小脳核、小脳の機能、小脳症状			
8	中野	間脳	視床、視床下部、下垂体、松果体、視床下核			
9	中野	大脳	大脳の外景、内景（大脳皮質、大脳髄質、大脳核、内包）			
10	中野	大脳	大脳皮質の機能局在			

11	中野	中枢神経系の脈管	中硬膜動脈、静脈洞、脳の動脈、脊髄の動脈					
12	中野	伝導路	知覚性伝導路					
13	中野	伝導路	知覚性伝導路					
14	中野	伝導路	錐体路と錐体外路系					
15	中野	伝導路	錐体路と錐体外路系					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			90	①②
	受講態度					●	10	③
評価の 特記事項	<p>全ての評価方法を合計した評点が60点未満の場合、再試験を行う。受講態度が不良の場合は、減点の対象とする。</p> <p>本試験で合格点に満たなかった者は、再試験受験の要件として、本試験問題の解説を作成し、提出すること。指定する期日までに提出できない場合は、再試験受験の要件を満たさないとする。</p> <p>内容が不十分の場合は、再提出を求める。それでも不足がある場合は、再試験受験の要件を満たさないと判断する。</p>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
講義内容について教科書を用いて復習し、解剖学あるいは他教科において学んだ知識を有機的に結び付けて理解する。（1コマにつき30分程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
試験内容について質問を受け付け、必要に応じて解説する。								
教科書								
「臨床解剖学サブノート」、「機能解剖で斬る神経系疾患第2版」（メディカルプレス）、「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」（医学書院）、「骨学のすゝめ」（南江堂）								
参考図書								
備考：履修者への要望								
知識は実際に使ってみなければ身に付かない。断片的な知識の暗記ではなく、知識を自ら応用して問題を解決する学習姿勢が必須である。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学実習		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
山田 南欧美、外倉 由之、木山 博資、木村 菜穂子、松村 仁実、清水 一輝、渡邊 豊明、廣渡 洋史、齊藤 誠、清島 大資						
実務経験のある教員						
外倉 由之、齊藤 誠、山田 南欧美：理学療法士・作業療法士として臨床経験のある教員が、骨格標本を使って筋骨格系の解剖学的知識を講義する。						
授業概要						
人体の構造の理解は、解剖学成書による知識だけでは不十分で、構造を実際に三次元的に理解し、その触感、重さ、硬さなどを体験することによって知識として身に付くものである。本科目では、骨格の形態、筋肉の形態、その他人体の構造を実際に見学することによって解剖学的知識を深め、確実な知識とすることを目的とする。基本的には、1年次に骨格標本を使って筋骨格系を学ぶと共に、解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容についてより実践形式で学ぶ。また、1年生後期と2年次に集中講義形式で、解剖遺体の見学を行う。（詳細については、授業初回に案内する。）						
学習到達目標						
知識・理解	①骨格構造を三次元的に理解できる。（DP1、2） ②筋の構造や走行、働きを三次元的に理解できる。（DP1、2） ③人体の臓器・神経・血管系その他の構造、配置などを三次元的に理解できる。（DP1、2）					
思考・判断 ・表現	④骨格構造を三次元的に説明できる。（DP1、2） ⑤筋の構造や走行、働きを三次元的に説明できる。（DP1、2） ⑥人体の臓器・神経・血管系その他の構造、配置などを三次元的に説明できる。（DP1、2）					
技能						
関心・意欲 ・態度	⑦解剖学実習を通して命の尊さを実感できる。（DP3、4）					
授業形態						
実習	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学ぶ知識と結び付けるため、骨格標本を使って実際の筋骨格系の構造を三次元的に学ぶと共に、骨デッサンを行いながら構造のイメージ化を行う。また、神経系・内臓系の構造について、模型・参考書等を用いて三次元的に学ぶ。基本的には骨標本等を用いた実習形式を取るが、昨今の状況を鑑み、必要に応じて動画配信等の遠隔授業を展開する場合がある。その場合は、事前にその方法を通知する。人体解剖遺体見学（解剖見学実習）を通して解剖学講義で学習した知識の確認および骨格構造・筋構造・人体の臓器・神経・血管系その他の構造を確認する。ただし、昨今の状況により解剖見学実習を実施できなかった場合、解剖見学実習に代わる課題を提示することがある。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	齊藤	オリエンテーション 解剖学を学ぶ意味と命の尊厳	授業概要を理解する 医療者として解剖学を学ぶ上での心構えを学ぶ			
2	外倉	骨格・筋の基本構造と役割	骨格・筋の基本構造と役割を学ぶ			
3	齊藤	呼吸器・循環器・消化器・泌尿器の基本構造と役割	呼吸器・循環器・消化器・泌尿器の基本構造と役割を学ぶ			
4	外倉	頭頸部・脊柱・体幹の骨・関節	頭頸部・脊柱・体幹の主要骨格・関節の模型確認、デッサンを行う			
5	齊藤	上肢・肩甲帯の骨・関節	上肢・肩甲帯の主要骨格・関節の模型確認、デッサンを行う			
6	外倉	下肢・骨盤帯の骨・関節	下肢・骨盤帯の主要骨格・関節の模型確認・デッサンを行う			
7	齊藤	上肢・体幹の筋	上肢・体幹の筋の模型確認			
8	外倉	下肢の筋	下肢の筋の模型確認			
9	齊藤	呼吸器・循環器系	呼吸器・循環器系の模型確認			

10	外倉	消化器・泌尿器系	消化器・循環器系の模型確認					
11	齊藤	口頭試問	骨・関節，筋・各内臓器官の構造について口頭試問を実施する					
12	外倉	口頭試問	骨・関節，筋・各内臓器官の構造について口頭試問を実施する					
13	木村・山田・松村・齊藤・渡邊・清水・外倉・廣渡・清島	解剖見学実習 (1年次後期)	解剖見学実習を通して骨格構造を確認する					
14	木村・山田・松村・齊藤・渡邊・清水・外倉・廣渡・清島	解剖見学実習 (2年次)	解剖見学実習を通して筋構造を確認する					
15	木山・木村・山田・松村・齊藤・渡邊・清水・外倉・廣渡・清島	解剖見学実習 (2年次)	解剖見学実習を通して人体の臓器・神経・血管系その他の構造を確認する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●				50	①②③
	口頭試問（1年次前期）		●	●		●	20	①～⑦
	口頭試問（1年次後期）		●	●		●	10	①～⑦
	レポート（1年次解剖見学実習）		●	●		●	10	①～⑦
	レポート（2年次解剖見学実習）		●	●		●	10	①～⑦
評価の 特記事項	筆記試験は1年次前期に行う。筆記試験で6割に満たなかった者を、再試験対象とする。口頭試問は1年次前期と後期の2回実施する。それぞれの口頭試問で6割に満たなかった者は、再度口頭試問を実施する（前期後期それぞれ1回限り）。最終的に筆記試験と口頭試問それぞれで6割に満たなかった者は、翌年に解剖学実習（1年）を再履修する必要がある。 レポートは、解剖見学実習に行く際に作成し、提出のうえ、評価を行う。 解剖見学実習は1年次後期と2年次に計2回実施する予定であり、それぞれの解剖見学実習の参加およびレポート提出を本科目単位認定の必須条件とする。2年次の解剖見学実習は、1年次に実施する筆記試験・口頭試問が6割に満たない場合、参加を認めない。なお、別途開講される解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの成績不良者は解剖見学実習に参加できない場合がある。また、解剖見学実習に関するガイダンスの出席状況および解剖見学実習に関する課題等の提出状況によっては、解剖見学実習に参加できない場合がある。状況により、解剖見学実習を実施できない場合、代わりの課題を提示することがある。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
初回授業にて授業の進め方の詳細を提示するので、その進め方に沿った予習・復習を行うこと。（約2時間）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
授業中に生じた疑問・質問について、毎授業後にGoogleFormで回収し、次回授業時に回答をする。口頭試問・筆記試験に関する疑問点・質問は随時受け付ける。解剖見学実習レポートのフィードバックについては、解剖見学実習ガイダンス時に説明する。								
教科書								
解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにて使用する教科書に準ずる。								
参考図書								
解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにて使用する参考図書に準ずる。								
備考：履修者への要望								
解剖学を含めて医学を学ぶ者は、その知識や技術が歴史的に多くの命の上に成り立っていることを自覚する必要がある。その一つとして、骨格標本とそれを提供してくれた故人に対して感謝の気持ちと、命に対する尊厳の意を持って受講することを義務とする。将来、人の命を預かる職域に就く者としての当然の心構えと態度、積極性を求める。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生理学Ⅰ		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
宮津 真寿美						
実務経験のある教員						
宮津 真寿美：医療機関等で実務経験のある理学療法士が、動物性器官において、我々の体がどのように機能しているのかを講義する。						
授業概要						
生理学とはどのような仕組みで私達の体が正常に機能しているのかを追求する学問である。神経、筋肉、心臓、肺、肝臓、腎臓を始めとして人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調節されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職を目指すにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。生理学Ⅰでは、動物性器官において、我々の体がどのように機能しているのかを学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①動物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	②器官内、器官間の調節機能が説明できる。（DP1）					
技能						
関心・意欲 ・態度	③学修ポイントを理解し、教科書の内容を予習できる。（DP1、2、5）					
授業形態						
講義	本科目は、授業時間外に各自で教科書を予習後、授業を受講する反転授業の形態で行います。授業時間では、予習内容に関する質問を受け、解説し、教科書の内容を理解し、そのあと、学修ポイントに沿って、スライドを用いたまとめの講義をします。また、授業の始めに、前回の授業内容の復習小テストを行います。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	宮津	オリエンテーション 生理学とは	授業オリエンテーション 生理学とは、細胞・組織・器官、生体の機能、生体の特性（ホメオスタシス、刺激－興奮、刺激－適応） ：教科書 第1章			
2	宮津	オリエンテーション 生理学とは	授業オリエンテーション 生理学とは、細胞・組織・器官、生体の機能、生体の特性（ホメオスタシス、刺激－興奮、刺激－適応） ：教科書 第1章			
3	宮津	筋収縮	骨格筋、骨格筋の構造、収縮の仕組み ：教科書 第11章			
4	宮津	筋収縮	収縮の仕組み ：教科書 第11章			
5	宮津	筋収縮	心筋と平滑筋 ：教科書 第11章			
6	宮津	神経系	神経系の分類、ニューロンの興奮 ：教科書 第12章			
7	宮津	神経系	シナプス、グリア細胞とその機能 ：教科書 第12章			
8	宮津	自律神経	末梢自律神経系の構成、自律神経系の特徴、自律神経系の伝達物質と受容体 ：教科書 第13章			
9	宮津	自律神経	自律神経系による内臓支配、自律反射、脳幹・視床下部、概日リズム ：教科書 第13章			

10	宮津	脳	ヒトの脳の全体像、大脳、記憶、言語、睡眠と覚醒、情動 ：教科書 第14章					
11	宮津	感覚	感覚とは、視覚、聴覚、平衡感覚 ：教科書 第15章					
12	宮津	感覚	体性感覚、内蔵感覚、味覚、臭覚 ：教科書 第15章					
13	宮津	運動の調節	運動に関する脳部位、運動神経と運動単位、脊髄、脳幹 ：教科書 第16章					
14	宮津	運動の調節、骨	大脳皮質、運動学習と自動運動（大脳基底核と小脳）、運動関連部位の接続 ：教科書 第16章 骨の構造、骨の成長とモデリング、骨のカルシウム代謝とリモデリング、関節 ：教科書 第17章					
15	宮津	まとめ	授業のまとめ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			80	①②
	予習報告		●	●		●	10	①②③
	復習小テスト		●	●		●	10	①②③
評価の 特記事項	・予習報告（10％）は、基準を定めて評価する。 ・すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（予習）配布した予習ガイドを参考に、教科書を読み、内容を理解し、予習内容を報告する。約2～3時間 （復習）授業スライドを理解し、復習する。学習成果を確認するため、先回授業に関する復習小テストを実施する。約1～2時間 ＊授業時間を含む								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（試験、小テスト、予習）に対する疑問点や質問は、随時受け付ける。 筆記試験は返却しないが、希望があれば研究室での閲覧が可能である。								
教科書								
「やさしい生理学」南江堂 「3ステップ 解剖生理学」南江堂								
参考図書								
「シンプル生理学」（南江堂）、「生理学テキスト」文光堂、「コスタンゾ明解生理学」エルゼビア・ジャパン、「標準理療法学・作業療法学 生理学」医学書院、「トートラ人体解剖生理学」丸善株式会社、「初めの一步のイラスト生理学」他、多数の生理学の成書が参考になる。								
備考：履修者への要望								
生理学の知識を基に、次の段階として、疾患学、治療学と進んでいく。つまり、生理学的知識は、理療療法・作業療法を学ぶ上での土台となる。その土台を堅固なものにするため、各自で予習復習を行い、確実な知識となるように努めてほしい。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生理学Ⅱ		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
宮津 真寿美						
実務経験のある教員						
宮津 真寿美：医療機関等で実務経験のある理学療法士が、植物性器官において、我々の体がどのように機能しているのかを講義する。						
授業概要						
生理学とはどのような仕組みで私達の体が正常に機能しているのかを追求する学問である。神経、筋肉、心臓、肺、肝臓、腎臓を始めとして人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調節されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職を目指すにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。生理学Ⅱでは、植物性器官において、我々の体がどのように機能しているのかを学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①植物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	②器官内、器官間の調節機能が説明できる。（DP1）					
技能						
関心・意欲 ・態度	③学修ポイントを理解し、教科書の内容が予習できる。（DP1、2、5）					
授業形態						
講義	本科目は、授業時間外に各自で教科書を予習後、授業を受講する反転授業の形態で行います。授業時間では、予習内容に関する質問を受け、解説し、教科書の内容を理解し、そのあと、学修ポイントに沿って、スライドを用いたまとめの講義をします。また、授業の始めに、前回の授業内容の復習小テストを行います。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	宮津	血液と体液	体液の区分と組成、血液の成分と血液量、血液細胞とその機能、骨髄、止血機構、血液型 ：教科書 第2章			
2	宮津	循環	循環の概念、心臓の役割 ：教科書 第3章			
3	宮津	循環	心電図、心臓の血液拍出の仕組み ：教科書第3章			
4	宮津	循環	血管系の役割、動脈圧の調節 ：教科書 第3章			
5	宮津	呼吸	呼吸器の構成、呼息と吸息、 ：教科書 第4章			
6	宮津	呼吸	肺容量、肺泡換気と肺泡内ガス組成、血液によるガス運搬、血液のpH緩衝作用 ：教科書 第4章			
7	宮津	呼吸	呼吸中枢、呼吸の化学的調節、低酸素症 ：教科書 第4章			
8	宮津	消化と吸収	消化器系の構成、消化と吸収、消化管の微細構造、消化管壁の筋肉の働き、消化液分泌、神経とホルモンによる消化管機能の調節、消化器系の血液循環の特徴 ：教科書 第5章			
9	宮津	消化と吸収	食物の流れの時間経過、口腔内消化、胃内消化、小腸内消化と吸収、大腸内消化と吸収、食欲の調節 ：教科書 第5章			

10	宮津	尿の生成と排泄	腎の構造と機能、糸球体における濾過、尿細管における再吸収と分泌、尿の濃縮と希釈 ：教科書 第6章					
11	宮津	尿の生成と排泄	腎血流量とその調節、クリアランスによる腎機能の測定、腎における酸と塩基の調節、体液の調節、尿の組成と排尿 ：教科書 第6章					
12	宮津	内分泌	内分泌一般、内分泌器官とホルモンの作用 ：教科書 第9章					
13	宮津	代謝	エネルギーのバランス、代謝量、代謝量の測定 ：教科書 第7章					
14	宮津	体温	体温調節の基礎、内因性に体温レベルを決定する因子、運動時の体温調節 ：教科書 第8章					
15	宮津	まとめ	授業のまとめ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			80	①②
	予習報告		●	●		●	10	①②③
	復習小テスト		●	●		●	10	①②③
評価の特記事項		・予習報告（10％）は、基準を定めて評価する。 ・すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（予習）配布した予習ガイドを参考に、教科書を読み、内容を理解し、予習内容を報告する。約2～3時間 （復習）授業スライドを理解し、復習する。学習成果を確認するため、先回授業に関する復習小テストを実施する。約1～2時間 ＊授業時間を含む								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（試験、小テスト、予習）に対する疑問点や質問は、随時受け付ける。 筆記試験は返却しないが、希望があれば研究室での閲覧が可能である								
教科書								
「やさしい生理学」南江堂 「3ステップ 解剖生理学」南江堂								
参考図書								
「シンプル生理学」（南江堂）、「生理学テキスト」文光堂、「コスタンゾ明解生理学」エルゼビア・ジャパン、「標準理学療法学・作業療法学 生理学」医学書院、「トートラ人体解剖生理学」丸善株式会社、「初めの一步のイラスト生理学」 他、多数の生理学の成書が参考になる。								
備考：履修者への要望								
生理学の知識を基に、次の段階として、疾患学、治療学と進んでいく。つまり、生理学的知識は、理学療法・作業療法を学ぶ上での土台となる。その土台を堅固なものにするため、各自で予習復習を行い、確実な知識となるように努めてほしい。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生理学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	45時間
担当教員名						
宮津 真寿美、齊藤 誠、藤本 大介、外倉 由之、加藤 真夕美						
実務経験のある教員						
宮津 真寿美、齊藤 誠、藤本大介、外倉 由之、加藤 真夕美：医療機関で理学療法士・作業療法士の実務経験のある教員が、正常な人体の構造や機能について改めて理解し、説明できるよう教授する。						
授業概要						
生理学実習では、生理学で学修した知識を実習によって再確認し、実習結果を解釈・考察する。具体的には、グループで、実習課題に關しての基礎的知識を再習得し、基本的な人体の反応を観察する実習課題などに取り組み、文献などを踏まえて、実習結果、考察をレポートとしてまとめる。さらに、最後に、実習課題の結果や考察の発表・討論を行う。これらを通し、正常な人体の構造や機能について改めて理解し、説明できることを目標としている。						
学習到達目標						
知識・理解	①実習課題に關する基本的知識が説明できる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	②実習から得られた事実に対して、資料や文献を調査し、内容や結果を理解して考察し、要約して他人に説明できる。（DP1、2）					
技能						
関心・意欲 ・態度	③実習内容をわかりやすくまとめ、意見を主張でき、討論ができる。（DP1、2、5）					
授業形態						
実習	グループで、実習課題に取り組み、レポートとしてまとめる。また、実習課題に關する発表、討論を行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	オリエンテーション	コースの概要、実習課題①～⑩の説明、レポートの書き方			
2	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題① （各グループで、実習課題をローテーションする。）			
3	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題① （各グループで、実習課題をローテーションする。）			
4	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題② （各グループで、実習課題をローテーションする。）			
5	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題② （各グループで、実習課題をローテーションする。）			
6	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題③ （各グループで、実習課題をローテーションする。）			
7	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題③ （各グループで、実習課題をローテーションする。）			
8	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題④ （各グループで、実習課題をローテーションする。）			
9	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題④ （各グループで、実習課題をローテーションする。）			
10	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題⑤（各グループで、実習課題をローテーションする。）			

11	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題⑤（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
12	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題⑥（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
13	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題⑥（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
14	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題⑦（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
15	宮津、齊藤、外倉、 藤本、加藤	実習	実習課題⑦（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	事前学習レポート		●				20	①
	実習レポート		●	●		●	40	①②③
	発表		●	●		●	40	①②③
評価の 特記事項	レポート、発表ともに、グループで評価する。 レポート、発表の評価点は、授業で示す。 授業態度が悪い場合（正当な理由なしの欠席や遅刻を含む）、個人の点数を1～100点の間で減点する。 なお、合格点に満たない場合でも、再試験は実施しない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前学習として、各課題ごとに1～3時間程度必要である。実習レポートの作成、発表準備は、授業時間内でできない分は授業時間外で行う。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポート・発表内容に関して教員とディスカッションする。 質問や疑問は、連絡の上、授業時間外でも受け付ける。								
教科書								
なし。適宜資料を配布する。								
参考図書								
「やさしい生理学 南江堂」他多くの生理学の成書があり、参考になる。								
備考：履修者への要望								
グループで課題に取り組むため、協力して取り組み、情報共有するようにしてほしい。 グループメンバーに迷惑になるので、正当な理由なき欠席、遅刻は、厳禁である。 また、レポートの提出は期限を厳守すること。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学総論		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
廣渡 洋史						
実務経験のある教員						
廣渡 洋史：医療機関で作業療法士として勤務した教員が、運動力学や運動学の理解に必要な基礎知識について講義する。						
授業概要						
本講義は理学療法学、作業療法学を学ぶ上で必要不可欠な専門用語を習得する。また、運動力学や運動学の理解に必要な基礎知識について解説する。具体的な内容は下記の通りだが、理学療法・作業療法国家試験出題基準 3. 運動学 A. 総論に準じた内容を扱う。						
学習到達目標						
知識・理解	①身体運動のしくみが説明できる。(DP1, DP2) ②骨、神経、筋、関節に関する基礎的な専門用語を正しく理解し、使用できる。(DP1, DP2)					
思考・判断 ・表現	③運動力学の基礎を把握し、単純な力学モデルであれば運動によって生じる力や重心位置などを求めることができる。(DP1, DP2)					
技能						
関心・意欲 ・態度	④身体の運動に関する興味関心を持つことができる (DP2)					
授業形態						
講義	プリントを中心に進め、適宜テキストを参照して講義を行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	廣渡	オリエンテーション 運動学という学問の意義	講義に関するオリエンテーションを行う。 運動学がリハビリテーションに与える意義を理解する。			
2	廣渡	運動にかかわる基本的用語の理解	運動方向、面と軸など理学療法学、作業療法学を学ぶ上で必要となる運動学的用語を説明し、使用することができるようになる。			
3	廣渡	生体力学の基礎 (運動法則、力の合成・分解)	運動法則、力の合成・分解などについて説明し、生体力学の基礎を理解する。			
4	廣渡	生体力学の基礎 (モーメント、重心、滑車)	モーメント、重心、滑車などについて説明し、生体力学の基礎を理解する。 教科書			
5	廣渡	生体力学の基礎 (関節運動とてこ)	関節運動とてこなどについて説明し、生体力学の基礎を理解する。 教科書			
6	廣渡	生体力学の基礎 (仕事、まとめ)	仕事などについて説明し、生体力学の基礎を理解する。練習問題が解けるようになる。 教科書			
7	廣渡	骨と関節の役割①	骨と関節の役割を説明し、関節の構造や関節の種類を理解する。			
8	廣渡	骨と関節の役割②	骨と関節の役割を説明し、関節の構造や関節の種類を理解する。			

9	廣渡	骨格筋の役割①	骨格筋の役割について説明し、筋収縮、弛緩の基本的性質を理解する。					
10	廣渡	骨格筋の役割②	筋線維の種類、二関節筋、運動単位など筋の構造と機能について説明し、運動の種類によって筋の構造が異なることを理解する。					
11	廣渡	神経の役割	神経の役割、筋紡錘やゴルジ腱器官、反射などについて説明し、運動の中樞神経機構について理解する。					
12	廣渡	感覚器の構造と機能	感覚の性質・分類などについて説明し、感覚受容器の機能について理解する。					
13	廣渡	呼吸・循環	呼吸器、血液と循環などについて説明し、それぞれの機能について理解する。					
14	廣渡	運動学の用語（応用）	運動学に関連する臨床で使用されている医学的用語、医学英語（用語）について、説明し理解することができる。					
15	廣渡	総括	各授業のポイントの振り返り・復習をする。					
観点別成績評価と到達目標の関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			70	①②③
	確認小テスト		●	●		●	30	④
評価の特記事項	小テスト・定期試験と授業後のまとめ（参加貢献度）の結果が60点に満たない場合、再試験の対象となる。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前学習：各講義項目のページを事前に目を通すこと　約30分 事後学習：講義後は復習をすること　約1時間								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
筆記試験は、本学に保管するので、事前に連絡の上、内容を確認することができる。								
教科書								
・　プリント配布 ・「基礎運動学　第6版補訂」　中村隆一　他著　医歯薬出版								
参考図書								
なし								
備考：履修者への要望								
本科目は1年の後期以降に学ぶ内容の基礎に当たる。積極的に受講、質問し、理解に努めること。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学Ⅰ		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
渡邊 豊明						
実務経験のある教員						
渡邊 豊明：医療機関で作業療法士の実務経験のある教員が、専門科目の基礎を構築する上で、学修した内容を専門用語を用いて他者に説明することができるよう講義する。						
授業概要						
身体運動の仕組みを理解することは、理学療法士・作業療法士にとっては必須である。 本科目では顔面・頭部と上肢の運動について、生体力学・解剖学及び生理学と関連させ、自身の体を動かしながら体験的に理解する。顔面・頭部及び上肢に関して、部位ごとに分け「関節と靱帯の構造」、「筋と関節運動」の順に学び、臨床で必要となる「運動学的な特徴」に関しても併せて学修する。授業は、専門科目の基礎を構築する上で、学修した内容を専門用語を用いて他者に説明することができることを目標とし、基本的に講義形式で進める。						
学習到達目標						
知識・理解	①顔面・頭部及び上肢に関して、関節と靱帯の構造を理解し、専門用語を用いて説明することができる。（DP1） ②顔面・頭部及び上肢に関して、筋と関節運動の関連について理解し、専門用語を用いて説明することができる。（DP1） ③顔面・頭部及び上肢に関して、運動学的な特徴について理解し、専門用語を用いて説明することができる。（DP1）					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	教科書とパワーポイント・模型等を用いた講義形式で進めるが、自身の体を動かしたり、グループワークで理解の確認を行いながら進める。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	渡邊	オリエンテーション 顔面・頭部の運動	科目のオリエンテーション 顔面・頭部について、関節と靱帯、筋と運動について学修する：教科書 4-5			
2	渡邊	上肢総論	上肢の構造、各部の名称再確認し、これから学修する内容とその目的を確認する 上肢を走行する神経・血管について学修する：教科書 4-2			
3	渡邊	上肢帯の運動(1) (上肢帯の関節と靱帯)	上肢帯の関節と靱帯の構造について学修する ：教科書 4-2-1)-(1) (2)			
4	渡邊	上肢帯の運動(2) (上肢帯の筋と運動)	上肢帯の筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-1)-(3)			
5	渡邊	肩関節の運動(1) (肩の関節と靱帯)	肩関節の関節と靱帯の構造について学修する ：教科書 4-2-1)-(1) (2)			
6	渡邊	肩関節の運動(2) (肩の筋と運動)	肩関節の筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-1)-(4)			
7	渡邊	肘関節の運動 (肘の関節と靱帯、筋と運動)	肘関節の関節と靱帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-2)-(1) (2)			
8	渡邊	前腕の運動 (前腕の関節と靱帯、筋と運動)	前腕の関節と靱帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-2)-(1) (2)			
9	渡邊	手関節の運動 (手の関節と靱帯、筋と運動)	手関節の関節と靱帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-3)-(1) (2) (3) (6)			

10	渡邊	CM関節の運動 (CM関節の靱帯、筋と運動)	CM関節の関節と靱帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-3)-(1) (2) (3) (6)					
11	渡邊	手指の運動(1) (手指の関節と靱帯、筋と運動) 手指の運動(2) (手指の伸展機構)	手指の関節と靱帯の構造及び筋と運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-3)-(4) (5) (6) 手指の伸展機構について、その構造と機能を学修する ：教科書 4-2-3)-(5)					
12	渡邊	手指の運動(3) (手の機能と肢位) 手指の運動(4) (手の変形)	手の機能（アーチ・把持動作パターン等）について自身の手を動かしながら、体験的に学修する ：教科書 4-2-3)-(7) (8) (9) 手の変形について、その機序を、指背腱膜の構造・筋の神経支配と関連づけて学修する ：教科書 4-2-3)-(10)					
13	渡邊	姿勢	立位姿勢：教科書7-1～6					
14	渡邊	運動学習	運動学習 ：10-1～6 教科書					
15	渡邊	まとめ	これまでに学修した上肢の各関節の関連と上肢の機能や役割について再確認する 必要に応じて補足説明等を行う					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●				80	①②③
	小テスト		●				20	①②③
評価の 特記事項	毎回、授業の最初に小テストを実施する。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前学習：指定した教科書のページの予習（1時間）。 事後学習：講義後は、教科書を読み直すなどの復習（1時間）。小テストの対策（30分）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
筆記試験は研究室に保管しているので事前に連絡の上、内容を確認することができる。								
教科書								
「基礎運動学」中村隆一 他著 医歯薬出版								
参考図書								
「身体運動学 関節の制御機構と筋機能」市橋則明 編集 メジカルビュー社 「カバンディ・関節の生理学」荻島秀夫 監訳 医歯薬出版								
備考：履修者への要望								
授業中の質問、授業後のアンケートにて積極的な参加を要望する。また、分からない部分はそのままにすることなく、積極的に質問に来ること。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学Ⅱ		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
濱田 光佑、臼井 晴信						
実務経験のある教員						
濱田 光佑・臼井 晴信：医療機関で理学療法士として勤務し、運動器疾患のリハビリテーションに従事していた教員が、解剖学、生理学に基づく身体運動についての講義を行う。						
授業概要						
運動は全ての動作や行為の基礎であり、その仕組みを理解することは理学療法士・作業療法士にとって必須事項である。本講義では下肢・体幹の構造や基本的な運動について学ぶ。生体力学・解剖学および生理学と関連させながら、下肢・体幹の運動に関与する骨・筋・靱帯のそれぞれの役割について学習する。そして、下肢・体幹の基本的な運動並びに正常歩行について他者に説明することができるよう学習する。						
学習到達目標						
知識・理解	①下肢・体幹における骨格・血管・神経・筋・靱帯を挙げることができる。（DP1、2） ②下肢・体幹における基本的な運動に関与する関節や筋・靱帯およびその役割について説明することができる。（DP1、2） ③下肢・体幹における各筋の走行・作用について説明することができる。（DP1、2） ④正常歩行、歩行に関する基礎的な知識について理解し、説明することができる（DP1、2）					
思考・判断 ・表現	⑤下肢・体幹の構造および基本的な運動を理解し、応用的に臨床的思考を表出することができる。（DP1、2、5） ⑥歩行の際の各関節運動との関係性について体系的に理解し、説明することができる。（DP1、2、5）					
技能						
関心・意欲 ・態度	⑦授業で得た知識に基づき、自己理解、臨床的思考力を深め提出課題に対し意欲的に取り組む。（DP1、2、3、5）					
授業形態						
講義	教科書やスライドを用いた講義を中心とする。骨標本等を用いた体験型の学習も併用する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	濱田	下肢の骨格、血管、神経 下肢帯と股関節の運動 (1)関節と靱帯	下肢帯と下肢の骨格、血管、神経を学修する。骨盤と股関節および関与する靱帯について学修する。 (教科書①：pp. 246-250)			
2	濱田	下肢帯と股関節の運動 (2)股関節の動き	股関節の基本的な運動について学修する。 (教科書①：pp. 250-253)			
3	濱田	下肢帯と股関節の運動 (3)股関節の筋	股関節の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 252-256)			
4	濱田	膝関節の運動 (1)関節と靱帯	膝関節および関与する靱帯について学修する。 (教科書①：pp. 256-258)			
5	濱田	膝関節の運動 (2)膝関節の動き	膝関節の基本的な運動について学修する。 (教科書①：pp. 258-260)			
6	濱田	膝関節の運動 (3)膝関節の筋	膝関節の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 258-260)			
7	濱田	足関節の運動 (1)関節と靱帯 (2)足の筋	足関節および関与する靱帯について学修する。足関節の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 260-266)			
8	濱田	足関節の運動 (3)足のアーチ (4)足の変形	足のアーチおよび足の変形について学修する。 (教科書①：pp. 266-271)			
9	濱田	正常歩行、歩行周期	歩行に関する基礎知識の理解、歩容の変化とその影響について学修する。 (教科書①：pp. 379-407)			

10	濱田	脊柱の骨格、基本構造	脊柱を構成する骨と関節、靱帯、神経、血管について学修する。 (教科書①：pp. 271-275)					
11	濱田	頭部・頸椎の構造	頭部、頸椎の構造と運動、関わる筋について学修する。 (教科書①：pp. 275-283)					
12	濱田	・胸腰椎の運動	胸腰椎の構造と運動、関わる筋について学修する。 (教科書①：pp. 289-292)					
13	臼井	胸郭と胸椎の運動・呼吸に関わる運動	胸郭と胸椎の構造及び呼吸の運動と関わる筋について学修する。 (教科書①：pp. 283-289)					
14	臼井	運動生理学	運動中の生体の変化について学修する。 (教科書①：pp. 327-332)					
15	濱田・臼井	授業のまとめ	本講義で学んだ内容を整理し、課題に取り組む。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			80	①②③⑥
	提出課題		●	●		●	20	④⑤⑦
評価の 特記事項	筆記試験、提出課題の全てを合わせて6割未満の学生に対して、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
講義前に、講義計画に記載された教科書の該当範囲に目を通し、理解できなかったキーワードや興味を持ったキーワードを事前学習してください。そして、挙げたキーワードについて講義中に学んだことを、講義後にまとめてください（必要な時間:約60分）。 提出課題として各章（下肢・体幹・運動生理）ごとに学修でまとめたレポートの提出を求めます。具体的な提出課題内容については、初回授業にて提示します。講義中の配布資料や学修でまとめたレポート、提出物等を合わせて、ポートフォリオを作成してください。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（筆記試験、提出課題、ポートフォリオ）に対する疑問点や質問は、随時受け付けます。								
教科書								
①「基礎運動学 第6版補訂」中村隆一 他著 医歯薬出版								
参考図書								
・「カパンディ・関節の生理学 原著第6版」萩島秀夫 監訳 医歯薬出版 ・「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」PaulD. Andrew 有馬慶美 日高正巳 監訳 医歯薬出版								
備考：履修者への要望								
本講義の内容は、今後リハビリテーションについて学ぶ中で全ての基礎になります。各部位の名称やその役割は必ず覚え、わからないことはその場で確認するようにしてください。また、グループワークでは積極的に骨標本に触れ、基本的な運動について他者にしっかり説明できるよう知識を整理してください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
運動学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間		
担当教員名								
山田 南欧美、松村 仁実、濱田 光佑								
実務経験のある教員								
松村 仁実、山田 南欧美、濱田 光佑：医療機関で理学療法士の実務経験のある教員が、運動学で学修した内容の理解を深めるために、自ら体験しながら生理学、解剖学、生体力学、動作分析学的に考察しながら、実習形式で教授する。								
授業概要								
理学療法士は対象者の身体運動を理解することが重要である。 本科目では、運動学で学修した内容の理解を深めるために、自ら体験しながら生理学、解剖学、生体力学、動作分析学的に考察しながら、実習形式で学修する。 観察や測定を行い、データを解析し、実習目的に沿って考察を加え、最終的にそれらをレポートとして文書化する。さらに、実習内容をまとめて発表し、質疑応答を行う。								
学習到達目標								
知識・理解	①実習課題に関する基礎知識を述べることができる (DP1) ②実習の目的・方法を理解し実践できる (DP1)							
思考・判断 ・表現	③実習で得られた体験や事実をわかりやすく説明することができる (DP5) ④基礎知識を使用し自分の意見を主張することができる (DP5)							
技能	⑤得られたデータを集計、加工、整理することができる (DP1) ⑥レポート作成において、資料や文献を調査することができる (DP2)							
関心・意欲 ・態度	⑦実習課題に積極的に参加し、レポートを期限内に提出することができる (DP5) ⑧発表では、分かりやすい発表と質疑応答に配慮することができる (DP3)							
授業形態								
実習	グループに分かれ実習、データ解析をし発表を行う。 スライドによる講義も含む。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1	松村・山田・濱田	オリエンテーション	オリエンテーション 実習課題内容を知り、レポートの書き方を学修する。					
2～5	松村・山田・濱田	実習準備①機器操作 実習準備②データ収集	担当課題のデータ整理や発表の仕方を学修する。 実習準備、機器操作の確認、予備実習、データ収集のひな型を作成する。					
6～11	松村・山田・濱田	実習、レポート作成	班ごとに実習課題を実施。 実習課題のデータ整理、レポート作成 ※テーマは講義初日にお知らせします。					
12	松村・山田・濱田	発表スライド作成方法・発表方法の 学修	実習課題を発表する際のスライド作成方法、発表方法について学修する。					
13	松村・山田・濱田	発表スライド・発表原稿作成	発表用スライドを作成し、発表原稿の作成と発表の練習を実施する。					
14～15	松村・山田・濱田	総まとめ	各課題ごとの結果発表と質疑応答を実施する。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			50	①②④
	レポート		●	●	●	●	20	①～⑦
	発表		●	●		●	30	①③④⑧
評価の 特記事項	筆記試験（50％）、レポート（20％）、発表（30％）を総合して判定する。 授業態度が悪ければ成績から10%ずつダウンする。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。 （注）この科目は試験だけ受けることはできない。							

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
（予習）有意義な実習を行うために、実習課題の基礎知識、方法を理解し、実習を行う前に根拠ある仮説を立てる（約1～2時間） （復習）実習を振り返りデータの整理やレポート作成する。また、学生同士・教員がディスカッションし考察を深める。他人に伝わるレポート作成・発表を準備する（約1～2時間）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
レポートは後日返却します。必要に応じてレポート内容に関して教員とディスカッションします。質疑は連絡の上、講義時間以外でも受け付けます。
教科書
プリントを配布する
参考図書
基礎運動学 中村隆一 医歯薬出版 臨床運動学 中村隆一 医歯薬出版
備考：履修者への要望
正当な理由なき欠席、遅刻をした場合は授業への参加を認めない（要証明書） レポートは期限内の提出を厳守すること。

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人間発達学		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
杉山 成司						
実務経験のある教員						
杉山成司：複数の大学、市民病院での実務および教育、研究の経験を有する教員が、医学的な基礎生理の変化に基づいて、各年齢段階における特徴的な病態を教授する。						
授業概要						
ヒトの生命は、誕生前の受胎時から始まり老いに終わる。人間発達学はこの広範な成長・成熟過程、変遷過程を学ぶ学問であり、医学的な基礎生理の変化に基づいて、各年齢段階における特徴的な病態を理解しなければならない。 加えて、人それぞれの生活環境、社会環境に修飾された個人を考慮する必要があり、個性・特性に根差した医療を行う上で、身体・運動・心理・社会性を含めた発達学的な視点が欠かせない。						
学習到達目標						
知識・理解	① 胎児期・新生児期の標準的発達を理解し、その特徴を説明できる。また、この時期の代表的障害について説明できる。(DP 1) ② 幼児期から思春期までの発達段階を理解し、この時期の代表的障害について説明できる。(DP 1) ③ 成年期以降から老年期にいたるまでの成熟段階を理解し、説明できる。また、発達学的評価について説明できる。(DP 1)					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度	④ 個々人だけでなく、疾病とそれを取り巻く環境にも関心を払いながら、医療を考慮できる。(DP 1, 4)					
授業形態						
講義	プリントとスライドを中心に講義する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	杉山	総論および発達の診方	人の生理・運動・感覚機能の発達過程と遺伝・環境的要因			
2	杉山	胎児医学	妊娠時期と胎児発育、染色体異常や環境因子が胎児に及ぼす影響について			
3	杉山	奇形症候群	奇形症候群の要因と予後、予防対策			
4	杉山	新生児期の生理学的変化 (1)	出生前後の呼吸器系、循環器系の生理学的変化			
5	杉山	新生児期の生理学的変化 (2)	出生前後の生理学的変化について、ビリルビン代謝、血液学的観点から			
6	杉山	未熟児・新生児の障害	低酸素性脳症など、未熟児・新生児に特有な疾患と障害、予後について			
7	杉山	原始反射と発達	乳児期の成長、運動、認知、言語および社会的発達の特徴とその評価法 原始反射の臨床的意義について			
8	杉山	中間のまとめ	講義 1 ～ 7 回のまとめ			
9	杉山	乳児期の成長と発達障害	乳児期の成長、発達の評価法とその障害および対策について			
10	杉山	乳児期にける神経、筋の発達	乳児期の神経系発達とその代表的神経疾患および先天性筋疾患について			

11	杉山	学童期の発達と障害	学童期の発達と自閉症を含めた発達性障害について					
12	杉山	小児期の事故と虐待	各年齢における小児期特有の事故、および虐待の実態と予防					
13	杉山	思春期の発達とその障害	二次性徴を含めた思春期の発達とその障害について					
14	杉山	老年期の問題点	老年期の身体的特徴と評価法					
15	杉山	認知症、廃用症候群	高齢者特有の認知症や骨折、廃用症候群などについて					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	期末試験（筆記）		●				90	①②③
	平常の授業態度、参加度					●	10	④
評価の 特記事項	授業中の態度、質問なども考慮する。 すべての評価方法の合計点（期末筆記90 + 平常点10）が6割未満の場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
興味ある点や疑問点などは、自己学習の習慣を付け、少しでも馴染みのある課題が授業に上れば、関心、理解は持続的なものとなり、応用が可能となる。講義の予習、復習には30分～1時間ほど当てる。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
各授業開始時に簡単な復習を行う。								
教科書								
参考書として：標準理学療法学・作業療法学 人間発達学（第2版）．医学書院、2017								
参考図書								
本学図書館には発達学に関連する多くの書籍が所蔵されており、学習態勢は整っているので活用すること。								
備考：履修者への要望								
復習の習慣をつけ、講義内容で疑問点や不明点があれば、積極的に自己学習あるいは質問する。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
一般臨床医学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年	必修	2単位	30時間
担当教員名						
長谷川 昇、杉山 成司						
実務経験のある教員						
長谷川 昇：県立病院（精神科）での病院薬剤師としての研修経験を生かし、認知症の薬物療法の基本と薬物療法の有効性、実施上のポイントなどについて解説する。 杉山 成司：複数の大学、市民病院での医師としての実務および教育、研究の経験を有する教員が、その経験を活かし、一般的な症状を病態生理学的に教授する。						
授業概要						
（長谷川）理学療法士・作業療法士は薬品(薬物療法)によって起こる生理的作用を把握し理学療法・作業療法を実施する必要があるため、関わりのある分野を中心に薬理について学修する。 （杉山）診療をする場合、患者が訴える一般的な症状を把握することから始まる。それ故、この症状をいかに病態生理学的に分析し理解していくかが、医療を進める上で鍵となる。また、医療では投薬が大きな役目を果たすが、「医食同源」と言われるように、日常的な栄養の知識もおろそかにできない。これらのテーマを焦点に講義する。						
学習到達目標						
知識・理解	①多職種連携を有効に機能させるため、臨床の場で使用されている薬物の作用機序や相互作用を理解し、薬物療法における有害事象、服薬過誤について指摘することができる。（DP1, DP2） ②患者を診る上での病態の分析と状態把握の基本を理解し、臨床的意義について述べることができる。（DP1, DP2）					
思考・判断 ・表現	③多職種連携を有効に機能させるため、薬物の効果をアセスメントし、副作用などについて予測することができる。（DP5） ④病態分析に基づいて治療方針を立て、今後の経過の推測ができる。（DP5）					
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	（長谷川）課題解決型の講義を行い、答えを作成するために必要な事項について教科書を用いて指摘する。 （杉山）スライド、プリントを中心に講義する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	長谷川	医薬品の取扱い	医薬品の分類、医薬品の名称、医薬品の安全管理			
2	長谷川	薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）	薬物の体内動態、財形の特徴と吸収過程、相互作用			
3	長谷川	薬の作用機序、ライフステージごとの問題点	薬の作用点（受容体、チャネル、酵素、シナプス、ポンプ） 小児、新生児、高齢者、妊婦への投与上の問題点、コンプライアンスとアドヒアランス			
4	長谷川	主な薬物の作用と副作用 1. 循環器疾患治療薬、抗炎症薬	心不全治療薬、利尿薬、降圧剤、不整脈治療薬、狭心症治療薬、抗血栓薬、アレルギーと抗炎症薬（ステロイド性、非ステロイド性鎮痛薬）			
5	長谷川	主な薬物の作用と副作用 2. 神経系疾患の治療薬	向精神薬（抗うつ薬、睡眠薬、抗パーキンソン病薬）			
6	長谷川	主な薬物の作用と副作用 3. 運動器疾患の治療薬	骨粗鬆症治療薬、筋弛緩薬、抗リウマチ薬			
7	長谷川	主な薬物の作用と副作用 4. 代謝性疾患の治療薬	糖尿病治療薬			
8	長谷川	主な薬物の作用と副作用 5. がんの薬物治療	抗悪性腫瘍薬、解熱鎮痛薬、麻薬			

9	長谷川	主な薬物の作用と副作用 6. 感染症の薬物療法	抗菌薬					
10	杉山	症候学（１）	全身状態、発熱、皮膚症状と臨床的意義					
11	杉山	症候学（２）	消化器症状、腹痛などの臨床的意義					
12	杉山	症候学（３）	意識障害、呼吸器症状、尿異常などの臨床的意義					
13	杉山	水・電解質	脱水、電解質異常、酸塩基平衡障害					
14	杉山	栄養	栄養摂取の基本と各栄養素障害および摂食障害					
15	杉山	プラセボ	臨床的意義					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	（長谷川）小テスト		●	●			20	①③
	（長谷川）筆記試験		●	●			40	①③
	（杉山）筆記試験		●	●			40	①②④
評価の 特記事項	（長谷川）すべての評価方法を合計（長谷川＋杉山）し、6割に満たない場合、再試験の対象とします。 （杉山）杉山の筆記試験分で6割をとれていない場合、追加で課題を課すことがあります。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（長谷川）あらかじめ提示されたレジュメに記載された事項について関連する教科書のページを予習しておく（30分程度）。前回の講義内容の復習をする（30分程度）。 （杉山）前もって次回授業のプリントを配布する。予習、復習は各30分程度行う。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
（長谷川）毎回の授業の中での質問事項はリアクションペーパーとして提出し次回の講義で解説する。 （杉山）授業開始時に、前回講義の復習を行う。								
教科書								
（長谷川）スラスラわかる薬のメカニズム、鈴木正彦 監修、サイオ出版、2019年 （杉山）標準理学療法学・作業療法学 内科学（第4版）、前田眞治 編集、医学書院、2020年								
参考図書								
（長谷川）今日の治療薬 解説と便覧 2022、浦部 正雄 等編集、南江堂、2022年 （杉山）大学図書に関連蔵書多数あり。活用して下さい。								
備考：履修者への要望								
（長谷川・杉山）正常な人体の構造と機能を理解しておくこと。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
公衆衛生学		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
横尾 和久						
実務経験のある教員						
横尾和久：複数の大学、市民病院での実務及び教育、研究の経験を有する教員が国際レベル、国レベル、並びに地域における様々な健康課題を、生物学的な視点だけでなく、社会や環境との視点から俯瞰的に理解するばかりでなく、集団の健康を維持・改善するための制度や施策の概要について講義を行う。						
授業概要						
新型コロナウイルス感染症、少子高齢化、地球温暖化、生活習慣病等々、我々の身近な健康に関する問題は、全て公衆衛生学で取り上げられるテーマである。すなわち、公衆衛生とは、「みんなの健康」のことであり、公衆衛生学とは、「みんなの健康」を守るために、組織化された地域社会の努力によって、疾病予防、寿命延長、身体的・精神的健康の増進を図る学問である。その具体的な内容としては、環境衛生、感染症対策、衛生教育、保健医療制度、社会保障制度等がある。臨床医学が個人を対象としているのに対し、公衆衛生は集団を対象としている点が大きく異なる。日常的な医療活動の基盤となる医療制度やシステムの維持・改善等も公衆衛生の対象となる。公衆衛生は狭い意味での保健活動だけでなく、医療活動の展開にとっても基盤となるものである。公衆衛生学は、将来、OT、PTとして臨床の現場で働くものにとっては必須の科目と言える。本授業では、国際レベル、国レベル、並びに地域における様々な健康課題を、生物学的な視点だけでなく、社会や環境との視点から俯瞰的に理解するばかりでなく、集団の健康を維持・改善するための制度や施策の概要についても修得する。 各授業の範囲内で、特に最近話題になっている重要テーマについては時間を取って学習する。						
学習到達目標						
知識・理解	①主たる保健統計（人口、出生、死亡統計など）を説明できる。（DP1） ②疾病予防と健康管理について説明できる。（DP1） ③主な疾病についてその予防法について説明できる。（DP1） ④環境保健（環境汚染、環境問題）について説明できる。（DP1） ⑤保健行政（母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保険）について説明できる。（DP1） ⑥わが国の保健医療福祉制度について説明できる。（DP1） ⑦われわれを取り巻く健康課題の現状について説明できる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	⑧身近な公衆衛生問題に対して何ができるか考えることができる。（DP3）					
技能						
関心・意欲 ・態度	⑨日々世の中で起こっている公衆衛生に関する問題に関心を持つことができる。（DP1）（DP3） ⑩それらの問題に医療人として自分事して取り組むことができる。（DP1）（DP3）					
授業形態						
講義	毎回、パワーポイントによるスライドとプリントを用いて講義する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	横尾	はじめに。担当教員の自己紹介。公衆衛生とは？	担当教員の自己紹介。医療人としての心構え、医療人に求められる資質について学ぶ。 医療人として必要な公衆衛生の知識、公衆衛生と健康の概念について学ぶ。			
2	横尾	保健統計と疫学の基礎。疫病予防と健康管理。 【健康増進】	人口、出生、死亡統計など、公衆衛生の基本である疫学（人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する学問）の基礎について学ぶ。 予防医学、健康管理、健康増進、健康日本21などについて学ぶ。 【健康増進】については時間を取って学習する。			
3	横尾	主な疾病の予防-感染症。 【感染症】	感染症の予防対策一般、予防接種、最近の感染症事情などについて学ぶ。 【感染症】については時間を取って学習する。			
4	横尾	主な疾病の予防-内部疾患。 【生活習慣病】	がん、メタボリック症候群、心疾患などの予防対策について学ぶ。 【生活習慣病】については時間を取って学習する。			

5	横尾	環境保健。【地球温暖化】	環境汚染、物理的環境因子、化学的環境因子、環境問題などについて学ぶ。 【地球温暖化】については時間を取って学習する。					
6	横尾	地域保健と保健行政。保健行政の各論（１）。 メンタルヘルス	地域保健活動、保健行政の全般について学ぶ。 母子保健、学校保健などについて学ぶ。 【メンタルヘルス】については時間を取って学習する。					
7	横尾	保健行政の各論（２）。 健康寿命	産業保健などについて学ぶ。 高齢者保健、精神保健などについて学ぶ 【健康寿命】については時間を取って学習する。					
8	横尾	国際保健医療。SDG s。保健医療福祉と関係法規。 まとめ	保健医療福祉制度と関係法規などについて学ぶ。まとめ。 【SDG s】については時間を取って学習する。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	毎回の振り返りレポート		●	●		●	40	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩
	本試験		●	●			60	①②③④⑤⑥⑦⑧
評価の 特記事項	本試験で60%に満たない場合は、再試験対象とする。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
予習として教科書にざっと目を通しておく（30分） 復習として毎回振り返りのレポートを提出（60分）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
振り返りのレポートは講義の際に返却する。								
教科書								
「シンプル衛生公衆衛生学」 鈴木庄亮（監修）（南江堂）								
参考図書								
備考：履修者への要望								
本授業（本教科書）で学ぶことは、日頃の時事問題で取り上げられることが多く、将来、医療人として社会に出た時、最低限必要になる知識ばかりです。 医療人としての道を選んだ初心を忘れずに、医療人として必要な公衆衛生学についての知識を習得してください。 また日頃から社会人、組織人、医療人としての自覚をもって行動してください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床心理学		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
金子 幾之輔						
実務経験のある教員						
金子 幾之輔：日本カウンセリング学会カウンセリング心理士(2021年7月改称)・スーパーバイザー、臨床発達心理士、学校心理士としてカウンセリングの実務経験を有し、その関連科目である本授業においてカウンセリング理論・技法の体験学習やグループワーク等を遂行することによって、臨床心理学の基礎的な理論や実践的知識・技能に関する学修を促進する。						
授業概要						
臨床心理学とは、心の問題に対して心理学的な見地からどのように対処するかを研究し、支援活動を実践していくための学問である。本科目では、心の障害を有する人に対してのみならず、理学療法士・作業療法士自身の健康管理の観点からも心理臨床活動のあり方を考察する。また、講義内容に応じた体験学習やグループワーク等を遂行したりするなどし、臨床心理学の基礎的な理論および実践的知識・技能を修得して、心の障害を有する人に適切な対応ができるようになることを目指す。						
学習到達目標						
知識・理解	①臨床心理学に関する基礎的な理論を説明できる。(DP1) ②臨床心理学の実践的知識・技能を心の障害を有する人や自分自身に適用することができる。(DP1)					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	自作の資料に基づいて平易に解説するとともに、体験学習やグループワークも導入する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	金子	臨床心理学とは何か	臨床心理学の内容・方法・歴史等について概観し、臨床心理学の概念や特徴を把握する。			
2	金子	不適応行動	欲求と欲求不満のメカニズムを説明し、不適応行動について学修する。			
3	金子	心の障害の特徴と対応 (1)統合失調症 (2)気分障害	統合失調症、うつ病や双極性などの気分障害の特徴、対応の留意点について学修する。			
4	金子	心の障害の特徴と対応 (3)不安障害 (4)適応障害	不安を主因とする不安障害やストレス因による適応障害の特徴と対応の留意点について学修する。			
5	金子	心の障害の特徴と対応 (5)パーソナリティ障害 (6)認知症	パーソナリティ障害や認知症の特徴や対応の留意点について学修する。			
6	金子	心の障害の特徴と対応 (7)発達障害	自閉スペクトラム症などの発達障害の特徴や対応の留意点について学修する。			
7	金子	ストレスの本質と原因および 対処法	日常生活上のストレス事例を通じて、ストレスの本質と原因、その対処法について学修する。			
8	金子	心のアセスメント (1)意義 過程 種類	心理アセスメントの意義、過程、種類について学修する。			
9	金子	心のアセスメント (2)臨床心理学的面接	面接法の特徴、留意点について学修する。			
10	金子	心のアセスメント (3)行動観察	観察法の特徴、留意点について学修する。			

11	金子	心のアセスメント (4)心理検査	心理検査の種類と代表的な心理検査について学修する。集団TAT等による自己分析を実施。（体験学習）					
12	金子	カウンセリングとは何か	カウンセリングの考え方、基礎技法について学修する。役割演技によるカウンセリング技法の基本的訓練の実施。（グループワーク）					
13	金子	各種心理療法 (1)精神分析療法 (2)来談者中心療法	精神分析療法と来談者中心療法の理論的背景と技法について学修する。					
14	金子	各種心理療法 (3)行動療法 (4)遊戯療法	行動療法と遊戯療法の理論的背景と技法について学修する。					
15	金子	理学療法士と作業療法士の健康管理、 総括	理学療法士と作業療法士の健康管理の一方法としてストレス・コントロール法的一种である「自律訓練法」を実施する。（体験学習）					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	レポート試験		●				85	①②
	振り返り度		●				15	①②
評価の 特記事項	・レポート試験は、最終試験のみとする。 ・振り返り度は、毎回の授業の終わりにリフレクション（省察・振り返り：ミニツツペーパーの導入）を行い評価する。 以上2つの評価点を総合して評価する。 ＊本科目では、当該レポートを締切り日時までに提出しなかった場合、原則として不合格とし、再試験を実施しません。また、合格点に満たなかった場合も再試験を実施しません。さらに、特別試験も実施しません。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
○事前学習：臨床心理学辞典や臨床心理学の参考文献等を用いて、毎回の授業で扱う内容について調べておくこと。（1時間程度） ○事後学習：授業で扱った内容を自分なりにまとめるなどの復習をすること。（1時間程度） また、臨床心理学の実践的知識・技能を修得するために体験学習や実習場面等で熱心にその技法の訓練に取り組むこと。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（レポート、振り返り）に関する質問は適宜受け付ける。								
教科書								
授業に必要な自作の資料を配布する。								
参考図書								
講義の中で適宜紹介する。								
備考：履修者への要望								
臨床心理学の実践的知識・技能を向上させるために体験学習や実習場面のみならず、日常生活上においても積極的にその技法を訓練することを期待する。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内科学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
杉山 成司						
実務経験のある教員						
杉山成司：複数の大学、市民病院で内科学の実務および教育、研究の経験を有する教員が、疾病の成因・病態について講義する。						
授業概要						
高齢化は一段と進み、在宅・地域リハビリテーションへの社会的ニーズは不可欠のものとなり、それに対する適確な医療知識や技能習得が求められる。内科学は疾病の成因・病態を考える上で基本骨格をなすものであり、解剖学や生理・生化学などの基礎医学を土台にした臨床内科学への深い理解を目的とする。						
学習到達目標						
知識・理解	① 医療人として患者（と家族）に対する関心と敬意を持つことを身に付けることができる。(DP 1, 2, 5, 6) ② 基礎的医学知識に根ざした各疾患への診療法、対処法を修得することができる。(DP 1, 2, 5, 6) ③ 高齢化社会における疾病構造の変化を理解し、それに対応するリハビリテーション学を議論できる。(DP 1, 2, 5, 6)					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度	④ 関連する最近の話題を提供し、その意義、関心について議論できる。(DP 1, 2, 5, 6)					
授業形態						
講義	スライド、プリント中心の講義					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	杉山	総論	問診、診察法、検査、診断の進め方（1、2章）			
2	杉山	症候学	主な症候について（3章）			
3	杉山	循環器系疾患－総論	循環器系疾患の生理と徴候（4章）			
4	杉山	循環器系疾患－各論（1）	高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心不全など（4章）			
5	杉山	循環器系疾患－各論（2）	脈管系疾患、心臓リハビリテーション（4章）			
6	杉山	呼吸器系疾患－総論	呼吸器系の解剖と生理機能（5章）			
7	杉山	呼吸器系疾患－各論	閉塞性・拘束性肺疾患、肺炎、肺癌など（5章）			
8	杉山	中間のまとめ	1～7回の講義のまとめ			
9	杉山	消化管および肝・胆・膵疾患	肝・胆道系を含めた消化器系の解剖と機能、および代表的疾患（6、7章）			

10	杉山	代謝疾患	メタボリック症候群、糖尿病など（9章）					
11	杉山	内分泌疾患	内分泌腺の種類・機能と代表的ホルモン異常症（10章）					
12	杉山	血液・造血器疾患	血液成分と機能、および代表的血液疾患（8章）					
13	杉山	腎・泌尿器疾患	腎疾患の病態生理とその代表的疾患（11章）					
14	杉山	免疫疾患、アレルギー疾患	免疫系の基礎知識とその代表的疾患（12章）					
15	杉山	感染症	代表的な感染症とその予防対策、日和見感染など（13章）					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	中間試験（筆記）		●				50	①②③
	期末試験（筆記）		●				40	①②③
	平常の授業態度、参加度					●	10	④
評価の 特記事項	中間および期末試験（筆記）（40＋50点）プラス平常点（10点）評価の合計点が6割未満の場合、再試験を実施。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
現代はマスコミなどから医学情報が豊富に流れ、直ぐに役立つ実践的内容も少なくない。理学療法士、作業療法士をめざす者は、日頃からこれらの医療情報に関心を持つことが、日常医療を行う上で大きく役立つ。また、疑問点を持てばテキストや参考書などで確認してみるなど、自己学習の習慣を身に付ける。 また、各講義の予習、復習を30分～1時間程度行う。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
各講義のはじめに復習コーナーを設ける。								
教科書								
標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 内科学（第4版）。前田眞治（編）。医学書院、2020								
参考図書								
多数の関連書籍を当大学図書館に所蔵。積極的な活用を望む。								
備考：履修者への要望								
患者ケアをより充実させるためには、内科学講義にとどまらず、医療に関する社会の動向にも注視し、より親身な幅広い診療を目指す気構えを持つ。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
整形外科科学		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	2学年	必修	2単位	60時間
担当教員名						
種田 陽一						
実務経験のある教員における科目						
種田陽一：現役の整形外科医が整形外科科学を講義する						
授業概要						
整形外科が扱う疾患は人体の運動に関わる骨・軟骨・筋・神経などの運動器の疾患である。運動器疾患は多岐にわたり、小児から高齢者まで、体幹から四肢に及び、脊椎、脊髄、関節、末梢神経、手・足の障害などが挙げられる。講義では全身の各運動器疾患について、臨床実習で必要となる病態、症状、診断、治療、リハビリテーションについて理解する。						
学習到達目標						
知識・理解	①主な整形外科疾患、外傷について病因、病態、治療法、リハビリテーションを説明できる。（DP1, DP2）					
思考・判断 ・表現	②病名と患者情報、重症度などから、その疾患の治療と予後を予測し説明することができる。（DP1, DP2, DP3, DP4）					
技能	③関節可動域、上肢長、下肢長、四肢周囲径、四肢・体幹の筋力測定の方法を説明できる。（DP1, DP4）					
関心・意欲 ・態度	④医師やリハビリテーションスタッフとの討議に参加し意見を述べることができる。（DP2, DP4, DP5）					
授業形態						
講義	講義ノート（前日に送付）とスライドを用いて講義する。講義ノートをプリントアウトし、重要と思われる部分に各自マーカーペンで着色し復習の助けとする。講義の最後に国試問題を供覧する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	種田	運動器の構造と機能（１）	骨、軟骨、関節の構造と機能			
2	種田	運動器の構造と機能（２）	筋、脊髄、末梢神経の構造と機能			
3	種田	整形外科に必要な測定法	関節可動域、脚長、周囲径、筋力など			
4	種田	関節可動域異常、形態異常	強直、拘縮、奇形、変形（火傷を含む）			
5	種田	整形外科に必要な検査法	画像診断総論（X線、造影、CT、MRI、核医学検査）、筋電図、腱反射、血液検査など			
6	種田	画像診断法各論	骨、関節、脊椎のX線読影法（単純XP、CT、MRI など）			
7	種田	整形外科疾患の保存的治療	薬物治療、注射療法、装具療法、牽引療法、リハビリなど			
8	種田	整形外科疾患の外科的治療	植皮、骨の手術、関節の手術、脊椎の手術、末梢神経の手術			
9	種田	整形外科的外傷（１）	プライマリーケア、骨折総論			
10	種田	整形外科的外傷（２）	上肢の骨折（橈骨、尺骨、上腕骨、手根骨、指骨）			
11	種田	整形外科的外傷（３）	下肢の骨折（大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨、趾骨）			
12	種田	整形外科的外傷（４）	体幹・脊椎の骨折、脱臼総論・各論			
13	種田	整形外科的感染症	骨髓炎、関節炎、脊椎炎			
14	種田	骨軟部腫瘍	総論、骨肉腫、軟骨肉腫、Ewing肉腫、転移性癌など			

15	種田	小児疾患（1）	発育性股関節形成不全、内反足、骨端症など					
16	種田	小児疾患（2）	骨系統疾患、二分脊椎					
17	種田	関節リウマチと関連疾患	関節リウマチ、強直性脊椎炎、膠原病、骨粗鬆症など					
18	種田	変形性関節症	変形性股関節症、変形性膝関節症、大腿骨頭壊死、シャルコー関節					
19	種田	上肢の慢性疾患	肩、肘、手関節、手の慢性疾患					
20	種田	下肢の慢性疾患	股関節、膝関節、足関節、足の慢性疾患					
21	種田	脊椎疾患	椎間板ヘルニア、後縦靱帯骨化症、側弯症、脊柱管狭窄症					
22	種田	脊髄損傷	プライマリケアー、損傷形態、Frankelの分類、ASIA分類、高位診断、自律神経過反射					
23	種田	末梢神経疾患	Seddonの分類、腕神経叢麻痺、絞扼神経障害、胸郭出口症候群					
24	種田	神経疾患・筋疾患	筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症					
25	種田	切断、義肢、装具	切断法、義足、義手、装具治療					
26	種田	ロコモティブシンドロームと関連病態	ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル、廃用症候群、ロコモ度チェック、ロコトレなど					
27	種田	スポーツ外傷 1（上肢）	野球肘、腱板損傷、SLAP損傷、TFCC損傷など					
28	種田	スポーツ外傷 2（股関節、大腿、膝関節）	股関節脱臼、肉離れ、膝靱帯損傷、鷲足炎、疲労骨折など					
29	種田	スポーツ外傷 3（下腿）	疲労骨折、シンスプリント、テニスレッグ、足関節捻挫など					
30	種田	スポーツ外傷 4（頭頸部、体幹）	頭部外傷、頸部外傷、腹筋損傷、腰椎分離症など					
観 点 別 成 績 評 価 と 到 達 目 標 の 関 連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●	●		90	①②③
	受講態度					●	10	④
評価の特記事項	筆記試験と受講態度の合計が60%以上で合格とする。再試験は60%に達しなかった場合に実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
運動器の病的状態を理解するためには解剖学（特に局所解剖）の知識が不可欠である。予め講義予定部位の解剖を予習してくる。約1時間								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
フィードバックとして試験問題の解説と重要事項の復習の時間を設ける予定である。								
教科書								
『病気がみえる VOL.11』 運動器・整形外科、医療情報科学研究署編、メッディクメディア 2017								
参考図書								
『標準整形外科学 第14版』 井樋栄二、医学書院 2020								
備考：履修者への要望								
講義中の私語は禁止。年々難しくなる国家試験を突破するためには日々の学習が大切である。学習の効果を上げるためには見る、聞く、書くの3つの方法の併用が有効とされる。講義中には講義内容の理解に努め、前日に送られてくる講義ノートに講義で重要と思われた部分に各自マーカーペンで着色することが勧められる。また講義中に使用したスライドを講義後に送るにで、復習では教科書と講義ノートとスライドを見て学習すると効率が上がる。記憶するためには同じことを数回やる必要がある。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
神経症候学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	2学年	必修	2単位	60時間
担当教員名						
勝野 雅央、橋詰 淳、横井 聡、深見 祐樹、山田 晋一郎、伊藤 大輔、服部 誠、植松 高史、古川 宗唐						
実務経験のある教員における科目						
勝野 雅央、橋詰 淳、横井 聡、深見 祐樹、山田 晋一郎、伊藤 大輔、服部 誠、植松 高史、古川 宗唐 :医療機関および大学に所属し医師としての実務経験を有する教員が、神経内科の総論と神経疾患各論を講義する。						
授業概要						
神経症候学を学ぶ基礎として総論の部が設けられている。解剖、生理、薬理、遺伝、免疫である。症候論の部では意識、高次脳、脳神経、運動、感覚、自律神経、反射を扱う。検査技術では画像、電気生理など。そして本論としての神経疾患各論では脳血管、変性疾患、脱髄、末梢神経、筋疾患、脳腫瘍、脊髄、感染疾患、先天異常、脳性麻痺、認知症と続く。具体的な病名としては脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜（脳）炎、エイズ脳症、クロイツフェルト・ヤコブ病、パーキンソン病、ハンチントン病、脳性麻痺、アルツハイマ型一、血管性認知症、レビー小体型認知症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群等を学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①神経系を構成する細胞と神経系の区分を説明できる。（DP1） ②脳の変性部位と病名を対応させて分類できる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	③脳血管の走行から出血の部位別症候を予測できる。（DP1）					
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	クラス形式の講義、もしくはウェビナー形式の講義					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	横井	総論：神経解剖学の基礎	中枢神経が大腦、脳幹、小脳、脊髄に分かれることを理解する。また、12対の脳神経の位置関係を覚える。末梢神経の要素（ニューロン）は細胞体、樹状突起、軸索突起のこと、運動系と感覚系の基本回路を学ぶ。			
2	横井	総論：神経生理学の基礎	神経線維の有髄/無髄、直径、伝導速度、二つの分類法（A,B,C vs I, II, III, IV）。ニューロンに起こる電位には伝導法則に従う活動電位と局所電流に終わるシナプス電位のあること。			
3	横井	総論：神経薬理学の基礎	神経疾患に用いられる薬剤について概説し、その作用の基本を理解する。			
4	横井	総論：分子遺伝学と神経免疫学の基礎	遺伝子を構成単位であるヌクレオチドの塩基、糖、リン酸の三つの要素を確認する。そのまた三つの集まりが一つのアミノ酸を決定する。また、神経免疫関連の疾患を例を用いて学びその基本を理解する。			
5	勝野	総論：神経系の発達と加齢	人間発達学での乳幼児の反射の発達について復習し、併せて加齢による機能変化を学ぶ。			
6	勝野	神経診断学：病歴 意識障害	一般的な病歴の取り方。神経系の系統的な診察。意識障害のグレード。除皮質硬直、除脳硬直、などについて理解する。			
7	服部	神経診断学：高次脳機能Ⅰ	言語中枢と優位脳。失行の種類と左右差など、具体的例を用いて高次脳機能の基本を理解するⅠ。			
8	服部	神経診断学：高次脳機能Ⅱ	言語中枢と優位脳。失行の種類と左右差など、具体的例を用いて高次脳機能の基本を理解するⅡ。			
9	古川	神経診断学：脳神経	Ⅰ：嗅神経～ⅩⅡ：舌下神経まで、具体例を用いながら、それぞれの機能を理解する。			
10	古川	神経診断学：運動系	上位運動ニューロンと下位運動ニューロンから構成される錐体路（皮質脊髄路）や、運動をコントロールする錐体外路や小脳系回路について、具体例を用いながら理解する。			
11	伊藤	脳腫瘍・脊髄疾患	変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症について、まずは脊髄解剖を復習しながら疾患の概要を理解する。脊髄病変の高位診断の重要性を理解する。			
12	伊藤	感染性疾患	脳の伝染病を髄膜炎、脳炎、神経梅毒に分けて学ぶ。プリオン、ウィルス、真菌、細菌、原虫を区別する。急性、亜急性、慢性の経過を区別する。			
13	深見	末梢神経障害	急性発症の末梢性脱髄疾患の代表例であるギランバレー症候群、遺伝性末梢神経障害であるシャルコー・マリー・トゥース病などを中心に、末梢神経疾患について理解する。			
14	深見	筋疾患・神経筋結合部疾患	進行性筋ジストロフィー、筋強直性ジストロフィー、重症筋無力症などを扱い、筋疾患・神経筋接合部疾患の基礎を学ぶ。			

[illegible]

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神医学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
古井 景						
実務経験のある教員						
古井 景：精神保健指定医、精神科専門医であり、精神分析的療法家、公認心理師、臨床心理士の資格も有し、臨床精神医学の実務経験がある教員が、精神に学について講義します。						
授業概要						
器質的・大脳生理学的視点に心理・社会的視点を加え、幅広い視点から精神障害（性格の偏りも含め）を理解し、作業療法士・理学療法士として臨床に従事する際のスキルの習得・向上を図っていきます。						
学習到達目標						
知識・理解	①精神障害（性格の偏りも含め）に含まれる様々な分類、症状を理解し、各精神障害について区別して、述べる事ができる。（DP1） ②関連法規を理解し、精神障害者（性格の偏りも含め）の社会的自立について述べる事が出来る。（DP1）					
思考・判断 ・表現	③精神障害（性格の偏りも含め）を学び、患者の心理・社会的要因も踏まえた理学療法・作業療法の臨床実践の在り方を説明することができる。（DP4） ④精神障害（性格の偏りも含め）を有する人の社会的自立支援の在り方について説明することができる。（DP5, DP6）					
技能						
関心・意欲 ・態度	⑤予習・復習を行い、疑問点や自身の考えなどを積極的に述べ、意欲的に学習に取り組むことができる。（DP2）					
授業形態						
講義	パワーポイントを用いて講義を行う。様々な実例を交えて、実際の状況が想像できるよう、分かり易く説明していきます。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	古井	総論：精神医学概論・関連法規	精神医学を学ぶ上での概論を学ぶ。併せて、理学療法士・作業療法士として法令遵守の立場から、関連法規について触れます。（教科書 第1章）			
2	古井	総論：疾病分類	古典的精神病の分類および現行の精神障害の分類について紹介します。（教科書 第2章・第5章・第6章）			
3	古井	総論：神経生理学	精神疾患、精神症状を理解するための基礎知識として脳生理学の基礎知識を紹介します。（教科書 第3章・第7章）			
4	古井	総論：精神症状・所見	精神症状・所見の基礎知識を説明します。（教科書 第3章・第4章）			
5	古井	総論：治療計画	精神障害への治療の在り方を説明します。（教科書 第16章・第19章）			
6	古井	総論：精神保健	精神科保健医療について概説します。（教科書 第20章）			
7	古井	総論：心身症・メンタルヘルス	心身医学、心理社会的障害について説明します。（教科書 第6章・第12章・第17章・第21章）			
8	古井	各論：児童期・発達障害の臨床	児童期に好発する精神障害、てんかん、および、発達障害について説明します。（教科書 第7章・第8章・第11章・第14章・第15章・第18章）			
9	古井	各論：思春期・青年期・成人期の害の臨床①	神経症性障害、成人の人格障害などについて説明します。（教科書 第11章・第12章・第13章・第18章）			
10	古井	各論：思春期・青年期・成人期の害の臨床②	統合失調症、双極性感情障害、大うつ病などの疾患を説明します。（教科書 第9章・第10章・第18章）			

11	古井	各論：老年期の精神障害	認知症、老年精神病について説明します。（教科書 第5章・第18章）					
12	古井	各論：嗜癖・中毒性障害	中毒・依存について説明します。（教科書 第7章）					
13	古井	各論：心理査定	心理査定について説明、紹介します。（教科書 第4章）					
14	古井	各論：精神科臨床の実際	事例を提示して理解を深めます。					
15	古井	まとめ	質疑応答を通じて、学習内容のまとめを行います。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			95	①②③④
	参加貢献度					●	5	⑤
評価の 特記事項	筆記試験の得点が6割に達しなかった場合、再試験を行う。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（予習）教科書を読み、授業テーマに関連する内容を事前に理解しておいてください。（1時間） （復習）配布された資料をもとに知識を整理してください。（1時間）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
疑問点、質問は随時受け付けております。								
教科書								
「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学」上野武治 編（医学書院）								
参考図書								
①ICD-10精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン 融道男 他 監訳（医学書院） ②DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き 橋本三郎・大野裕 監訳（医学書院） ③理学療法士 作業療法士 PT OT 基礎から学ぶ精神医学ノート 中島雅美・野口留美子著 （医歯薬出版株式会社）								
備考：履修者への要望								
将来、理学療法士、作業療法士として臨床に従事するに当たり、臨床の場で役立たせることをイメージしながら学習してください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
小児科学		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
杉山 成司						
実務経験のある教員						
杉山成司：複数の大学、市民病院で小児科学の実務および教育、研究の経験を有する						
授業概要						
先天異常や発達障害、運動機能障害などを持つ子どもの支援には、理学療法や作業療法は不可欠な医療であり、大きな威力を発揮する。そのためには、患児、患者一人ひとりに見合った適切かつ細やかなケアが求められる。本講義では、出生前期から新生児、乳幼児、学童、思春期へとつながる継続性のある小児医学一般を習得、併せて疾病の背景や家族を含めた援助について理解を深める。						
学習到達目標						
知識・理解	① 小児疾患の特徴を説明できる。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6) ② 出生前から思春期に至る成長、発達を理解する。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6) ③ 各発達段階での代表的疾患について説明できる。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6) ④ 小児予防医学、保健医学の重要性を説明できる。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6) ⑤ 家族を含めた疾病を有する子どもへの支援について議論できる。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6)					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度	⑥ 講義に加え関連するトピックスなどを提供し、話題の意義、関心を議論できる。 (DP 2, 3)					
授業形態						
講義	プリント、 スライドによる講義が中心					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	杉山	小児科学序論	小児および小児疾患の特徴、小児の診療法			
2	杉山	成長と発達、小児保健	成長・発達とその障害、我が国の主な小児統計資料			
3	杉山	先天異常、遺伝病	出生前医学、先天異常、遺伝カウンセリング			
4	杉山	新生児・未熟児学	新生児・未熟児の生理と特有の疾患、脳性麻痺			
5	杉山	小児栄養、水・電解質	小児の栄養とその障害、水・電解質異常			
6	杉山	小児感染症（１）	小児の細菌性感染症			
7	杉山	小児感染症（２）	小児のウイルス性感染症、予防接種			
8	杉山	免疫・アレルギー疾患	自己免疫疾患、喘息、アトピー性皮膚炎			
9	杉山	循環器疾患	先天性心疾患（チアノーゼ型、非チアノーゼ型）			

10	杉山	呼吸器疾患	上気道・下気道感染症、日和見感染症、院内感染					
11	杉山	内分泌・代謝疾患	下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、糖尿病					
12	杉山	消化器系疾患	下痢・嘔吐を来たす疾患、肝・胆道系疾患					
13	杉山	血液疾患	貧血、血小板減少症、白血病					
14	杉山	腎・泌尿器系疾患	腎炎、ネフローゼ、尿路感染症					
15	杉山	神経・筋疾患	中枢・末梢神経疾患、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー症					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●				90	①～⑤
	授業参加度					●	10	⑥
評価の 特記事項	すべての評価の合計点が6割未満の場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
日頃から「子ども」の医療に関する報道は多く、意識的に関心を持つよう心掛けて、現場での診療、支援に役立たせる。 講義に関する予習、復習を毎回30分～1時間ほど行う。 事前に次回授業のためのプリントを配布し、予習の補助とする。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
試験後、個別に点数開示や質問等に対応する。								
教科書								
標準理理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版 富田 豊 編 医学書院								
参考図書								
図書館内には多数の小児科疾患関連蔵書があるので活用すること。								
備考：履修者への要望								
不明な点は労を惜しまず、教科書や他の医学書などを参考にして、自身での理解に務める。自己学習の能力を高める姿勢は、問題発見にもつながり将来大きな力となる。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療安全学・救急医学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年、2学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
種田 陽一、宮津 真寿美、廣渡 洋史						
実務経験のある教員						
種田 陽一:現役の医師が医療安全学と救急医療について講義する。						
授業概要						
<p>この授業では医療スタッフに求められる危機管理、特に、医療安全、救急医療について学ぶ。</p> <p>【医療安全学】すべての医療施設に求められる最も重要なテーマは『患者安全と医療の質向上』である。医療スタッフとして患者安全の重要性を理解するとともに、それを守るための対処法について学ぶ。医療の現場で最も起こりやすい医療事故について学ぶ。さらには、患者安全を守るために医療施設で取られている具体的な対応策についても学ぶ。</p> <p>【救急医学】医療人として必要な応急処置法や心肺蘇生法について学ぶ。特に、リハビリスタッフとして必要となる緊急時の判断及びその救急対応、およびリスク管理について学ぶ。特に緊急時の判断としてバイタルサインの重要性について学ぶ。さらに、リハビリスタッフに求められる救急医療について学ぶ。</p>						
学習到達目標						
知識・理解	①医療の現場で起こりうる医療事故の原因、予防、対策について説明できる。(DP1, 2, 3, 4) ②患者の急変について状況、対応について説明できる。(DP1, 2, 3, 4)					
思考・判断 ・表現	③医療現場で起こりうる危険予知について考えることができる。(DP1, 2, 3, 4)					
技能	④バイタルサインを測定できる。(DP1, 2, 3) ⑤応急処置法を実施できる。(DP1, 2, 3, 4) ⑥心肺蘇生法を実施できる。(DP1, 2, 3, 4)					
関心・意欲 ・態度	⑦医療の現場で起こりうる医療事故に関心を持つことができる。(DP1, 2, 3, 4) ⑧リハビリスタッフとして医療施設で起こりうるリスク管理について関心を持つことができる。(DP1, 2, 3, 4)					
授業形態						
講義	スライド（講義に使用し講義後に送付する）とプリント（講義前に送付する）を用いた講義、講義の最後に国試問題を供覧する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	種田	医療における有害事象、医療安全	医療安全が叫ばれることになった事例を参考として、ヒューマンエラー、インシデントとアクシデント、医療事故、医療過誤などについて学習する。医療施設で最も起こりやすい医療事故（患者誤認、転倒転落、コミュニケーションエラーなどについて学習する。			
2	種田	医療安全対策	医療事故を防ぐための対策について学ぶ。ヒューマンエラーを減少させる方法、医療環境の整備、多重の事故防止策、感染予防、手術室の安全対策、個人情報保護などについて学ぶ。			
3	種田	バイタルサイン	リハビリ従事者に必要なバイタルサイン（脈拍、呼吸、血圧、体温、意識レベル）の測定方法とその意義について学ぶ。			
4	種田	応急処置法、新蘇生法	医療人として必要な応急処置法・一次救命処置（BLS）について学ぶ。またAEDの使用法について学ぶ。			
5	種田	リハビリのリスク管理	リハビリテーションにおけるリスク管理の必要性を学ぶ。またリハビリ中に発生しやすい症状と緊急時の判断、有害事象を予防するための方法を学ぶ。			
6	種田	KYT（危険予知トレーニング）	ヒューマンエラーを減らす先取り方法としてのKYT（危険予知トレーニング）とは何か、KYTの実施方法を学ぶ。			
7	種田	グループワーク（KYT実践）	KYTの実例を挙げて、小グループに分けてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表する。			
8	宮津、廣渡	2年次：心肺蘇生法	心肺蘇生法B L S（Basic Life Support）について実際に実技で学ぶ。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験	●	●	●	●	90	①②③④⑤⑥
	授業態度				●	10	⑦⑧
評価の 特記事項	筆記試験と受講態度の合計が60%以上で合格とする。60%に達しなかった場合は再試験を実施する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
講義の前日に講義ノートを送るので30分程度の予習を行うこと。講義中はプリントアウトした講義ノートに重要と思われる所にマーカーで印をつける。講義後に講義で使用したスライドを送るので、講義ノートと併用して1時間程度復習すること。							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
フィードバックとして試験問題について解説する時間を設ける予定である。							
教科書							
特に使用しない。							
参考図書							
リハビリテーションリスク管理ハンドブック 亀田メディカルセンター2020（MEDICAL VIEW）、医療安全に活かすKYT 兵頭好美、細川京子著 2012（メヂカルフレンド社）							
備考：履修者への要望							
医療人としての道を選んだ初心を忘れずに、医療人として必要な医療安全学・救急医学についての知識を習得してください。社会人、組織人、医療人として将来、社会に貢献できる人材になれるように自覚をもって本授業を受講して下さい。							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
画像診断学		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	2学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
種田 陽一						
実務経験のある教員						
種田陽一：現役の整形外科医が整形外科疾患、脳・脊髄疾患、内臓疾患の各種画像診断法を講義する						
授業概要						
チーム医療に参加した時に困らないために、各種疾患の理解のための画像診断について理解する。単純X線像、CT、MRIを中心に、脳疾患、脊髄 疾患、関節疾患、外傷、胸部疾患、内臓疾患などの画像を理解し、積極的にチーム医療に参加できることを目的とする。						
学習到達目標						
知識・理解	①主な整形外科疾患、外傷、脳・脊髄疾患の画像所見をを述べることができる。（DP1, DP2）					
思考・判断 ・表現	②病名と現病歴、重症度などから、適切な画像診断方法の選択を説明することができる。（DP1, DP2, DP4） ③実際の単純X線像、CT画像、MRI画像を見て異常部位を指摘することができる。（DP1, DP2）					
技能						
関心・意欲 ・態度	④医師やリハビリテーションスタッフとの討議に参加し意見を述べることができる。（DP2, DP6）					
授業形態						
講義	講義：教科書に沿って教科書の画像を用いて講義する。講義の最後に国試問題を供覧する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	種田	各種画像診断法	単純X線、CT、MRI、超音波、核医学検査などの撮像法の原理			
2	種田	画像解剖学	骨・関節、脳、脊髄、胸部、腹部の正常単純X線像、CT像、MRI像の読影			
3	種田	脳疾患	頭蓋内出血、各種脳疾患のCT、MRI診断			
4	種田	脊椎・脊髄疾患	各種脊椎・脊髄疾患の単純X線像、CT、MRI診断			
5	種田	四肢、体幹の骨折	上肢の骨折、下肢の骨折、脊椎の骨折、体幹の骨折の画像診断			
6	種田	骨・関節疾患	変形性関節症、関節リウマチ、骨壊死、骨端症、腱板断裂などの画像診断			
7	種田	内臓疾患	胸部疾患、消化器疾患、泌尿生殖器疾患、動脈疾患の画像診断			
8	種田	まとめ	1～7回の講義のまとめ			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●	●		90	①②③
	受講態度					●	10	④
評価の 特記事項	筆記試験と受講態度の合計が6割で合格とする。再試験は6割に達しなかった場合に実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
病的状態の画像を理解するためには正常な解剖（特に局所解剖）の知識が不可欠である。予め講義予定部位の解剖を予習してくる。約1時間								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
フィードバックとして試験問題の解説の時間を設ける予定である。								
教科書								
『PT,OTのための画像診断マニュアル』 百島祐貴 医学教育出版 社 2015								
参考図書								
『標準整形外科学 第14版』井極栄二、医学書院 2020 『標準神経病学 第2版』水野美邦、医学書院 2012								
備考：履修者への要望								
講義中の私語は禁止。年々難しくなる国家試験を突破するためには日々の学習が大切である。学習の効果を上げるためには見る、聞く、書くの3つの方法の併用が有用とされる。講義中には講義内容の理解に努め、板書の要点をノートすると良いが、教科書に直接マーカーペンで色をつける方法もある。教科書に沿って講義をするので教科書を必ず持ってくる様に。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
健康科学		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
鳥居 昭久、高橋 圭						
実務経験のある教員						
鳥居昭久： 健康増進指導やトレーニング指導、また介護予防活動の実績のある教員が、健康についての概論および実践について指導する						
高橋 圭：医療機関で管理栄養士として勤務経験を有した教員が、栄養と健康および運動(療法)の関わり、栄養の役割、食事の選択等を講義し、栄養に関する基礎的な知識を授業で教授する。						
授業概要						
理学療法士・作業療法士の主たる業務対象となるのが疾病治療や障害克服ではあるが、近年その役割は予防医学の分野にも求められている。予防医学の原点にあるのが“健康”の概念である。 本科目では、講義形式に加え、一部グループによる演習を取り入れながら、健康の定義、健康に関わる社会的、医学的問題と、健康の維持・増進、疾病・障害予防についての基本的事項を学び、理学療法・作業療法と直接的にかかわる体力論、トレーニング論や、その手段の一つとして様々な応用されている運動について考察する。また、いわゆる生活習慣病やスポーツ外傷・障害の予防のために必要な運動のみならず、食事（栄養）の基礎についても学び、健康について多角的に理解する。この授業を通して、健康増進のための取り組みについての理解を深め、実践できる能力を身に付ける。						
学習到達目標						
知識・理解	①健康についての基本的概念について説明することができる。（DP1） ②予防医学と健康増進についての基本的事項について説明することができる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	③健康に関する諸問題について多角的に考え、自分の意見を説明することができる。（DP1）					
技能	④健康増進のための運動療法の基本的な方法について指導することができる。（DP1）					
関心・意欲 ・態度	⑤講義指定内容以外で、健康に関する様々な情報を収集し、自主的に考察することができる。（DP2、DP4）					
授業形態						
講義	座学の講義に加えて実技も行います。また、グループによるフィールドワークを含めた課外活動をする場合もあります。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1～3	鳥居	健康を知る ライフスキルを知る	・導入（この講義で何を学ぶか？） ・健康の定義、生活習慣病、健康政策ほかについて学ぶ ・運動（スポーツ）とメンタルヘルスの関連を学ぶ ・健康にかかわる社会的問題について学ぶ ・アダプテッドスポーツについて学ぶ			
4～6	鳥居	身体を知る エクササイズを知る	・体格、体型について学ぶ ・身体と心身のメカニズム ・体力測定、身体計測、簡易姿勢分析 ・様々な運動と身体反応			
7～8	鳥居	動き・スポーツ行動を知る	・体力論、トレーニング論、運動生理学を学ぶ ・健康づくりのためのエクササイズを学ぶ ・エクササイズ、トレーニングの実践を体験する			
9～10	鳥居	健康にかかわる諸問題	・スポーツ障害 ・疾病予防、障害予防と健康づくり			
11～12	高橋	健康と栄養	・栄養と健康のつながりについて学ぶ ・栄養素の役割、栄養素の管理方法について学ぶ ・栄養表示、運動および病気と栄養の関わりについて学ぶ			
13～15	鳥居	健康のためのエクササイズ （実技）	・ストレッチングの実際□ ・パワーの評価の実際 ・様々なトレーニング 他			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	課題レポート	●	●	●	●	30	①②③④⑤
	知識確認テスト（筆記試験） ※鳥居分	●	●	●		50	①②③④
	知識確認テスト（筆記試験） ※高橋分	●	●	●		20	①②③④
評価の特記事項	講義内で指定した課題レポート（30％）と、最終試験における知識確認テスト（鳥居分50％、高橋分20％）で評価します。 実技などを含めて積極的な取り組みを求めます。授業態度によっては、減点する場合があります。 正当な理由が無い欠席の場合には、1回につき合計点の10％を減点します。 課題レポートが提出されない場合には、0点扱いになります。 知識確認テストが6割未満の場合には、再試験を実施します。 鳥居分、高橋分両方の試験に合格した場合のみ、単位認定とします。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
健康に関する事項について、各成書やインターネットなどを用いて情報を収集することを予習および復習に含めます。 毎回の講義テーマに関連した事項についての関連学習をしてください。（1時間程度） また、この科目は、解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、解剖学Ⅲ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱの知識が必要です。これらの科目内容を事前に必ず復習しておいてください。（1時間程度）							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
レポートに関しては返却時に、レポートにコメントを貼付します。 知識確認テストについては、後日、全体へのフィードバック時間を設定します。							
教科書							
「実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学」（九州大学健康・スポーツ科学研究会：大修館書店） 「運動とスポーツの生理学」（北川薫 編著：市村出版）							
参考図書							
健康、保健にかかわる成書、雑誌等							
備考：履修者への要望							
現代社会において、理学療法士や作業療法士は、地域社会において1次予防活動に対しても積極的に関わるニーズが高まっています。 健康に対する意識を持ち、関係する知識の修得とともに、対象者に直接指導ができるようにすることを目指しましょう。							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション概論		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
加藤 真弓						
実務経験のある教員						
加藤 真弓：医療機関や介護保険分野で理学療法士としての勤務経験のある教員が、リハビリテーションの概念、理念、定義などを講義を通して必要な知識を教授する。						
授業概要						
リハビリテーションの概念・理念・定義を理解した上で、日本における医学的リハビリテーションの展開を理学療法士、作業療法士の視点から学ぶ。基本的内容としては、リハビリテーションの概念、健康の概念、障害の概念、人間の発達、リハビリテーション過程、リハビリテーションチーム、ADL、QOLなどについて学習する。						
学習到達目標						
知識・理解	①リハビリテーションについて、その理念、歴史、内容について理解し、説明することができる。(DP1) ②リハビリテーションの対象となる障害について、I C Fの概念に基づいて理解し、説明することができる。(DP1) ③リハビリテーションの対象者や過程、必要なチームワーク(多職種連携)、関係する法律、環境などについて説明することができる。					
思考・判断 ・表現	④これから学ぶ理学療法学および作業療法学がリハビリテーションの中でどのような位置付けになっているかを理解し、それぞれの役割を説明することができる。(DP1)					
技能						
関心・意欲 ・態度	⑤リハビリテーション、医療、介護、予防、理学療法、作業療法、高齢者、障がい者等に関するニュースや記事を読み、自身の意見を述べることができる。(DP2, 3)					
授業形態						
講義	基本的に教科書を中心とした講義形式である。一部グループを取り入れる。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	加藤	リハビリテーションと健康の概念	リハビリテーションの概念・理念・定義、健康と障害の概念を学ぶ。 障がい者とスポーツ。			
2	加藤	リハビリテーションと健康の概念	リハビリテーションの概念・理念・定義、健康と障害の概念を学ぶ。 障がい者とスポーツ。			
3	加藤	障害の理解	I C Fの概念に基づいて、具体的な事例から障害の概念を考える。			
4	加藤	障害の理解	I C Fの概念に基づいて、具体的な事例から障害の概念を考える。			
5	加藤	障害の心理的、社会的視点	障害の心理的、社会的側面を学ぶ。			
6	加藤	障害の心理的、社会的視点	障害の心理的、社会的側面を学ぶ。			
7	加藤	リハビリテーション過程と諸段階	リハビリテーションの過程と諸段階を学ぶ。			
8	加藤	リハビリテーション過程と諸段階	リハビリテーションの過程と諸段階を学ぶ。			
9	加藤	リハビリテーションチーム	リハビリテーション専門職種と役割、チームアプローチについて学ぶ。			

10	加藤	リハビリテーションチーム	リハビリテーション専門職種と役割、チームアプローチについて学ぶ。					
11	加藤	ADL、QOL、義肢装具	ADL、QOL、義肢装具について学ぶ。					
12	加藤	ADL、QOL、義肢装具	ADL、QOL、義肢装具について学ぶ。					
13	加藤	地域、高齢者とリハビリテーション	地域リハビリテーションおよび高齢者・健康対策を学ぶ。					
14	加藤	地域、高齢者とリハビリテーション	地域リハビリテーションおよび高齢者・健康対策を学ぶ。					
15	加藤	医療福祉制度、関係法規	医療福祉制度、関係法規を学ぶ。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			60	①②③④
	小テスト		●	●			20	①②③④
	ポートフォリオ		●	●		●	20	①②③④⑤
評価の 特記事項	無断欠席・遅刻や受講態度が悪い場合には、科目試験結果から10%減点します。 小テストは2回実施します。ポートフォリオは、本科目の学習成果物として指定期日に提出すること。未提出の場合は0点、遅延や内容不十分の場合は減点します。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施します。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
次回の学習範囲を読み、書かれている内容を整理することを予習課題として課します。授業内で十分な理解に至らなかった場合は、次回授業までに復習に取り組んでください。ニュースや新聞記事などでリハビリテーション、医療、介護などに関する情報を収集し、それらの記事に対する自身の意見等をまとめる。（1～1.5時間程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
小テストは返却する。ポートフォリオは必要に応じコメントを付記し返却する。								
教科書								
「リハビリテーション概論」 上好昭孝・田島文博 編著 永井書店								
参考図書								
「総合力がつくリハビリテーション医学・医療テキスト」 田島文博他 総編集 日本リハビリテーション医学教育推進機構								
備考：履修者への要望								
リハビリテーション専門職を目指す者として、日常にあるリハビリテーション、医療・保健・介護・福祉等に関心を持ってください。また、大学生活での学びがリハビリテーション、理学療法等にどのように活かされるのかを考えながら受講ください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション社会論		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	1学年、2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
木村 菜穂子、松村 仁実、山田 南欧美、濱田 光佑、松田 裕美、廣渡 洋史、清水 一輝						
実務経験のある教員						
廣渡 洋史：都道府県JRAT構築と隊員として被災地支援の実務経験のある教員が、JRAT隊員、防災士としての視点と経験より災害支援の基本から実際までを事例を通して講義を行う。						
授業概要						
<p>本科目は、社会環境や社会制度、自然環境との関係を意識し、リハビリテーション専門職として社会や自然環境との関係について、講義を中心にオムニバス形式にて学修する。</p> <p>木村担当：様々な社会保障制度の中でリハビリテーション専門職に従事する場合の留意点や、地域包括ケアシステム構築の中で求められることを学ぶ。</p> <p>横山担当：障害者の就労支援の仕組みとリハビリ職の役割について学ぶ。</p> <p>廣渡担当：この授業では、医療スタッフに求められる災害医療についての知識、実技について学ぶ。1年次にはグループワーク（読み物による過去の災害の追体験）として災害エスノグラフィーを学ぶ。2年次には、日本赤十字社による災害医療に関わる基本的実技講習に参加することによって、実技を通して医療スタッフに求められる災害医療、大規模災害時に果たすべき役割等について学ぶ。この事前学習（講義）として、過去の災害とその事例を知り、その中でのリハビリ職に関わる災害医療（JRAT等）についてその活動を理解する。それらを理解した上で、事例を通して平時の準備、発災後の活動について自分のできることを考えていく。</p>						
学習到達目標						
知識・理解	①大規模災害時に起こる医療に関する問題を説明できる。＜DP3, 6＞ ②医療スタッフに求められる災害医療について説明できる。＜DP3, 6＞ ③地域包括ケアシステムについて説明できる。＜DP1、2＞ ④障害者雇用の現状を説明できる。＜DP1, 2＞ ⑤障害者雇用の政策について説明できる。＜DP1, 2＞ ⑥障害者雇用の支援について説明できる＜DP1, 2＞					
思考・判断 ・表現	⑦災害現場で起こりうる医療問題を考えることができる。＜DP3, 6＞ ⑧地域包括ケアシステムの中での理学療法士・作業療法士の役割を考えることができる。＜DP3, 6＞					
技能	⑨災害時の応急処置を実施できる。＜DP3, 6＞ ⑩災害時の患者搬送ができる。＜DP3, 6＞ ⑪災害時のトリアージを実施できる＜DP3, 6＞					
関心・意欲 ・態度	⑫リハビリスタッフとしてこれからの新たな領域としての災害医療に関心を持つ。＜DP3, 6＞ ⑬自身の職業意識を高める＜DP3＞					
授業形態						
講義	廣渡担当：座学はスライドとプリントを用いた講義、実技は赤十字スタッフ及び本学教員による実技指導 木村担当：講義 横山担当：講義およびグループによるディスカッション					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1～4	木村	1年次：地域包括ケアシステムについて	・高齢者医療、福祉に関連する社会的背景 ・地域包括ケアシステムの概要(システム構築のプロセス、構成要素、地域包括支援センター、地域ケア会議等) ・地域包括ケアシステムの中での理学療法士・作業療法士の役割			
5	濱田・松田	1年次：災害医療実技（災害エスノグラフィー）	グループワーク（読み物による過去の災害の追体験）			
6～10	横山	1年次：障害者の就労支援の仕組みとリハビリ職の役割	障害者の雇用の現状について（講義とグループワーク） 障害者の雇用の政策について（講義とグループワーク） リハビリテーション専門職に求められている役割			
11	廣渡	2年次：災害とは何か、過去の災害事例を学ぶ	本邦における過去の災害について事例を通してその概要を知る			
12	廣渡	2年次：災害とリハビリテーション	主要な災害チームを知る。JRATの結成と災害におけるJRATの活動のと都道府県レベルのJRATの構築と活動の概要を知る			

13	廣渡	2年次：災害とリハビリテーションの 実際と準備	災害リハビリテーションの活動及び実際を事例を通して学び、平時の準備について理解する					
14・15	廣渡・松村・山田・清水・松田	2年次：災害医療の講義と実技	日本赤十字社のスタッフの指導とともに、基本応急手当、三角巾の活用方法、担架による搬送の仕方を学ぶ。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	レポート（廣渡担当分）		●	●	●	●	20	①②⑦⑨⑩⑪⑫
	筆記試験（木村担当分）		●	●			25	③⑧
	筆記試験（横山担当分）		●				25	④⑤⑥
	参加貢献度（横山担当分）					●	10	⑬
	レポート（廣渡担当分）2年生		●	●	●	●	20	①②⑦⑨⑩⑪⑫
評価の 特記事項	廣渡担当分：座学・実技についてはレポートによって評価する。 木村担当分：筆記試験によって評価する。ただし、受講態度不良者（提出物等含む）は、筆記試験点数から10%減ずる。 横山担当分：筆記試験及び授業への参加貢献度によって評価する。 ※それぞれの分野で基準点（得点率60%）を満たすことを、単位認定の条件とします。これに満たない場合は、分野ごとに再レポート、再試験を行うことがあります。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
廣渡担当分：座学の講義についてはレポートを作成する（1回につき1時間程度）、実技については、事前勉強及びレポート作成に各1時間程度学習する。 木村担当分：講義内で配布した資料等をまとめる。講義中に理解が不十分な点を解決する。課題がある場合は実施する（1回につき1時間程度）。 横山担当分：講義内でパワーポイント資料を配布しグループディスカッションするので、課題を持ち帰り学習する（1回につき1時間程度）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
廣渡担当分：提出したレポートについては返却する。 木村担当分：筆記試験の答えは返却しないが、希望者には個別に開示する（事前連絡必要）。 横山担当分：筆記試験は希望者に開示します。								
教科書								
廣渡担当分：特に使用しない。 木村担当分：特に使用しない。 横山担当分：特に使用しない。								
参考図書								
廣渡担当分：プリント等配布します。 木村担当分：特になし。 横山担当分：特になし。								
備考：履修者への要望								
廣渡：リハビリ専門職として大規模災害で対応できるよう積極的に学んでください。 木村：講義中心となりますが、その中で自分の意見をまとめたりする部分もありますので、積極的参加を望みます。また、懸命に学ぼうとする他者の学習を妨げるような行為（講義中の私語等）は厳禁とします。 横山：障害者雇用の現状を知り、医療職・リハビリテーション専門職に求められていることについて、説明できるようになってください。 主担当：廣渡洋史								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
社会福祉学		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
伊藤 正明						
実務経験のある教員						
伊藤正明：高齢者福祉施設、NPO法人でソーシャルワーカーとして勤務経験(13年)のある教員が、社会福祉の価値・社会保障の知識・対人援助技術について講義する。						
授業概要						
社会福祉の理念（目標）は、だれもが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができる社会を作ることである。それには、福祉の専門職だけでなく、保健・医療等の専門職、ボランティア等の地域の住民がともに問題解決にあたることが求められる。 本科目では、地域で暮らす人々の生活課題とその解決のためのネットワークの形成を取り上げ、社会福祉についての概念・歴史・制度・課題について学び理解する。授業にはグループでの演習も取り入れる。						
学習到達目標						
知識・理解	①社会福祉を取り巻く環境を生活者としての視点で説明できる。(DP1) ②社会保障の仕組みが説明できる。(DP1, 2)					
思考・判断 ・表現	③演習課題について言語化して表現すること、他者の意見を聴きともに考えることの意味について説明できる。(DP3, 5)					
技能	④社会福祉の歴史をふまえた対象者理解について述べるができる。(DP4)					
関心・意欲 ・態度	⑤福祉マインドを意識して演習と課題に取り組むことができる。(DP4, 6)					
授業形態						
講義	講義形式を中心にしながら、必要に応じDVDの視聴、グループワーク、演習形式で講義を行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	伊藤	社会福祉って何？	オリエンテーション、社会福祉の考え方			
2	伊藤	社会福祉援助技術演習①	基本的コミュニケーションとして「聴くこと」について演習			
3	伊藤	社会福祉の基本的動向	社会福祉を取り巻く環境を「生活者」としての視点から見る、「貧困」とは			
4	伊藤	社会福祉の担い手	社会福祉専門職とインフォーマルな社会福祉の担い手、地域福祉を支える機関・団体			
5	伊藤	児童家庭福祉	児童福祉の基本理念とその変遷、児童福祉関連法の概要、児童虐待に関する対策			
6	伊藤	低所得者福祉	所得保障と生活保護			
7	伊藤	社会福祉の仕組み	社会福祉を支える行政、社会福祉サービスの利用の仕組み			
8	伊藤	高齢者福祉	高齢者福祉の動向と介護保険制度について概観する			
9	伊藤	社会福祉援助技術演習②	多職種連携の実際、社会福祉施設相談員へのインタビュー			

10	伊藤	社会保障①	年金保険制度、労働保険制度、社会保障制度の動向					
11	伊藤	社会保障②	医療保険の仕組み、医療ソーシャルワーカーとは					
12	伊藤	障害者福祉	障害とは何か？障害者の歴史、障害者福祉の動向、障害者関連各法の概要について					
13	伊藤	利用者保護制度	利用者保護の背景、成年後見制度、日常生活自立支援事業など					
14	伊藤	地域福祉	地域福祉の意義、地域福祉活動の内容					
15	伊藤	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史を概観する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●	●	●	70	①②③④⑤
	レポート		●	●	●		10	①③④
	ふりかえりと小テスト		●	●		●	20	②③⑤
評価の 特記事項	講義終了時に「ふりかえり」を作成し提出することで講義内容の理解度の確認をする。 「レポート」（10％）と「ふりかえりと小テスト」（20％）の内容およびレポート試験（70％）で評価する。 再試験は、すべての評価方法の合計点数が60点に達しなかった場合に実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
【復習】各講義の配布レジュメを振り返り、適宜実施する「小テスト」を解答できるように準備する(1時間程度)。また、新聞等で現在の社会の動向を把握し、社会問題としてどのような問題が注目されているのかを理解する（例：認知症高齢者の生活問題、障害者の置かれている現状からノーマライゼーションについて考えるなど）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
試験の返却方法は、講義の中で指示します。 課題（試験、小テスト、レポート課題）に対する疑問点や質問は随時受けけます。								
教科書								
必要に応じて資料を配布する。								
参考図書								
授業中に随時紹介する。								
備考：履修者への要望								
復習を中心に、日常の中の出来事や気になるニュースがどのように社会福祉と関わっているのかを考えるよう努めてほしい。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
障がい者スポーツ概論		リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
鳥居 昭久、加藤 真弓						
実務経験のある教員						
鳥居 昭久：パラリンピックなど障がい者スポーツの現場での活動実績のある教員が、障がい者スポーツ全般について講義をする。 加藤 真弓：障がい者スポーツの現場での活動実績のある教員が、障がい者スポーツの競技における障害に応じたスポーツ活動の工夫点等を教授する。						
授業概要						
障がい者スポーツの歴史、社会的背景またその内容についての概要を理解する。障がい者が社会参加できる手段としての障がい者スポーツの理解を深め、理学療法士、作業療法士の知識の上に、どのような関わりができるかを知ることが目標となる。また、障がい者スポーツ現場に参加し、多くの障がい者スポーツの愛好者と交流するとともに、障がい者スポーツにおける様々な工夫を体験し、理学療法士、作業療法士の視点から理解を深める。						
学習到達目標						
知識・理解	①障がい者スポーツについての基礎事項を説明できる（DP1）					
思考・判断 ・表現	②障害を有する人がスポーツを行う時に必要な工夫を考えることができる（DP2, DP4, DP5）					
技能	③障害を有する人がスポーツを行う際の指導において、適正にサポートできる（DP4, DP5）					
関心・意欲 ・態度	④障害を有する人がどのようなスポーツが可能かを積極的に考え、適切な態度で支援できる（DP3, DP4, DP5）					
授業形態						
講義	座学による講義と、実技を踏まえたグループワークを行う。また、公共の障がい者スポーツイベントにボランティアとして参加する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	鳥居	障がい者スポーツ（パラスポーツ）の意義と理念	障がい者スポーツ（パラスポーツ）の意義と理念について学ぶ。 障がい者がスポーツを通して社会参加することと共生社会の在り方の意味を学ぶ。 リハビリテーションの意義との関連性を学ぶ。			
2	鳥居	スポーツ指導者としての素養1	スポーツにおけるインテグリティを理解し、スポーツ指導者としての必要な資質について学ぶ、 また、プレーヤーズファーストの意味を理解し、スポーツを通した学びの姿勢を理解する。 ボランティアの意味を理解し実践のための基礎知識を学ぶ。			
3	鳥居	スポーツ指導者としての素養2	障がい者スポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。 障がい者の状態に応じて理解しやすいプレゼンテーションスキルについて学ぶ。			
4	鳥居	全国障がい者スポーツ大会概要	全国障がい者スポーツ大会の概要、意義、開催の目的などを学ぶ。 また、それに関連して理学療法士や作業療法士がどのように貢献しているかを学ぶ。			
5	鳥居	障がい者スポーツ（パラスポーツ）の普及	各都道府市町村などにおける障がい者スポーツ（パラスポーツ）の振興の現状を理解し、障がい者が地域でスポーツに取り組む際の課題について考える。 障がい者スポーツ（パラスポーツ）関連資格制度について学ぶ。			
6	鳥居・加藤	地域における障がい者スポーツ（パラスポーツ）の実際	この地域で開催されている障がい者スポーツ（パラスポーツ）イベントの目的や意義を学ぶ。また、それに関わる練習会などに参加し、障害がある人たちと交流しながら共にスポーツを体験する。 障害がある人がスポーツを実施することの効果や課題を考える。			
7	鳥居	障がい者スポーツ（パラスポーツ）関連政策	障がい者福祉施策や関係法規、障がい者スポーツ（パラスポーツ）関連法規について学び、障がい者を取り巻く社会情勢や環境などについて考える。			
8	鳥居	障がい者スポーツ（パラスポーツ）科学1	各種障害の理解とスポーツ実施による影響について学ぶ。			

[illegible]

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法概論		リハビリテーション学科 理学療法専攻	1学年	必修	2単位	30時間
担当教員名						
宮津 真寿美						
実務経験のある教員						
宮津 真寿美：医療機関で理学療法士として勤務し、理学療法の経験のある教員が、理学療法についての講義を行う。						
授業概要						
理学療法概論では、理学療法の定義、理学療法士の役割、理学療法に必要な知識や主対象（疾患、病期、職域別）などを学習する。理学療法の全体像をつかむだけでなく、理学療法のおもしろさややりがいを知り、各自が「理想の理学療法士像」をイメージできるようにする。理想の理学療法士をめざし、体系づけられた学習計画を立案し、今後の学習に向けて意欲を高める。						
学習到達目標						
知識・理解	①理学療法の定義と概要、理学療法士の役割、必要な知識や対象を説明することができる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	②理想の理学療法士になるための学習計画ができる。（DP1、2） ③理学療法を理解した上で、理学療法士の仕事をわかりやすく発表できる。（DP1、2、5）					
技能						
関心・意欲 ・態度	④グループワークや発表で、他者の意見を受け入れ、討論し、自分を意見を持つことができる。（DP1、2、5）					
授業形態						
講義	教科書を中心とした学修と、ブレインストーミング、グループワークなどのアクティブラーニングを組み合わせる。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	宮津	理学療法を考える	理学療法を理解し、どのような能力が必要であるのかを考える。ブレインストーミング。			
2	宮津	理学療法を考える	理学療法士になるために、どのような学習が必要であるのかを考える。ブレインストーミング。			
3	宮津	理学療法概要－理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法の役割	理学療法の定義と概要、理学療法とリハビリテーションの関係、理学療法士に求められる人間性 ：Lecture 1			
4	宮津	理学療法の背景（1）－障害の概念・分類、保険制度	障害のとらえ方（ICIDH、ICF）、障害の受容、保険制度（医療保険、介護保険）、超高齢社会と理学療法の今後 ：Lecture 2			
5	宮津	理学療法の背景（2）－歴史・法律、職業倫理、日本理学療法士協会	理学療法の歴史、理学療法士及び作業療法士法、日本理学療法士協会、理学療法士の職業倫理ガイドライン ：Lecture 3			
6	宮津	理学療法の構成	運動療法、物理療法、障害分類、理学療法の流れ、理学療法の主対象、病期別および専門分野・職域別の理学療法 ：Lecture 4			
7	宮津	理学療法に必要な知識と実習	理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則、標準的な科目（基礎分野、専門基礎分野、専門分野）、学習への取り組み ：Lecture 5			
8	宮津	理学療法の主対象-中枢神経系	脳血管疾患、脳損傷、神経難病、脊髄損傷、小児疾患に対する理学療法の概要を学修する。 ：Lecture 6			
9	宮津	理学療法の主対象-運動器系	骨折、関節リウマチ、関節疾患、末梢神経損傷、脊椎疾患、スポーツ障害、スポーツ外傷に対する理学療法の概要を学習する。 ：Lecture 7			
10	宮津	理学療法の主対象-内部障害系	呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に対する理学療法の概要を学習する。 ：Lecture 8			

11	宮津	理学療法の主対象 ーがん、介護予防	がんの疫学と治療、がんに対する理学療法、介護予防（サルコペニア、フレイル）に対する理学療法の概要を学習する。 ：Lecture 9					
12	宮津	病期・職域別の理学療法	医療施設の分野で働く理学療法士の特徴を学習する。グループワーク ：Lecture 10～15					
13	宮津	病期・職域別の理学療法	介護施設や在宅の分野で働く理学療法士の特徴を学習する。グループワーク ：Lecture 10～15					
14	宮津	病期・職域別の理学療法	健康や予防の分野で働く理学療法士の特徴を学習する。グループワーク ：Lecture 10～15					
15	宮津	病期・職域別の理学療法	教育や研究の分野で働く理学療法士の特徴を学習する。グループワーク ：Lecture 10～15					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●				60	①
	レポート		●	●		●	20	①②④
	発表		●	●		●	20	①③④
評価の 特記事項	レポートと発表の評価基準は、授業内で示す。 受講態度が不良な場合は、減点する。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（予習）教科書内の各Lectureの「この講義を理解するために」を熟読し、学習の目的を理解する。約30分 （復習）授業のプリントなどを振り返り、各自でまとめ直すなど、十分に理解する。約30分～2時間 その他、必要に応じて授業時間外に、レポート作成、発表準備などを行う。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
授業に対する疑問点や質問は、随時受け付ける。 筆記試験は返却しないが、希望があれば研究室内で閲覧が可能である。								
教科書								
「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 理学療法概論」（中山書店）								
参考図書								
理学療法概論テキスト（南江堂）、理学療法概論（医歯薬出版）、理学療法概論（羊土社）、基礎理学療法概論（メディカルビュー）などの理学療法概論の成書や、その他「理学療法」「リハビリテーション」に関連する多数の成書が参考になる。								
備考：履修者への要望								
理学療法について様々な観点から学び、各自が「理想の理学療法士になるために何を学ぶべきなのか」を考え、今後の学習につなげてほしい。積極的に学ぶ姿勢を期待する。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法研究法Ⅰ		リハビリテーション学科理学療法学 専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
宮津 真寿美、加藤 真弓、松村 仁実、臼井 晴信、木村 菜穂子、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介						
実務経験のある教員						
宮津 真寿美、加藤 真弓、松村 仁実、臼井 晴信、木村 菜穂子、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介：医療機関で理学療法士として勤務し、理学療法の経験のある教員が、理学療法研究についての講義を行う。						
授業概要						
医療の専門職である理学療法士は、高い問題解決能力が必要である。理学療法研究法Ⅱと卒業研究を通し、これまでの学習で抱いた疑問や気付いた矛盾を明らかにするための、思考過程と問題解決能力を修得する。具体的には、各教員の指導のもと、研究計画を立案、研究を実施、研究発表を行う。この科目では、まず、理学療法における研究の意義を理解し、理学療法研究法Ⅱにおいて研究計画を立案するため、先行研究を調べ方を学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①研究の意義、過程、デザインが説明できる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	②研究発表を聞き、疑問点を持ち、質問できる。（DP1,2）					
技能	③必要な先行研究が検索できる。（DP1）					
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	スライドなどによる講義と、PCを使った文献検索の方法を学ぶ。 構想発表会、卒業研究発表会に参加し質問する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	宮津	研究の意義や種類	コースオリエンテーション、研究の意義、過程、種類について学習する。			
2	宮津	先行研究の検索	文献の検索方法			
3	宮津	研究を知る	卒業研究構想発表会に参加し、質問する。			
4	宮津	研究を知る	卒業研究構想発表会に参加し、質問する。			
5	宮津	研究を知る	卒業研究発表会に参加し、質問する。			
6	宮津	研究を知る	卒業研究発表会に参加し、質問する。			
7	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究を知る	教員の研究、指導研究領域を学習する。			
8	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究を知る	教員の研究、指導研究領域を学習する。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
		小テスト	●				20	①
		課題		●	●		80	②③
評価の 特記事項	課題：卒業研究構想発表会ならびに卒業研究発表会に参加し、研究発表に関する質問をする。 なお、合格点に満たない場合でも、再試験は実施しない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
講義の理解、検索方法の練習、課題の遂行などにそれぞれ1～3時間程度の復習が必要である。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
質問や疑問は、授業時間外でも受け付ける。								
教科書								
なし。適宜、必要な資料を配布する。								
参考図書								
理学療法研究法に関する成書								
備考：履修者への要望								
この科目は、理学療法研究法Ⅱ、卒業研究とつながっている。3科目を通じて、理学療法士に必要な問題解決能力を向上させるつもりで受講して欲しい。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法研究法Ⅱ		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
宮津 真寿美、加藤 真弓、松村 仁実、臼井 晴信、木村 菜穂子、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介、田中 雅章						
実務経験のある教員						
加藤 真弓、宮津 真寿美、木村 菜穂子、松村 仁実、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田光佑：医療機関で理学療法士として勤務経験のある教員が、理学療法士として就労する上で必要になる研究の手法について講義する。						
授業概要						
医療の専門職である理学療法士は、高い問題解決能力が必要である。この科目では、これまでの学習で抱いた疑問や気付いた矛盾を明らかにするための、思考過程と問題解決能力を修得する。具体的には、各教員の指導のもと、研究計画を立案、研究計画の研究発表を行う。						
学習到達目標						
知識・理解	①データの解析方法が説明できる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	②研究計画の発表ができる。（DP1、2、5）					
技能						
関心・意欲 ・態度	③指導教員と討論し、研究計画を立てることをができる。（DP2、5）					
授業形態						
演習	スライドなどによる講義（1～6回）と、担当教員によるゼミ形式（7-14回）、研究計画の発表を行う（15回）。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	宮津	研究計画の立案	コースオリエンテーション、研究計画をたてる、研究倫理			
2	田中	基準値、正常値の根拠	健康診断で用いられる基準値・正常値はどの様にして決められているのであろうか。根拠について解説する。また、この講義で習得してほしい統計技術のプレゼンデモを行う。			
3	田中	標本調査	標本調査の調査票の作成方法について解説する。			
4	田中	正規分布	正規分布について解説し、データを使って正規分布のグラフをPCで作成する。			
5	田中	箱ひげ図	母集団の分布を表現する箱ひげ図について解説し、PCを使ってグラフ作成と検定を行う。			
6	田中	介入効果を評価する	相関係数を理解し、介入効果を評価する方法を実践する。			
7	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究テーマの決定	先行研究を検索し整理し、文献レビューなど机上の検討を行う。			
8	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究テーマの決定	先行研究を検索し整理し、文献レビューなど机上の検討を行う。			
9	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究テーマの決定	先行研究を検索し整理し、文献レビューなど机上の検討を行う。			

10	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究テーマの決定	プロトコールを実践し、問題点を整理し、研究目的・方法の修正を行う。					
11	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究テーマの決定	プロトコールを実践し、問題点を整理し、研究目的・方法の修正を行う。					
12	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究テーマの決定	具体的な研究計画を作成し、発表準備を行う。					
13	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究テーマの決定	具体的な研究計画を作成し、発表準備を行う。					
14	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究テーマの決定	具体的な研究計画を作成し、発表準備を行う。					
15	宮津、加藤、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究計画の公開討論	研究計画の公開検討を行う。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	発表		●	●		●	70	①②③
	その他					●	30	③
評価の 特記事項	構想発表会で研究計画を発表する（70％：抄録の提出10％、発表内容20％、わかりやすさ20％、質疑応答20％）。 その他の評価（30％）は、出席状況、履修態度、約束遵守などにより、減点する。 なお、すべての評価方法の合計点数に満たない場合でも、再試験等は実施しない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
第7回以降は、指導教員のもと、必要があれば授業時間外の時間を使って行われる。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
成績評価点は担当教員から伝える。疑問点は随時受け付ける。								
教科書								
なし 講義形式の授業は適宜プリントを配布する。								
参考図書								
統計学に関しては、「メディカルスタッフのための統計手法（羊土社）」など多数ある。研究法に関しては、「理学療法研究法」（医学書院）など多数ある。								
備考：履修者への要望								
研究を行うのは学生自身である。教員の指導を受けながら、各自の積極的な行動によって、目標が達成できる。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床運動学		リハビリテーション学科 理学療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
松村 仁実、濱田 光佑						
実務経験のある教員						
松村 仁実・濱田 光佑：医療機関で理学療法士として勤務し、患者に対して理学療法実施経験のある教員が、臨床運動学についての講義を行う。						
授業概要						
理学療法士は、障害を有する対象者の姿勢や動作を理解する必要がある。運動学の中の「姿勢、動作（立ち上がり・歩行）」の観点から、臨床における対象者の筋骨格系、神経系の異常を捉える力を養う。 本科目では、演習を通して、まずは、正常な姿勢、動作を再確認した上で、姿勢観察・動作分析を実践して正常から逸脱した所見を抽出し、その原因を説明できるよう学修する						
学習到達目標						
知識・理解	①臨床運動学の観点を述べることができる (DP1) ②健常者の姿勢、動作（特に起居、立ち上がり、歩行）について述べることができる (DP1)					
思考・判断 ・表現	③動作分析・歩行分析の方法を説明することができる (DP1) ④疾患者の姿勢、動作（特に起居、立ち上がり、歩行）を説明することができる (DP5) ⑤姿勢分析、動作分析を通して対象者の機能障害を予測することができる (DP5)					
技能	⑥姿勢分析、動作分析を実施することができる (DP5)					
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
演習	講義、実習を交えながら進める。 グループ学習による実習も含む。 動作分析の結果をまとめ発表を行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	松村・濱田	運動力学の基礎①	コースオリエンテーション 臨床運動学の位置づけ、その方法について学修する。			
2	松村・濱田	運動力学の基礎②	生体力学を理解し、力学的視点で姿勢・動作を捉えることを学修する。 動作時の筋活動について学修する			
3-4	松村・濱田	姿勢（臥位、座位、立位）	各姿勢の重心と支持基底面の関係を学修する。疾患者の姿勢の特徴についても学修する。			
5-6	松村・濱田	椅子からの立ち上がり動作分析	立ち上がり動作分析の方法を学修する。健常者と疾患者の立ち上がり動作分析の実践、分析結果をまとめる。疾患者の機能障害を抽出する。			
7-8	松村・濱田	起居動作分析	起居動作分析の方法を学修する。健常者と疾患者の起居動作分析の実践、分析結果をまとめる。 疾患者の機能障害を抽出する。			
9-10	松村・濱田	健常者の歩行分析	健常者の歩行分析の実践、分析結果をまとめる。			
11-12	松村・濱田	疾患者の歩行分析と機能障害の抽出	疾患者の歩行分析を実践する。疾患者の機能障害を抽出する。			
13-14	松村・濱田	疾患者の歩行分析と機能障害の抽出・ 分析	疾患者の歩行分析を実践する。疾患者の機能障害を抽出する。			
15	松村・濱田	歩行分析結果のプレゼンテーション	疾患者の歩行分析の結果をまとめ、抽出した機能障害を含め発表をする。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験	●	●	●		60	①②③④⑤⑥
	小テスト	●	●			20	①②③④
	発表資料		●	●		10	④⑤⑥
	発表内容	●	●	●		10	②④⑤⑥
評価の 特記事項	筆記試験＋小テスト＋発表資料＋発表内容の合計点が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>（予習）正常な姿勢、立ち上がり、起居、歩行について調べ、用語の意味を調べる（約1時間） 用語の理解などを確認するために、小テストを実施します。 （復習）授業を振り返り、動作分析がどのように行われているのかを理解する。また、実践してみる（約1～2時間） グループごとに発表用の資料の作成をし、それに沿った発表を実施します。</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<p>小テスト・試験は研究室に保管しています。事前に連絡の上、確認することができます。 発表資料については、講義内で内容についてフィードバックを行います。</p>							
教科書							
必要に応じて資料を配布します。							
参考図書							
<p>「基礎運動学」中村隆一ほか 医歯薬出版 「臨床運動学」中村隆一ほか 医歯薬出版</p>							
備考：履修者への要望							
<p>運動学の単位が修得できている者の受講が望ましい。 正当な理由なき欠席・遅刻・早退は厳禁。証明書が必要。</p>							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動療法総論		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
松村 仁実						
実務経験のある教員						
松村 仁実：医療機関で理学療法士として勤務し、患者に運動療法を実施経験のある教員が、運動療法についての講義を行う。						
授業概要						
運動療法は臨床における理学療法の中核をなすものであり、運動療法の基本を科学的根拠に基づいて理解することは、臨床的な障害別理学療法を学ぶ上で重要な要素となる。また、運動療法の背景的理論は、解剖学、生理学、運動学、病理学などの基礎医学の応用である。本科目では、運動療法の概念、基礎、解剖学・生理学・運動学の知識を用いた基本的な介入方法について講義形式で学修する。						
学習到達目標						
知識・理解	①運動療法の概念、目的を理解することができる (DP1) ②運動療法を行うための基礎知識を理解することができる (DP1)					
思考・判断 ・表現	③基本的な運動療法を解剖学、生理学、運動学、病理学的に理解することができる (DP5)					
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	教科書、スライドを用い、グループディスカッションも行いながら講義を進める。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1－2	松村	運動療法の基礎	コースオリエンテーション 運動療法の定義、目的、歴史、機械・器具について学修する。			
3－4	松村	運動のしくみ	運動のしくみ、力学の基礎など基礎知識を学修する。 運動器系の構造と機能について、また運動が及ぼす影響について学修する			
5－7	松村	運動療法に関係する基礎事項を学修する	運動に関係する運動器（骨・筋を中心）に学修する 運動に関係する神経系について学修する			
8	松村	基本的な運動療法	運動療法の介入前の状態の把握について学修する。			
9	松村	基本的な運動療法 関節可動域運動	関節の構造に応じた運動について学修する。また、関節可動域制限を呈する病態を理解しそれに対する運動療法を学修する。			
10	松村	基本的な運動療法 筋力増強運動	筋収縮のメカニズムを理解し、筋の収縮様式の特徴とそれを活かした運動療法を学修する。			
11	松村	基本的な運動療法 持久力増強運動	持久力増強運動にかかわる運動生理学的な知識を整理し、運動処方の方法を学修する。			
12－13	松村	基本的な運動療法 感覚異常に対する運動療法、協調性運動	感覚異常や強調し障害により生じる病態の理解、それらに対する運動療法を学修する			
14-15	松村	基本的な運動療法 基本動作能力低下に対する運動療法	代表的な疾患により生じる基本動作能力の低下（加齢による影響も含む）を理解し、それに対する運動療法を学修する			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			85	①②③
	小テスト		●	●			15	①②③
評価の 特記事項	再試験は、筆記試験と小テストの合計点が6割に達しなかった場合、実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（予習）該当する範囲の教科書を読み、不明点をまとめる。（30分程度） （復習）授業を振り返り、理解する。（30分程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
小テストの振り返りとして、再度説明が必要な内容について次回の講義の中でフィードバックする。小テストの内容の確認については、研究室に保管のため、事前連絡の上確認することができる。 科目試験は、すべての試験が終了後に、事前連絡の上、内容を確認することができる。								
教科書								
「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 運動療法学」石川朗総編集 中山書店 必要に応じてプリント配布する								
参考図書								
「基礎運動学」中村隆一 ほか 医歯薬出版								
備考：履修者への要望								
運動学、解剖学、生理学などの科目と関連しながら理解するように努めること。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法管理		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	3学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
加藤 真弓、松村 仁実、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、藤本 大介						
実務経験のある教員						
加藤 真弓、松村 仁実、臼井 晴信、山田南欧美、齊藤 誠、藤本 大介：医療機関で理学療法士として実務経験のある教員が、卒業後に必要な理学療法士としての 管理学の知識や求められる態度を教授する。						
授業概要						
理学療法士の有資格者は増加し職域も広がっている。社会における理学療法士の存在感や役割も増加している。理学療法士が専門職集団として機能するためには 適切な管理・運営が必要である。本科目では、卒業後に必要な理学療法士としての管理学の知識や求められる態度を学修する。理学療法士の一員として存在する だけでなく、社会における専門職集団としてどう行動すべきか自ら考えられるようになることを講義目標とする。						
学習到達目標						
知識・理解	①理学療法における管理・運営について説明することができる。（DP1, DP2）					
思考・判断 ・表現	②管理・運営のための適切な行動を説明できる。（DP1, DP2, DP3）					
技能						
関心・意欲 ・態度	③社会における理学療法士のすべき役割や存在意義に関心を持ち、適切な態度や行動について他者と討論できる。（DP6）					
授業形態						
講義	講義を含めたグループワーク形式のアクティブ・ラーニングを実施する					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	加藤	理学療法管理学	管理学とは何か学修する。 リハビリテーションにおける管理学について学修する。 理学療法管理学について討論する。			
2～3	臼井	リスク管理	理学療法におけるリスク管理について討論する 物品管理について討論する ハラスメントやストレスマネジメントについて討論する			
4	齊藤	病院における管理・運営	病院における業務管理・運営について学修する 臨床実習や卒後教育について討論する			
5	藤本	介護保険関連施設における管理・運 営	介護保険関連施設における業務管理、運営について討論する 施設の経営管理について学修し討論する			
6	松村	卒前教育	卒前教育について学修し討論する 学科・専攻運営について学修し討論する			
7～8	加藤、松村、臼井、齊 藤、山田、藤本	医療的コーチング	医療的コーチングについて学修し実践する。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	レポート		●	●		●	80	①②③
	発表		●	●		●	20	①②③
評価の 特記事項	<p>レポートは各講義で課し評価する。また講義内でのグループワーク及び発表を行った場合、発表点を評価する。 真摯な受講態度、積極的な受講態度を求める。 この科目は試験および再試験は行わない。レポートや発表の合計点が合格点に満たない場合、単位不認定となる。</p>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>理学療法に必要な基礎的知識が不足している場合、補ったうえで講義に参加することが望ましい。 事前に教科書の該当箇所や、その他成書により予習して講義に臨むこと。 これまでの学内での学修や臨床実習での学びを整理し、疑問点を抽出しておくこと。 また教科書を含む多くの情報媒体を利用して知識を深め考察すること。（必要な時間：4時間）</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
発表やグループワークに対して講義内でフィードバックを行う。								
教科書								
PTOTビジュアルテキスト リハビリテーション管理学第1版								
参考図書								
備考：履修者への要望								
積極的に知ろうとする態度と、他者の意見を多角的、客観的に分析し、自らの行動変容に繋がる学修成果を得られることを期待します。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法倫理		リハビリテーション学科 理学療法専攻	3学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
松村 仁実、宮津 真寿美、木村 菜穂子、臼井 晴信、濱田 光佑、藤本 大介						
実務経験のある教員						
松村 仁実、宮津 真寿美、木村 菜穂子、臼井 晴信、濱田 光佑、藤本 大介：医療機関で理学療法士として実務経験のある教員が、医療や福祉における様々な倫理的問題を検討し、それをどの様に解釈するか、また、その問題解決のために、医療や福祉はどうあるべきかを講義する。						
授業概要						
この科目を受講するまでの内容を基にして卒業後の臨床において必要な倫理的事項を学習する。理学療法士は、リハビリテーションを実施する中で様々な倫理的側面について考える必要がある。単に与えられた役割をこなすのではなく、全人間的な視点で対象者に接する能力を身につけた医療人を目指す。医療や福祉における様々な倫理的問題を検討し、それをどの様に解釈するか、また、その問題解決のために、医療や福祉はどうあるべきかを考えることがこの講義の目的となる。						
学習到達目標						
知識・理解	①医療や福祉の中での理学療法に関連する倫理的な問題点を具体的に検証し、自分の見解を確立し、客観的な表現で説明することができる。（DP4）					
思考・判断 ・表現	②理学療法における倫理的な諸問題について説明ができる。（DP4）					
技能						
関心・意欲 ・態度	③理学療法の現場における倫理的問題に対し関心を持ち、倫理的な態度について他者と討論できる。（DP3, DP4）					
授業形態						
講義	講義を含めたグループワーク形式のアクティブ・ラーニングを実施する					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	松村	理学療法士の職業倫理	医療における倫理とは何かを学修する。 理学療法士に求められる職業倫理について学修する。			
2	木村	医療倫理規定および関係法規	医療関係業種の倫理規定について学修する□ 医療関係法規について学修する			
3～4	臼井	対象者と治療者の権利と尊厳	社会におけるマイノリティと差別、偏見の現状について学修し討論する 差別の構造について学習する 医療における人権と尊厳について討論する			
5～6	濱田、藤本	理学療法倫理の臨床応用	臨床実習などの経験から、臨床で起こりうる倫理的問題について考える。 臨床場面で遭遇する倫理的問題について討論する。			
7～8	宮津	生命倫理	生と死について討論する。 障害や死に対し理学療法士としてどのように向き合うか討論する。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	レポート	●	●		●	80	①②③
	発表	●	●		●	20	①②③
評価の 特記事項	レポートは各講義で課し評価する。また講義内でのグループワーク及び発表を行った場合、発表点を評価する。倫理的事項を取り扱ううえで、受講態度によって減点することがある。真摯な受講態度、積極的な受講態度を求める。この科目は試験および再試験は行わない。レポートや発表の合計点が合格点に満たない場合、単位不認定となる。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>理学療法に必要な基礎的知識が不足している場合、補ったうえで講義に参加することが望ましい。</p> <p>講義内容の課題は、専門書を含め、多くの情報媒体を利用して知識を深める必要がある。また、新聞報道など、医療倫理的な最新情報も積極的に取り入れる必要がある。多彩な情報を集めて学修すること。（必要な時間：4時間）</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
発表やグループワークに対して講義内でフィードバックを行う。							
教科書							
PTOTビジュアルテキスト リハビリテーション管理学第1版							
参考図書							
備考：履修者への要望							
<p>理学療法士として倫理的事項についての正しい知識と、それに基づいた態度で臨床現場に臨むことは必要最低限の条件です。この講義では、先ず積極的に知ろうとする態度と、他者の意見を多角的、客観的に分析し、自らの行動変容に繋がる学修成果を得られることを期待しております。また倫理的諸問題に対して真摯な態度で考察をすること、他者の価値観を否定しないことを望みます。</p>							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
検査測定法		リハビリテーション学科 理学療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
木村 菜穂子、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑						
実務経験のある教員						
木村菜穂子、山田南欧美、齊藤誠、濱田光佑：医療機関等で理学療法士として勤務し、患者に対し理学療法・理学療法評価の実施経験のある教員が、検査測定法の講義・演習を行う。						
授業概要						
本科目では、理学療法を行う上で重要となる、対象者の障害把握の手段の一つである検査測定についての種類、目的、方法について講義形式で学修する。 また多くの検査測定方法の中でも特に臨床において用いられることの多い形態測定、関節可動域（ROM）測定、徒手筋力検査法（MMT）の検査方法や測定技術について学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①理学療法評価の意義と、検査測定法の種類、目的、方法を説明することができる。（DP1） ②形態測定・関節可動域測定・徒手筋力検査法の意義、方法を理解し、説明することができる。（DP1）					
思考・判断 ・表現						
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	スライドを用いての講義と、演習(実際の実技を用いて確認)を組み合わせで行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	木村	授業オリエンテーション 理学療法評価とは	授業概要等のオリエンテーション 理学療法評価、検査測定の意義			
2～3	木村・山田・齋藤・濱田	形態測定	・形態測定の方法を学ぶ ・形態測定実施に必要なランドマークの位置確認と触察方法を学ぶ			
4～6	木村・山田・齋藤・濱田	関節可動域測定	①肩・肩甲骨・肘・前腕の関節可動域測定方法を学ぶ。 ②下肢(股・膝・足関節)の関節可動域測定方法を学ぶ。 ③頭頸部・体幹・手関節・手指の関節可動域測定方法を学ぶ。			
7	木村・山田・齋藤・濱田	形態測定・関節可動域測定のまとめ	形態測定・関節可動域測定のまとめと復習			
8	木村	徒手筋力検査法＜総論＞	徒手筋力検査法の意義、目的、原則を学ぶ。			
9～13	木村・山田・齋藤・濱田	徒手筋力検査法＜各論＞	①肩甲骨・肩関節の徒手筋力検査法を学ぶ。 ②肘・前腕・手関節・手指の徒手筋力検査法を学ぶ。 ③股関節・膝関節の徒手筋力検査法を学ぶ。 ④足関節・足部の徒手筋力検査法を学ぶ。 ⑤頭頸部・体幹・顔面の徒手筋力検査法を学ぶ。			
14～15	木村・山田・齋藤・濱田	徒手筋力検査法＜まとめ＞	徒手筋力検査法全体の復習			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●				90	①②
	小テスト		●				10	①②
評価の 特記事項	<p>筆記試験は、前期試験（範囲：理学療法評価とは・形態測定・関節可動域測定）と後期試験（範囲：徒手筋力検査法）に分けて実施します。単位取得には、前期・後期試験で各60%以上、かつ最終成績（筆記試験90%＋小テスト10%）の60%以上の得点が必要です。また受講態度不良の者は、筆記試験点数から10%減ずることがあります。再試験を実施することがあります。</p>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>予習：各回の講義内容を確認し、該当する範囲の意義、各検査・測定方法を確認する（30分～1時間）。 復習：講義内容・小テスト内容を再確認する（30分～1時間）。</p>								
<p>小テストと試験の答案は返却しません。ただし、得点は各自に提示します。またそれぞれの答案は木村研究室にて保管しており、希望者には個別で開示します（事前連絡必要）。</p>								
教科書								
<p>「理学療法評価学テキスト」細田多穂監修 南江堂 「新・徒手筋力検査法」原著第10版、津山直一訳 協同医書出版社</p>								
参考図書								
<p>「骨格筋の形と触察法」改訂第2版 河上敬介 磯貝香編集 大峰閣 その他、補足資料を講義中に配布することがあります。また、数多くの成書が出版されているため、自分に合ったものを活用してください。</p>								
備考：履修者への要望								
<p>この講義で学習するのは臨床現場で最も実施頻度の高い検査・測定項目であり、理学療法士にとって必須の技術です。短期間で多くの内容を理解するため、予習・復習は必須となります。講義中は自分の理解度を高めるための時間として、真摯で積極的な受講態度を求めます。 ※主担当教員：木村菜穂子</p>								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
検査測定法実習		リハビリテーション学科 理学療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
木村 菜穂子、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑						
実務経験のある教員						
木村菜穂子、山田南欧美、齊藤誠、濱田光佑：医療機関等で理学療法士として勤務し、患者に対し理学療法・理学療法評価の実施経験のある教員が、検査測定法の実習を行う。						
授業概要						
検査測定法で学習した形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査法についての検査方法や測定技術を、実習形式で学修し、その技術を確実に実施できる能力を習得する。また、各検査結果について考察し、検査や測定結果の保つ意味を検証する。同時に、対象者への接し方、触れ方、理学療法士としての身体の使い方についても学習する。						
学習到達目標						
知識・理解	①理学療法評価の意義と、検査測定法の種類、目的、方法を述べることができる。（DP1） ②形態測定・関節可動域測定・徒手筋力検査法の意義、方法を述べることができる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	③形態測定・関節可動域測定・徒手筋力検査法の検査結果から、測定方法や結果の持つ意味を説明することができる。（DP5）					
技能	④形態測定・関節可動域測定・徒手筋力検査法を、健常者を対象として正確に実施することができる。（DP1、DP4）					
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
実習	実技（一部講義あり）					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	木村	形態測定・関節可動域測定	形態測定・関節可動域測定の意義、目的、原則（講義）			
2～3	木村・山田・ 齊藤・濱田	形態測定	以下の内容を、学生同士が検者・被検者となり、実習を行う。 ①測定時のランドマーク触察 ②形態測定			
4～6	木村・山田・ 齊藤・濱田	関節可動域測定	以下の内容を、学生同士が検者・被検者となり、実習を行う。 ①肩・肩甲骨・肘・前腕の関節可動域測定 ②下肢（股・膝・足関節）の関節可動域測定 ③頭頸部・体幹・手関節・手指の関節可動域測定			
7	木村・山田・ 齊藤・濱田	形態測定・関節可動域測定（まとめ）	形態測定・関節可動域測定の復習			
8	木村	徒手筋力検査法＜総論＞	徒手筋力検査法の意義、目的、原則（講義）			
9～13	木村・山田・ 齊藤・濱田	徒手筋力検査法＜各論＞	以下の内容を、学生同士が検者・被検者となり、実習を行う。 ①肩甲骨・肩関節の徒手筋力検査法 ②肘・前腕・手関節・手指の徒手筋力検査法 ③股関節・膝関節の徒手筋力検査法 ④足関節・足部の徒手筋力検査法 ⑤頭頸部・体幹・手指・顔面の徒手筋力検査法			
14～15	木村・山田・ 齊藤・濱田	徒手筋力検査法＜まとめ＞	徒手筋力検査法の復習・まとめ			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	実技試験（口頭試問含む）		●	●	●		90	①②③④
	参加貢献度				●		10	④
評価の 特記事項	<p>実技試験は、前期試験（範囲：形態測定、関節可動域測定）と後期試験（範囲：徒手筋力検査法）を実施します。いずれも、検査測定の実施にあたり必要な知識を、口頭試問にて評価します。再試験を実施することがあります。</p> <p>※検査測定法実習の単位認定には、検査測定法の単位取得が必須条件となります。</p>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>予習：各回の講義内容を確認し、該当範囲の意義、各検査・測定の方法を確認し、理解できないところを明確にする。 特に、MMTでは教科書に付属している動画を参考にして行う（30分～1時間）。 復習：講義で確認した内容をふまえ、実技練習を行う。（約1～2時間）</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
希望者に対して、実技試験のフィードバックを行います（事前連絡必要）。								
教科書								
<p>「理学療法評価学テキスト」細田多穂監修 南江堂 「新・徒手筋力検査法」原著第10版 津山直一訳 協同医学出版社</p>								
参考図書								
<p>「骨格筋の形と触察法」改訂第2版 河上敬介 磯貝香編集 大峰閣 その他、補足資料を講義中に配布することがあります。また、数多くの成書が出版されているため、自分に合ったものを活用してください。</p>								
備考：履修者への要望								
<p>この講義で学習するのは臨床現場で最も実施頻度の高い検査・測定項目であり、理学療法士にとって必須の技術です。短期間で多くの内容を理解する必要があるため、予習・復習は必須となります。講義中は自分の理解度を高めるための時間として、真摯で積極的な受講態度を求めます。</p> <p>※主担当教員：木村菜穂子</p>								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人体触察法実習		リハビリテーション学科 理学療法専攻	1学年	必修	1単位	45時間
担当教員名						
松村 仁実、木村 菜穂子、山田 南欧美						
実務経験のある教員						
松村 仁実、木村 菜穂子、山田 南欧美：医療機関で理学療法士として勤務し、患者に対して理学療法実施経験のある教員が、人体触察法についての実習を行う。						
授業概要						
理学療法士は、患者を直接触察して評価し、治療を行う能力が必要である。解剖学や運動学で学んだヒトの立体的（三次元的）構造の位置や動きを知り、触察できなければ、評価や治療はできない。そこで、本科目は、皮膚を通して内部組織を視察・触察する技術を身につけることを目的として実習形式で学修する。また、骨・関節・筋人・神経を確実に触察することにより、その位置、形、固さ、大きさなどを体表から確認し、解剖学や運動学で学んだ人体の構造を三次元的視点から確実なものとし、徒手筋力テストや神経学検査法などの評価法等の基礎を構築する。さらに、触察体験をすることにより、被治療者の気持ちを理解し、実際の臨床場面で対象者に不快感を与えない応対の方法を学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①筋の起始・停止・神経支配を述べることができる。(DP1) ②筋の触察に関係する骨指標を述べることができる。(DP1)					
思考・判断・表現	③触察に関する基礎事項について説明することができる(DP1)					
技能	④身体各部の筋、骨、神経、血管を皮膚を通して視察・触察し、皮膚に投影できる。(DP5)					
関心・意欲・態度	⑤被治療者役にあたる相手に対して、配慮することができる。(DP4)					
授業形態						
実習	学生数名でグループをつくり、互いの体表面上に指定項目を描くことを中心とした実習を行う。 基礎知識については、毎回筆記の小テストと前回の範囲の筋を口頭試問の形式で、知識習得を確認する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	松村・木村・山田	オリエンテーション	基礎事項、骨格（肩甲骨、鎖骨）の触察法を学修する。			
2	松村・木村・山田	肩の筋①	三角筋、僧帽筋、肩甲挙筋の触察法を学修する。			
3	松村・木村・山田	上腕後面の筋	上腕三頭筋の触察法を学修する。			
4	松村・木村・山田	上腕前面の筋	上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋、神経の触察法…学修する。			
5	松村・木村・山田	肩の筋②	棘上筋・棘下筋、小円筋、菱形筋、大円筋の触察法を学修する。			
6	松村・木村・山田	背部の筋①	広背筋、肩甲下筋の触察法を学修する。			
7	松村・木村・山田	腹部の筋、血管	胸郭、前鋸筋、腹直筋、腹斜筋、動脈の触察法を学修する。			
8	松村・木村・山田	胸部の筋	大胸筋、小胸筋の触察法を学修する。			
9-10	松村・木村・山田	頸部の筋、血管、神経	胸鎖乳突筋、前・中・後斜角筋、神経、動脈の触察法を学修する 板状筋、半棘筋の触察法を学修する。			
11	松村・木村・山田	骨盤・腰部の筋	骨盤、腸腰筋の触察法を学修する。			
12	松村・木村・山田	臀部の筋	大殿筋・中殿筋、深層外旋6筋の触察法を学修する。			

13	松村・木村・山田	背部の筋②	腸肋筋、最長筋、腰方形筋、多裂筋の触察法を学修する。					
14	松村・木村・山田	大腿の筋①、血管、神経	大腿二頭筋、半腱様筋・半膜様筋、神経、動脈の触察法を学修する。					
15	松村・木村・山田	大腿の筋②、血管、神経	薄筋、縫工筋、大腿筋膜張筋、神経、動脈の触察法を学修する。					
16	松村・木村・山田	大腿の筋③	大腿四頭筋の触察法を学修する。					
17・18	松村・木村・山田	下腿の筋①・②、血管、神経	下腿三頭筋、膝窩筋、後脛骨筋、趾屈筋、神経、動脈の触察法を学修する 前脛骨筋、腓骨筋、趾屈筋、神経、動脈の触察法を学修する。					
19	松村・木村・山田	前腕の前面の筋、血管、神経	円回内筋、長掌筋、手根屈筋、神経、動脈の触察法を学修する。					
20	松村・木村・山田	指の筋	指の屈筋の触察法を学修する。					
21	松村・木村・山田	前腕後面の筋	肘筋、尺側手根伸筋、指伸筋、指外転筋の触察法を学修する。					
22	松村・木村・山田	指、前腕の筋	腕橈骨筋、橈側手根屈筋の触察法について学修する。					
23	松村・木村・山田	全身の筋	全範囲分の触察法の復習と確認をする。					
観点別 成績評価と 到達目標 の 関連	評価の方法／評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			34	①②③
	小テスト		●	●	●	●	32	①②③④⑤
	口頭試問				●	●	34	④⑤
評価の 特記事項	毎回の授業時に筋の基礎知識の小テスト（筆記）と先回授業範囲についての視察・触察および投影の達成を確認するデイリー達成を確認する口頭試問を行う。2回目以降で基礎事項の確認テストを実施する。また、授業終了後に総合口頭試問と筆記試験を行い総合的に評価する。基礎事項確認テストは学習が達成できていない場合は減点対象とする。 評価配分：筆記試験（100点満点）＋総合口頭試問（100点満点）＋毎回の小テスト（55点満点）＋毎回のデイリー口頭試問（44点）の計299点満点の総合点のうち180点以上（60%以上）を合格とする。ただし、筆記試験、総合口頭試問はそれぞれ60点以上必要。なお、受講態度が悪い場合も減点対象とする。原則的に全出席を求める。授業を受けるにあたり事前課題として筋図の作成と提出を求める。提出物の提出期限が守られなかったり、内容が不十分であった場合は、総合点から減点対象とする。筆記試験、総合口頭試問、総合点がそれぞれ60%に満たない場合は再試験を実施する。 （注）この科目は、試験だけを受けることはできない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（予習）教科書にある触察方法をよく読みポイントを確認する。また、筋の基礎知識を確認する。 （復習）授業を振り返り、触察の仕方を確認する。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
小テスト、試験は研究室に保管しています。 事前に連絡の上、内容を確認することができます。								
教科書								
改訂第2版 骨格筋の形と触察法 河上敬介・磯貝香 大峰閣 図解 四肢と脊柱の診かた 野島元雄 監訳 医歯薬出版								
参考図書								
分担解剖学 第一巻 森於菟・小川鼎三 ほか 金原出版 日本人体解剖学 上巻 金子丑之介 南山堂 頭・頸部の筋の形と位置 河上敬介 ほか 大峰閣 ほか 解剖学成書								
備考：履修者への要望								
学生が2人ないし3人一組になり、パートナーの体表面上に指定項目を描くことを中心に行います。また、授業内容は多く、時間が余裕がありません。無断欠席や無断遅刻および予習不足により、パートナーに迷惑をかけないように心がけてください。 お互いの皮膚に直接触れることになります。相手に対する思いやりのある態度で接しなくてはなりません。特に、手指は清潔な状態を保つようにしておくこと。 なお、皮膚のトラブル（アトピー性皮膚炎など）や外傷痕、手術痕そのほかの理由で、皮膚の接触や露出についての問題点がある場合には、必ず事前に教科担当教員もしくは学習アドバイザー教員に相談してください。（装飾品などを身につけたままの状態を含め、医療職としてふさわしくないとと思われる容姿・皮膚状態などが見られる場合には受講は認められません。）								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法評価法		リハビリテーション学科 理学療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
臼井 晴信						
実務経験のある教員						
臼井 晴信：医療・福祉機関で理学療法士として勤務経験のある教員が、理学療法を実施する上で重要な項目である評価の基本的事項を講義し、グループワークを通してその方法を教授する。						
授業概要						
本科目は、情報収集、医療面接、検査測定、統合と解釈、目標設定、問題点の抽出、治療方針の決定および治療効果の判定までの一連の理学療法評価と臨床意思決定過程、臨床推論について、グループワークによる討論やロールプレイを取り入れて学修する。動作分析によるトップダウン型臨床推論についても演習する。情報収集は、医用画像や臨床検査値などの情報をもとに意思決定をすることも目標とする。また、理学療法評価の記載方法やリスク管理および情報保護についても学修する。他職種連携による医療や福祉を実践する上で、理学療法士の役割を再度考え、理学療法評価を応用できるようにする。						
学習到達目標						
知識・理解	①理学療法評価の目的と臨床意思決定過程について説明できる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	②情報収集をもとに評価項目を選定することができる。（DP1,2） ③障害モデルに基づいた統合と解釈について理解し、問題点の抽出について説明できる。（DP1,2,4） ④記録と報告の方法と注意事項について説明できる。（DP1,2） ⑤模擬患者の関連図を作成し患者の障害像および全体像を説明できる。（DP1,2,4） ⑥理学療法場面でのリスクを想定し、対処法を説明できる（DP1,2）					
技能	⑦対象者の情報や理学療法評価結果をもとに目標設定ができる。（DP1） ⑧SOAP形式を用いて記録ができる。（DP1）					
関心・意欲 ・態度	⑨チームの一員として理学療法評価について討議できる。（DP2,3）					
授業形態						
講義	グループワークによるアクティブ・ラーニングを行います。一部、教科書とスライドによる講義を行います。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	臼井	理学療法評価概論	コースオリエンテーション 理学療法評価の概要、目的を学修する 教科書 1 章			
2	臼井	臨床推論	臨床意思決定過程（臨床推論）について学修する 教科書 1 章			
3	臼井	情報収集	情報収集の目的と方法を説明し実践する 教科書 2 章			
4	臼井	医学的情報	医学的情報の種類、扱い方、解釈について学修する 教科書 2 章			
5-6	臼井	検査・測定	検査・測定の目的と方法を学修する 検査・測定の選択について学修し実践する 教科書3章			
7	臼井	動作分析	動作分析の目的および方法について学修する 動作分析を用いたトップダウン型臨床推論を実践する			
8	臼井	障害分類	ICFの理論と理学療法評価における位置づけについて学修する ICFを用いた障害分類を実践し、理学療法評価に応用する			
9	臼井	記録と情報保護	記録の目的および方法を学修する 情報保護の目的および方法を学修する 教科書2章			
10	臼井	統合と解釈、問題点の抽出	評価結果の統合と解釈の方法を学修する 統合と解釈から問題点の抽出を実践する			

11	臼井	関連図と全体像の把握	関連図を用いて患者の障害や個人因子・環境因子の関連をまとめ、患者の全体像を把握する					
12	臼井	医療面接	医療面接で得るべき情報について学修する 医療面接の演習を行う					
13	臼井	画像と評価法	画像検査データの種類と読解について学修する 画像検査データの理学療法評価としての応用について学修する					
14	臼井	他職種連携	チーム医療、地域リハビリテーションに携わる多職種の専門性について学修する 理学療法士の役割を考え、理学療法評価の応用について演習する					
15	臼井	リスク管理	理学療法におけるリスクを想定し、対処法を学修する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●	●		70	①～⑧
	レポート		●	●	●	●	30	①～⑨
評価の 特記事項	グループワークが中心の講義です。レポートの点数には、グループレポート、個人レポート、発表が評価に含まれます。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施します。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
グループワークによるディスカッションと、資料、教科書による講義を行います。毎回授業の最後にレポートを書いて提出して頂きます(30分程度)。積極的に自分の意見を発言し、レポートに記載するようにしてください。レポートには必ず授業内容であがった疑問点を書いてください。また本講義の受講にあたり解剖学・運動学・生理学および疾患別理学療法学の授業内容を復習してください(必要な時間：1時間程度)。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポートは返却します。筆記試験の結果は開示します。								
教科書								
「標準理学療法学 理学療法評価学 第3版」 医学書院								
参考図書								
備考：履修者への要望								
グループワークでは積極的な参加をしてください。講義中には積極的に発表してください。講義中の発表はレポート点に含まれます。講義内容やテキストの内容では疑問点を抽出し、解決するように努力してください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法評価法実習		リハビリテーション学科 理学療法専攻	2学年	必修	2単位	60時間
担当教員名						
白井 晴信、松村 仁実、齊藤 誠						
実務経験のある教員における科目						
松村 仁実、白井 晴信、齊藤 誠：医療機関で理学療法士として勤務し、患者に対して理学療法評価の経験がある教員が、理学療法評価法についての実習を行う。						
授業概要						
理学療法評価法で学修した臨床思考過程を、模擬症例における演習と実習と症例検討を通して実践する。中枢神経系、運動器系、内部障害系疾患の分野を中心に、対象者の疾患や病態を理解し必要な情報を収集し、それから検査測定項目を挙げるための力を養う。さらに、関連図を用いた統合と解釈を行い、評価結果をまとめ、ICFに基づいて問題点を抽出する方法を学修する。 授業はグループワーク形式で討論し、その結果を発表する。 臨床実習では十分な基礎知識、応用力、コミュニケーション能力、測定技術が備わっているかどうかが問われる。そのため、本科目における試験ならびに成績評価は理学療法士の資格を有する教員全員で行う。						
学習到達目標						
知識・理解	①臨床推論過程を理解し、収集した対象者の情報から理学療法評価項目を適切に抽出できる。（DP1, 2）					
思考・判断 ・表現	②統合と解釈を実践し問題点および対象者の全体像を説明できる。（DP1, 2, 5） ③医療面接および検査測定結果から治療プログラムを立案できる。（DP1, 2, 5）					
技能	④対象者へのオリエンテーションと医療面接から必要な情報を収集できる。（DP1, 2, 5） ⑤検査測定を正確な方法で実践できる。（DP1, 2, 5） ⑥SOAP形式で記録できる。（DP1）					
関心・意欲 ・態度	⑦チームの一員として対象者の障害像について討議することができる。（DP3, 4, 6） ⑧医療者として適切な態度で対象者に接することができる。（DP3, 4, 6）					
授業形態						
実習	分野別にオムニバス形式で行う。グループワークによるアクティブ・ラーニングにて講義を進める。ただし一部、教科書やスライドによる講義を含める。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1～3	白井	レポートの書き方、 記録の実際、 医療面接	レポートの書き方を学修する。 SOAP形式での記録方法を学習し、演習する。 医療面接の方法を学修し、演習する。			
4～7	白井	内部疾患系障害の臨床推論と評価	1. 内部疾患障害の模擬症例情報を共に、理学療法評価に必要な情報の内容を整理する。 2. 得られた情報から臨床推論に基づき問題点の仮説を立てる。 3. 問題点の仮説を検証する方法を考える。 4. 各問題点を関連付けて整理する。			
8～11	松村	中枢神経障害の臨床推論と評価	1. 中枢神経障害の模擬症例情報を共に、理学療法評価に必要な情報の内容を整理する。 2. 得られた情報から臨床推論に基づき問題点の仮説を立てる。 3. 問題点の仮説を検証する方法を考える。 4. 各問題点を関連付けて整理する。			
12～15	齊藤	運動器系障害の臨床推論と評価	1. 運動器系障害の模擬症例情報を共に、理学療法評価に必要な情報の内容を整理する。 2. 得られた情報から臨床推論に基づき問題点の仮説を立てる。 3. 問題点の仮説を検証する方法を考える。 4. 各問題点を関連付けて整理する。			

16~19	臼井	内部疾患障害の検査測定および統合と解釈の実践	模擬症例情報を基に、 1. 検査測定を実施する。 2. 統合と解釈を実践する。 3. 問題点を整理する。 4. 治療目標を立てプログラムを立案する。					
20~23	松村	中枢神経障害の検査測定および統合と解釈の実践	模擬症例情報を基に、 1. 検査測定を実施する。 2. 統合と解釈を実践する。 3. 問題点を整理する。 4. 治療目標を立てプログラムを立案する。					
24~27	齊藤	運動器障害の検査測定および統合と解釈の実践	模擬症例情報を基に、 1. 検査測定を実施する。 2. 統合と解釈を実践する。 3. 問題点を整理する。 4. 治療目標を立てプログラムを立案する。					
28~30	臼井、松村、齊藤	症例報告	模擬症例の評価結果をレジュメおよび関連図にまとめて発表する。					
観点別成績評価と到達目標の関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	実技試験		●	●	●	●	90	①～⑧
	その他（レポート・発表）		●	●	●		10	①②③④⑥
評価の特記事項	実技試験は、臨床実習において理学療法評価を行う上で必要な技能・態度（接遇態度、対人技能、オリエンテーション能力、基本動作の介助手技、検査測定手技、リスク管理能力）が修得されているかを確認する。また臨床推論に必要な知識（専門基礎科目（解剖学、生理学、運動学）、症候学（整形外科学、神経学、内科学）、理学療法治療学（検査測定、ADL、物理療法学、義肢装具学などを含む）が修得されているかを確認する。 レポートは、各疾患の症例レポートにて評価する。ただし、提出遅延、未提出の場合は成績評価しない。 また、この科目試験は、次年度に臨床実習を履修するものが対象となる。したがって、本科目以外の進級に関わる必要単位を満たしていない場合は、本科目を履修することができない。また本科目を履修していても、進級に関わる必要単位を満たさないことが確定した場合、その後の講義および試験を受けることが出来ない。 本科目の試験に合格したが、他の進級に関わる必要単位を修得できなかった場合、本科目の試験結果は無効となる。 合格基準を満たしていない場合、実技の再試験を実施することがある。 (客観的臨床能力試験担当) 加藤真弓・宮津真寿美・木村菜穂子・山田 南欧美・濱田光佑・藤本大介							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
基礎医学（運動学、解剖学、生理学）、臨床医学（症候学、理学療法治療学）の知識を予習、復習すること。 理学療法評価法の講義と合わせ、評価の進め方について復習すること。 医療面接、検査測定手技の実技練習、基本動作介助の実技練習を自主的に進めること。 以上の講義と予習復習の内容を一元的に管理し、思考過程を整理すること。 上記の内容を講義、グループワークの進行に合わせて毎講義ごとに行ってください（3時間程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
実技試験、レポートは個別にフィードバックを行う。								
教科書								
参考図書								
備考：履修者への要望								
本講義は理学療法評価法で学修した内容と連動させること。また、グループワークを実施することが多い。グループにおいて自らの意見を主張し、そして相手の意見をよく聞き、自分以外の多くの考え方を役立てるように講義に臨むこと。そして、講義資料に加えて各自で予習復習をし、自身で思考過程を整理するよう努めること。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
中枢神経系障害理学療法治療学		リハビリテーション学科 理学療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
松村 仁実、濱田 光佑						
実務経験のある教員						
松村 仁実、濱田光佑：医療機関で理学療法士として勤務し、中枢神経障害患者への理学療法実施経験のある教員が、中枢神経障害について講義を行う。						
授業概要						
本科目は、脳の機能解剖を理解するとともに、理学療法を考える上で必要な各疾患（脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、パーキンソン病、運動失調症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症等）の病態とその障害について講義を通して学習する。中でも理学療法士として最も多く経験する脳血管障害に伴う身体障害や高次脳機能障害を中心に学習する。						
学習到達目標						
知識・理解	①脳の機能解剖を述べることができる。（DP1） ②中枢神経疾患(脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、パーキンソン病、運動失調症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症)の病態を述べることができる。（DP1）					
思考・判断・表現	③脳血管障害の病期別リハビリテーションについて説明することができる。（DP1） ④脳血管障害に対する理学療法の根拠となる機能回復のメカニズムについて説明することができる。（DP2） ⑤高次脳機能障害の各症状（失認、失行、失語、注意障害、記憶障害、遂行機能障害など）を理解し、説明することができる。（DP1）					
技能	⑥脳血管障害の予後予測することができる。（DP5）					
関心・意欲・態度						
授業形態						
講義	教科書や補足資料、スライドを使用し、オンラインでの講義や対面での講義およびグループワークによるアクティブラーニングを行います。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1-4	濱田	脳の機能解剖①神経系、大脳、②大脳辺縁系、基底核、③視床、脳幹、小脳、④伝導路、脳神経	①神経系、大脳、②大脳辺縁系、基底核、③視床、脳幹、小脳、④伝導路、脳神経の機能解剖について学修する			
5	松村	病態の理解、治療ガイドライン	脳血管障害の分類、病気別（急性期、回復期、維持期）の治療、脳卒中ガイドラインについて学修する			
6	松村	回復過程と予後	機能回復のメカニズム、予後予測について学修する			
7-8	松村	障害像①心身機能、②姿勢・動作	脳卒中患者の心身機能障害について学修する 脳卒中患者の姿勢・動作障害について学修する			
9-12	濱田	高次脳機能障害（1）概論、失語、（2）失認、失行、（3）注意障害、前頭葉障害、（4）遂行機能障害、記憶障害	高次脳機能障害の概要を学修する。その後、各論として失語を学修する。 失認、失行、注意障害、遂行機能障害、記憶障害の種類と症状について学修する			
13	松村	パーキンソン病の病態	パーキンソン病の病態、障害（機能障害/活動制限/参加制約）について学修する			
14	松村	運動失調症の病態	運動失調症の病態、障害（機能障害/活動制限/参加制約）について学修する			
15	松村	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の病態	多発性硬化症と筋萎縮性側索硬化症の病態、障害（機能障害/活動制限/参加制約）を学修する			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験	●	●	●		80	①②③④⑤⑥
	小テスト	●	●			20	①②③④⑤
評価の 特記事項	筆記試験と小テストを合わせて6割に達しなかった場合、再試験を実施する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>この科目の履修者は、受講前に解剖学・生理学で学習した中枢神経系の構造・機能をレポートにまとめ提出すること（別途掲示）。講義に臨む前に、講義計画に記載された該当する教科書をしっかりと学修してください。授業冒頭で復習小テストを実施しますので、次回の授業までに学修をしてください。オンライン授業では、授業時間内にも確認小テストを実施します。教科書は読み流すのではなく、他者に内容を説明できるように取組んでください。予習・復習で勉強したことはノートなどにまとめてください。提出を求めることがあります。（各回、1時間程度）</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<p>小テストは、講義の中で後日返却します。 試験は、研究室にて内容を確認することができます。または、後日全体へのフィードバックの時間を設定します。 確認小テストは、各自回答を確認できます。質問がある場合は、別途質問を受け付けます。 レポートについては、提出されたものにコメントし返却します。</p>							
教科書							
<p>①「神経障害理学療法学Ⅰ」（15レクチャーシリーズ）石川 朗 総編集 中山書店 ②「神経障害理学療法学Ⅱ」（15レクチャーシリーズ）石川 朗 総編集 中山書店 ③「高次脳機能障害」石合 純夫 著 医歯薬出版 ④「理学療法ハンドブック第1～4巻」細田 多穂 他編 協同医書出版</p>							
参考図書							
<p>「標準理学療法学 専門分野 運動療法学各論」吉尾 雅春 編 医学書院 「神経局在診断」半田 肇監訳 文光堂 「ベッドサイドの神経の診かた」田崎 義昭 他著 南山堂</p>							
備考：履修者への要望							
<p>・臨床において必ず脳血管障害の患者さんを担当します。単なる机上の知識ではなく、臨床に使える知識にするため、暗記レベルでの勉強にならず、内容をよく理解することを目指しましょう。そのためには、解剖学・生理学・運動学・神経学他の知識を事前に十分整理し、すでに学習した事柄と関連付けながら授業に臨むことが大切です。</p> <p>・グループワークを行う場合があります。授業時間やそれ以外の時間も有効に使ってください。</p> <p>・積極的態度で集中して受講すること。</p>							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
中枢神経系障害理学療法治療学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	2単位	60時間
担当教員名						
松村 仁実、濱田 光佑						
実務経験のある教員における科目						
医療機関で理学療法士として勤務し、中枢神経障害患者への理学療法実施経験のある教員が、中枢神経障害について実習を行う。						
授業概要						
理学療法士として多く経験する中枢神経疾患のうち、脳血管障害を中心にパーキンソン病や運動失調症といった各疾患の障害の特徴について理解する必要がある。本科目は、講義と実習を通して、脳血管障害に伴う身体障害や高次脳機能障害を脳の機能解剖との関連を整理し、評価方法とその解釈、基本的な治療方法について学修する。						
学習到達目標						
知識・理解	①健康成人が人間としての行為を行うメカニズムについて述べることができる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	②頭部画像の読影から出現する可能性のある障害を予測することができる。(DP1) ③脳障害による片麻痺や高次脳機能障害、パーキンソニズム、運動失調症の障害について説明することができる。(DP1) ④把握した障害像に必要な評価方法と基本的な理学療法を説明することができる。(DP5)					
技能	⑤疾患者の持つ問題を理解し、理学療法プログラムを立案することができる。(DP5) ⑥疾患者に対して必要な評価方法や基本的な理学療法を選択することができる。(DP5)					
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
実習	教科書や補足資料、スライドを使用した講義およびグループワークによるアクティブ・ラーニングを行います。また、評価と基本的な理学療法については、実技を行います。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1 - 2	濱田	頭部画像の見かた	オリエンテーション 正常な断層像、CTおよびMRIの見かたを学修する			
3 - 8	濱田	高次脳機能障害の評価とリハビリテーション（理学療法）	高次脳機能障害の評価の考え方を学修する。また、スクリーニングを学修する。 失認に対する評価とリハビリテーションについて学修する。中でも、特に半側空間無視について重点的に学修する。 失行、失認に対する評価とリハビリテーションについて学修する 注意機能障害に対する評価とリハビリテーションについて学修する 記憶障害に対する評価とリハビリテーションについて学修する 遂行機能障害に対する評価とリハビリテーションについて学修する			
9	松村	パーキンソン病の評価と理学療法	パーキンソン病の評価と理学療法について学修する			
10	松村	運動失調症の評価と理学療法	運動失調症の評価と理学療法について学修する			
11	松村	多発性硬化症の評価と理学療法	多発性硬化症の評価と理学療法について学修する			
12	松村	筋萎縮性側索硬化症の評価と理学療法	筋萎縮性側索硬化症の評価と理学療法について学修する			
13	濱田	脳損傷の理解	脳損傷の定義と病態について学修する			
14	濱田	意識障害	意識障害の理解と評価について学修する			
15 - 16	松村	運動麻痺の理解と評価	運動麻痺の理解と評価について学修する			
17	松村	筋緊張	筋緊張異常の理解と評価について学修する			

18	松村	反射	反射異常（表在、深部、病的）の理解と評価について学修する					
19	松村	姿勢反射	姿勢反射障害、バランス障害、協調運動障害の理解と評価について学修する					
20	松村	感覚	感覚障害（表在、深部、複合、異常感覚）の理解と評価について学修する					
21	松村	脳神経	脳神経障害の理解と評価について学修する					
22	松村	体力、疼痛	体力低下、痛みの理解と評価について学修する					
23	松村	姿勢動作	姿勢動作障害、ポジショニングの理解、評価と理学療法について学修する					
24	濱田	起居動作	起居動作障害の理解、評価と理学療法について学修する					
25	濱田	歩行	歩行障害の理解、評価と理学療法について学修する					
26	松村	ADL	ADL障害の理解、評価と理学療法について学修する					
27	松村	課題志向型トレーニング	課題志向型トレーニングについて学修する					
28	松村	神経生理学的アプローチ	各種アプローチ法（ブルンストローム、ボバース、PNF、ルード、認知運動療法）について学修する					
29 - 30	松村	事例検討 障害像の把握と理解	事例検討を通して、障害像の把握、理解の方法を学修する					
観点別成績評価と到達目標の関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●	●		80	①②③④⑤⑥
	小テスト		●	●			20	①②③④
評価の特記事項	筆記試験と小テストの合計点が6割に達しなかった場合に、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>（予習）講義に臨む前に、講義計画に記載された該当する範囲の教科書を読み疑問点を明確にする。その際、教科書を読み流すのではなく、他者に内容を説明できるようにしノートなどにまとめる。</p> <p>（復習）授業を振り返り、復習したことをノートにまとめて理解する。学んだ検査法は実技練習し体で覚えるようにしてください。その際、検査の意義や目的を確認し、また検査結果の持つ意味などを考えながら行ってください。（各回1時間程度）</p> <p>学修結果を確認のため、授業冒頭で復習小テストを実施します。</p> <p>予習・復習でまとめたノートは提出を求めることがある。</p> <p>課題を出すこともある。</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
小テストは後日講義の中で返却します。								
試験は研究室に保管します。事前に連絡の上確認する方法、もしくは全体へのフィードバック時間を設ける方法をとります。								
教科書								
「15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅰ」石川朗 中山書店 「15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ」石川朗 中山書店 「高次脳機能障害」石合純夫 医歯薬出版 「理学療法ハンドブック第1～第4巻」細田多穂								
参考図書								
「標準理学療法学 専門分野 運動療法学各論」吉尾雅春 医学書院 「神経局在診断」半田肇 文光堂 「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義昭 南山堂								
備考：履修者への要望								
解剖学、生理学、運動学、神経学ほかの知識を事前に十分理解し、すでに学修した事柄関連付けるように授業に臨む。グループワークを行うこともある。								
実技の際は動きやすい服装であること。								
本実習は、中枢神経系障害理学療法治療学に合格することが評価の条件で会う。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動器系障害理学療法治療学		リハビリテーション学科 理学療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
齊藤 誠、藤本 大介						
実務経験のある教員						
齊藤誠，藤本大介：医療機関で理学療法士として勤務経験のある教員が、理学療法士が治療対象とする整形外科系疾患の病態とそれに対する理学療法評価・治療につ いての知識を講義する。						
授業概要						
本講義は事前学習を主体としている。講義内容はシラバスの通りであるが、該当講義の1週間前までに講義内容を解説した資料を配信する。受講者は講義前までに事 前学習を行い、質問や意見を提出すること。講義時間内は小テストと提出された質問や意見に回答をする。 学習内容は整形外科系疾患の病態と、その理学療法についてである。						
学習到達目標						
知識・理解	①整形外科系疾患の病態理解を深め、適切な理学療法評価・治療を説明できる。(DP1, 2)					
思考・判断 ・表現	②質問する内容を吟味し、自ら学ぶ助けとなる有用な質問を行うことができる。(DP1, 2)					
技能						
関心・意欲 ・態度	③自ら積極的に学び、発展的な内容を質問することができる。(DP2)					
授業形態						
講義	配布する資料を用いた事前学習を求める。講義中は事前学習から生じた疑問を解決するために学ぶ。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	齊藤	オリエンテーション	講義の進め方や成績判定の方法などについて説明する。			
2	齊藤	組織再生・修復 総論	組織再生および修復過程（炎症反応）について説明し、組織再生および修復の機序、組織再生過 程における理学療法評価および注意点（リスク管理）を理解する。教科書 第1章			
3	齊藤	骨折と脱臼 総論	骨折、脱臼の病態、分類について説明する。また骨折、脱臼の治療、理学療法について説明し、 保存的治療、観血的治療および付随する合併症、理学療法評価、治療について理解する。教科書 第3-7章（主として第3章）			
4	齊藤	変形性股関節症，変形性膝関節症	変形性関節症の病態、治療について説明し、分類、整形外科的治療、用いられる理学療法評価、 治療について理解する。教科書 第8章			
5	齊藤	人工股関節置換術，人工膝関節置換術	人工関節の構造、適応、リスクについて説明し、各人工関節術後のリスク管理、評価方法につい て理解する。教科書 第10章			
6	齊藤	関節リウマチ 総論	関節リウマチの病態、治療について説明し、各病期に対する理学療法の選択について理解する。 また薬物療法、手術療法の進歩に伴うリハビリテーションの変化についても説明する。教科書 12章			
7	齊藤	末梢神経障害 総論	末梢神経障害について説明し、病態、原因、臨床症状について理解する。教科書 第14章			
8	齊藤	脊髄損傷 総論	脊髄損傷について説明し、病態、原因、臨床症状を理解する。理学療法ハンドブック第3巻			
9	齊藤	頭部疾患 総論	頭部の機能解剖について解説する。 頸椎症、頸椎症性脊髄症、椎間板ヘルニア、頸椎後縦靱帯骨化症について説明し、病態、症状を 理解する。教科書 第16章			
10	齊藤	腰部疾患 総論	骨盤、腰椎の機能解剖、運動学（腰部負荷）について解説する。 腰部疾患の病態生理について解説し、理学療法治療、評価、ADL指導について理解する。教科書 第18章			

11	齊藤	脊椎の手術 総論	脊椎手術の基本的な手技について解説する。 手術に応じた理学療法法の適応について説明し、リスク管理、選択すべき理学療法評価・治療について理解する。 教科書 第20章					
12	藤本	肩関節周囲炎 総論	肩関節の機能解剖、運動学、肩関節周囲炎の病態生理について解説し、関節可動域制限、疼痛が生じる要因を関節運動学に関連させて理解する。 教科書 第22章					
13	藤本	肩の外傷 総論	腱板損傷、肩関節脱臼の病態、症状について説明し、理学療法評価・治療について理解する。 またその他の外傷による肩関節障害についても概要を解説する。 教科書 第24章					
14	齊藤	膝靱帯損傷と半月板損傷	靱帯と半月板の機能解剖について解説する。 膝関節損傷の病態とメカニズム、標準的治療について解説する。 教科書 第26章					
15	齊藤	捻挫と肉離れ	アキレス腱損傷、足関節捻挫、肉離れの病態について説明し、疾患に付随する機能障害、必要な評価・治療について理解する。 教科書 第29章					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●				25	①
	小テスト		●				70	①
	質問内容			●		●	5	②③
評価の 特記事項	筆記試験、小テスト、質問内容の合計が60点に満たない場合、再試験の対象となる。 再試験は小テストと筆記試験について行う。質問内容に関する再試験は実施しない。 再試験は筆記試験、小テストの試験範囲を統合した1回の筆記試験とし、再試験の点数と質問内容の点数との合計が60点以上であれば単位を認定する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
オリエンテーション時、もしくは該当講義の1週間前までに講義内容を解説した資料を配信する。 資料を基に事前学習を行い、不明な点は当該講義時間に質問を受け付ける。事前学習のため、60分程度は必要となる。 また、3回目の講義より小テストを行うため、復習として30分程度は必要になる。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
筆記試験、小テストは回答用紙を返却する。								
教科書								
標準整形外科 第15版 井樋 栄二・他 医学書院								
参考図書								
「標準整形外科 第14版」 井樋 栄二・他 医学書院								
備考：履修者への要望								
本講義は事前学習にてオンラインでの資料配信を行います。 配信はGoogle Classroomを利用します。履修登録をした方には第1回目の講義までにクラスに招待するので参加するようにしてください。 操作方法やインターネット環境など、何か不都合がある場合は事前に相談してください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動器系障害理学療法治療学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	2単位	60時間
担当教員名						
齊藤 誠、藤本 大介						
実務経験のある教員における科目						
齊藤誠 藤本大介：医療機関で理学療法士として勤務経験のある教員が、理学療法士が治療対象とする整形外科系疾患の病態とそれに対する理学療法評価・治療ができるようになるために、模擬症例を使用したCBL (Case based Learning)を取り入れた授業を展開し、実技やディスカッションを通してその方法を教授する。						
授業概要						
本講義は模擬症例を使用したCase based Learning (CBL) を行う。講義時間においては、模擬症例に対して必要な検査測定項目を抽出すること、検査測定の実施（実技練習）、疾患に応じた理学療法治療の実施（実技と講義）とグループワークにて模擬症例検討（検査測定結果の統合と解釈、理学療法プログラムの立案）を行う。また、模擬症例検討は講義時間外に個人レポートにてまとめる。						
学習到達目標						
知識・理解	①整形外科系疾患の病態理解を深め、適切な理学療法評価・治療を説明できる。（DP1, 2）					
思考・判断 ・表現	②模擬症例検討を通して、疾患特性と理学療法評価に基づいた目標設定、理学療法治療の選択ができる。（DP1, 2, 5）					
技能	③症例に応じた適切な検査測定、理学療法治療を理解し、健常者（模擬患者）を対象に実施することができる。（DP1, 5）					
関心・意欲 ・態度	④理学療法プログラムを立案するために必要な資料を検索し、自ら学ぶことができる。（DP2）					
授業形態						
実習	主としてアクティブラーニング方式で進める。グループで実技を行いながらグループディスカッションも実施する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	齊藤	オリエンテーション	レポートの作成方法、グループワークの進め方などを説明する。			
2	齊藤	組織再生・修復 評価と治療	炎症についての基本的な評価・治療を理解し、実施する。 炎症の評価に用いる各測定項目の意義を理解し、評価に関する実技練習を行う。 教科書 第2章			
3	齊藤	組織再生・修復 模擬症例検討	急性炎症を有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。			
4	齊藤	変形性関節症 評価と治療	変形性関節症に対する保存療法の目的を理解する。術前、術後の理学療法評価・治療に関して解説および実技練習を行う。また人工関節全置換術後の脱臼脱臼などのリスク管理について説明し、理学療法評価・治療を行う際の注意点を理解する。 教科書 第9、10、11章			
5	齊藤	変形性関節症 評価と治療	変形性関節症に対する理学療法評価・治療の実技練習を行う。			
6	齊藤	変形性関節症 模擬症例検討	人工関節全置換術後の模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。			
7	齊藤	高齢者に多い骨折 上肢骨折	高齢者に多い骨折の疾患特性（発生机序、骨折分類など）について理解する。また、それらに対する理学療法評価、治療を理解し、実技練習を行う。 特に橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折など上肢骨折について取り扱う。 教科書 第5～7章			
8	齊藤	高齢者に多い骨折 上肢骨折	橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折など、上肢骨折患者の模擬症例検討を行う。 グループワークを行い、問題点抽出、理学療法プログラムの立案を行う。			
9	齊藤	高齢者に多い骨折 上肢骨折	グループワークのまとめを行い、理解を深める。 治療計画の立案に必要な知識、考え方を学ぶ。			
10	齊藤	高齢者に多い骨折 下肢骨折	高齢者に多い骨折の疾患特性（発生机序、骨折分類など）について理解する。また、それらに対する理学療法評価、治療を理解し、実技練習を行う。 特に大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折など下肢・体幹骨折について取り扱う。 教科書 第5～7章			
11	齊藤	高齢者に多い骨折 下肢骨折	大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折など下肢・体幹骨折患者の模擬症例検討を行う。 グループワークを行い、問題点抽出、理学療法プログラムの立案を行う。			
12	齊藤	高齢者に多い骨折 下肢骨折	グループワークのまとめを行い、理解を深める。 治療計画の立案に必要な知識、考え方を学ぶ。			
13	齊藤	関節リウマチ 評価・治療	関節リウマチの疾患特性を説明し、関節保護の重要性および方法を理解する。関節リウマチに対する理学療法（運動療法、ADL指導、物理療法）について解説し、実技練習を行う。 教科書第13章			
14	齊藤	関節リウマチ 評価・治療	関節リウマチ患者の関節保護を考慮した評価方法、治療方法を解説し、実技練習を行う。特に実技練習ではADL指導や移乗などの介助についてを関節保護を考慮した方法を学ぶ。 教科書第13章			

[illegible]

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内部疾患系障害理学療法治療学		リハビリテーション学科 理学療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
臼井 晴信、宮津 真寿美						
実務経験のある教員						
臼井 晴信、宮津 真寿美：医療機関で理学療法士として勤務し、心臓リハビリテーション、呼吸リハビリテーションの経験のある教員が、内部障害に関する理学療法についての講義・演習を行う						
授業概要						
本科目は、主に循環器疾患、呼吸器疾患に関する病態生理学から理学療法評価と治療の原理と根拠を学修する。また各疾患の理学療法学の学修に先立ち、日本と世界の内部障害の現状、各臓器間の連関、エネルギー代謝についても学修する。授業は資料を用いた講義の他、グループワークを通じた討論や、動画などを用いた反転授業も取り入れて学修する。						
学習到達目標						
知識・理解	①心臓、血管の機能・構造および循環器疾患について論じることができる。（DP1） ②エネルギー代謝について論じることができる。（DP1） ③呼吸器系の機能・構造および呼吸器疾患について論じることができる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	④循環器疾患に対する理学療法評価及び治療について説明することができる。（DP2） ⑤呼吸器疾患に対する理学療法評価及び治療について説明することができる。（DP2）					
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	グループワークなどのアクティブラーニングを行う。一部、教科書とスライドによる講義を行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	臼井	内部障害概論と臓器連関	コースオリエンテーション 内部障害の概論と各臓器の関連を学修する 教科書 1章			
2	宮津	骨格筋とエネルギー代謝1	骨格筋活動とエネルギー代謝について学修する 教科書 4章			
3	宮津	骨格筋とエネルギー代謝2	骨格筋とエネルギー代謝について学修する。 教科書 4章			
4	臼井	循環器の基礎1	循環器理学療法の理解に必要な解剖学・運動学について学修する。 教科書 3章			
5	臼井	循環器の基礎2	循環器の理学療法の理解に必要な生理学を学修する 教科書 3章			
6	臼井	循環器疾患の病態	理学療法の対象となる循環器疾患について学修する 教科書 3章			
7	臼井	循環器疾患に対する理学療法評価1	循環器疾患に対する理学療法評価の基礎と理論を学修する。 教科書 3章			
8	臼井	循環器疾患に対する理学療法評価2	循環器疾患に対する理学療法評価の実際を学修する。 教科書第3章			
9	臼井	循環器疾患に対する理学療法の基礎と理論	循環器疾患に対する理学療法の基礎と理論を学修する。 教科書第3章			
10	臼井	呼吸器の基礎1	呼吸器に関する解剖学的・運動学的基礎を学修する。 教科書第2章			

11	白井	呼吸器の機能2	呼吸器に関する生理学の基礎を学修する。 教科書第2章					
12	白井	呼吸器疾患の病態	理学療法の対象となる呼吸器疾患の病態について学修する。 教科書第2章					
13	白井	呼吸器疾患の評価1	呼吸器疾患に対する評価の基礎および理論を学修する。 教科書第2章					
14	白井	呼吸器疾患の評価2	呼吸器疾患に関する評価の実際を学修する。 教科書第2章					
15	白井	呼吸器疾患の理学療法	呼吸器疾患に対する理学療法の基礎および理論を学修する。 教科書第2章					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			80	① - ⑤
	レポート		●	●			20	① - ⑤
評価の 特記事項	講義の中にグループワークや考察課題を取り入れ、レポートを提出して頂きます。 予習、復習をして講義に臨んでください。予習、復習の内容をレポート課題とする場合もあります。 全ての評価基準の合計が6割満たない場合、再試験を実施します。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
教科書や資料を事前に予習し、疑問点を抽出して講義に望んでください(1時間程度)。抽出した疑問点を講義や自主学修で解決してください。解決できなかった疑問点は必ず質問してください。講義で示した重要な点などをもとに、講義資料や教科書を用いて復習をしてください（1時間程度）。事前に指定した教材により予習課題を課す場合があります。グループワークには積極的に参加し、自分の意見をアウトプットするように努めてください。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
試験は実施後、結果を開示します。内容の詳細について、希望者に対して個別にフィードバックをします。レポートは返却します。								
教科書								
最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 高橋哲也編 医歯薬出版								
参考図書								
備考：履修者への要望								
解剖学、生理学、運動学の内容を整理しておいてください。 疑問を持ち、疑問を積極的に解決する姿勢を大切にして、内容を理解するように努めてください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内部疾患系障害理学療法治療学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	2単位	60時間
担当教員名						
臼井 晴信、宮津 真寿美、杉山 成司						
実務経験のある教員における科目						
臼井 晴信、宮津 真寿美：医療機関で理学療法士として勤務し、心臓リハビリテーション、呼吸リハビリテーションの経験のある教員が、内部障害に関する理学療法についての講義・演習を行う。						
授業概要						
本科目は、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患（糖尿病など）の理学療法評価及び治療について、講義とグループワークを通して学修する。グループワークでは、4週間の持久力運動プログラムを作成し実践する。運動プログラムを通して、理学療法評価の測定と解釈を学修するほか、患者の行動変容や健康管理などについても学修する。また、フィジカルアセスメント、バイタルサイン測定、喀痰吸引の実技演習も行う。その他、腎臓リハビリテーション、がんリハビリテーション、メタボリックシンドロームについても学修する。						
学習到達目標						
知識・理解	①循環器疾患の病態と生じる障害を理解し、状態に合わせた理学療法評価と治療を説明できる。（DP1） ②呼吸器疾患の病態と生じる障害を理解し、状態に合わせた理学療法評価と治療を説明できる。（DP1） ③糖尿病の病態と生じる障害を理解し、状況に合わせた理学療法評価と治療を説明できる。（DP1） ④がんに対する理学療法、腎臓理学療法、予防理学療法について論じることができる。（DP1）					
思考・判断 ・表現	⑤エネルギー代謝と運動生理学の観点から運動負荷試験の結果を解釈し、結果を理学療法に応用できる。（DP2, 5） ⑥運動負荷試験の目的と禁忌、中止基準を説明し、運動処方に応用できる。（DP2, 5）					
技能	⑦運動耐容能の評価を適切に実施することができる。（DP1, 2） ⑧心電図を含めたバイタルサインの測定を実施することができる。（DP1, 2） ⑨喀痰吸引を安全に実施できる。（DP1, 2）					
関心・意欲 ・態度	⑩対象者中心とした運動処方について討議することができる。（DP2, 4）					
授業形態						
実習	教科書とスライドによる講義およびグループワークと実習（データ測定、実技演習）を行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	臼井	心肺運動負荷試験の理論	運動負荷試験の理論を学修する。 運動負荷試験の種類と実践方法を学修する。			
2-3	臼井	運動負荷試験演習	呼気ガス分析装置を用いて心肺運動負荷試験を実践する。 運動負荷試験の理論および実際を学修する。			
4	臼井	運動処方の理論	運動療法の理論を学修する。 運動処方の方法と根拠を学修する。			
5-6	臼井	運動処方演習	運動耐容能の向上を目的とした運動処方を実践する。 運動療法の理論および実際を学修する。			
7	臼井	心電図	心電図及び不整脈について学修する。 運動中に出現する不整脈に対する対応を学修する。教科書 3章			
8	臼井	心電図演習	運動負荷心電図測定を実践する。 運動中および運動前後の心電図の読み取りを実践する。 不整脈の読み取りおよび対処法を学修し実践する。			
9	臼井	循環器理学療法治療学	循環器疾患の理学療法治療理論を学修する。 循環器疾患の理学療法評価を学び、実践する。			
10-11	臼井	循環器疾患症例検討	模擬症例を用いて、循環器疾患に対する理学療法評価計画を立案する。 模擬症例の評価結果を解釈および統合を行い、問題点を抽出する。 模擬症例の評価結果から理学療法治療プログラムを立案する。			
12	臼井	呼吸器疾患理学療法治療学	呼吸器疾患の理学療法治療理論を学修する。 呼吸器疾患の理学療法評価を学び、実践する。			
13-14	臼井	呼吸器症例検討	模擬症例を用いて、循環器疾患に対する理学療法評価計画を立案する。 模擬症例の評価結果を解釈および統合を行い、問題点を抽出する。 模擬症例の評価結果から理学療法治療プログラムを立案する。			

15	臼井	腎臓リハビリテーション	腎機能障害の病態について学修する。 慢性腎臓病に対する理学療法について学修する。					
16	臼井	がんの理学療法	がんの病態について学修する。 がんに対する理学療法について学修する。 教科書第6章					
17	臼井	予防理学療法	生活習慣病の発症と進行のメカニズムについて学修する。 生活習慣病予防のための理学療法について学修する。					
18-19	臼井	運動療法に関する統合と解釈	運動耐容能の向上を目的とした運動療法の実習を行う。 実習で得られたデータについて統合と解釈を行う。 被験者の行動変容について議論する。					
20-21	臼井	ポスター発表とディスカッション	実習で得られたデータをポスター形式で発表する。 運動処方の効果および運動負荷試験の結果を解釈しポスターにまとめる。 客観的データを用いて科学的な議論を実践する。					
22	宮津	糖尿病に対する理学療法の基礎	糖尿病の治療や評価を学修する。教科書 4章					
23	宮津	糖尿病に対する理学療法の応用	糖尿病の運動療法を学修する。 糖尿病理学療法の知識を確認する 教科書 4章					
24-25	臼井、杉山	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの理論について学修する。 視診、聴診を実践する。					
26	臼井	呼吸介助法	呼吸介助の理論を学修する。 体位排痰法、呼吸介助法を実践する。					
27-28	臼井	喀痰吸引	喀痰吸引の理論を学修する。 吸引モデルを用いて喀痰吸引を実践する。					
29-30	臼井、宮津	バイタルサイン測定実技試験	バイタルサインの基礎的事項を確認する。 脈拍測定、呼吸数測定、血圧測定について時間内に正確に実践できるようにする。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●	●	●	80	①～⑩
	レポート			●	●	●	20	⑤～⑩
評価の 特記事項	実技演習やデータ測定、考察課題に対してレポートを書いていただきます。レポートの提出、内容も評価対象になります。レポート点には発表による点数を含みます。 筆記試験は内部疾患系理学療法治療学の講義内容も含みます。 内部疾患系理学療法治療学を受講していない場合、本科目は受講できません。また、内部疾患系理学療法治療学の単位を修得していない場合、本科目の試験は受けられません。いずれも次年度に再履修となります。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施します。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
教科書や配布資料および動画資料を事前に予習し、疑問点を抽出して講義に臨んでください(2時間程度)。抽出した疑問点を講義や自主学修で解決してください。解決できなかった疑問点は必ず質問してください。講義で示した重要な点や演習内容をもとに復習をしてください（1時間程度）。事前に指定した教材により予習課題を課す場合があります。データ測定や実技演習・ポスター発表の実習も行います。実習やグループワークには積極的に参加し、根拠をもって自分の考えを考察してください。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
試験は実施後、結果を開示します。内容の詳細について、希望者に対して個別にフィードバックをします。レポートは返却します。								
教科書								
最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 高橋哲也編 医歯薬出版								
参考図書								
備考：履修者への要望								
グループワークや実習を多く行います。積極的に参加してください。常に疑問を持ち、自らから解決する姿勢を大切にしてください。自分の意見を積極的に発信し、他人の意見を引き出すよう努めてください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
小児疾患系障害理学療法治療学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
藤本 大介						
実務経験のある教員						
藤本 大介：医療機関にて小児理学療法の現場で勤務経験のある教員が小児疾患系障害の理学療法に必要な発達、疾患別の基礎知識や治療展開について講義を行う。						
授業概要						
小児疾患に対する理学療法において、「筋緊張の異常」、「反射の異常を含めた発達」、「姿勢の異常」、「二次障害の予防」、「児の社会参加へのアプローチ方法」、「疾患特有の知識」を理解する必要がある。授業では、これらのキーワードを踏まえ、小児疾患の理学療法に必要な正常発達・原始反射の理解を深め、脳性麻痺における運動障害のタイプごとの病態、筋ジストロフィー症、二分脊椎の病態の特徴を理解する。また、定型発達児の特徴、各疾患の病態を土台に、評価、治療展開に応用できる内容を展開する。						
学習到達目標						
知識・理解	①正常発達について理解することができる（DP1, 2） ②各小児疾患（脳性麻痺、ダウン症候群、筋ジストロフィー症、二分脊椎）の概要を理解できる（DP1, 2）					
思考・判断 ・表現	③各小児疾患の問題点の抽出、治療プログラムの立案をすることができる。（DP1, 2, 5）					
技能						
関心・意欲 ・態度	④予習、復習を欠かさず、小児理学療法分野に興味を持ち、積極的に疑問点を表出することができる。（DP1, 4, 6）					
授業形態						
講義	教科書を使用した講義を中心に行う。一部グループディスカッションによるアクティブ・ラーニングを行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	藤本	原始反射・正常発達①	原始反射・正常発達について学修する。 実技課題を実施する。			
2	藤本	原始反射・正常発達②	原始反射・正常発達について学修する。 実技課題を実施する。			
3	藤本	脳性麻痺の概論	脳性麻痺の概論的な知識を学修する。			
4	藤本	脳性麻痺のタイプ別特徴	脳性麻痺のタイプ別特徴について学修する。			
5	藤本	脳性麻痺の評価・理学療法	脳性麻痺の評価・理学療法について学修する。			
6	藤本	二分脊椎	二分脊椎の病態と理学療法について学修する。			
7	藤本	筋ジストロフィー症	筋ジストロフィー症の病態と理学療法について学修する。			
8	藤本	まとめ	正常発達・原始反射・各疾患の総まとめ			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●		●	60	①②③④
	小テスト		●	●		●	30	①②③④
	実技課題		●	●		●	5	①③④
	リフレクションシート		●	●		●	5	①②③④
評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験(筆記試験)を実施する。 再試験の評価は、小テスト、リフレクションシート、実技課題を含めた合計点で評価する。授業終了後のリフレクションシートの内容によってはリフレクションシートの項目を減点とする場合がある。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
当該科目は、「反転学習（＊）」の要素を取り入れ、実施する。受講前に、事前に提示する予習課題をしっかりと学修をすること（各回、1時間程度）。小テストは、予習課題に基づいた内容となる（前回の復習の場合もある）。 ＊：授業と宿題の役割を「反転」させ、授業時間外に教材等により知識習得を済ませ、教室では知識確認や問題解決学習を行う授業形態のこと。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
リフレクションシートについては、全体にフィードバックする。試験については、個別もしくは全体にフィードバックする。								
教科書								
藪中良彦ほか編：CrossLink理学療法学テキスト「小児理学療法学」MEDICALVIEW, 2020年								
参考図書								
他、講義時に示す。								
備考：履修者への要望								
小児疾患に対する理学療法に少しでも興味を持ってくれと幸いです。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
小児疾患系障害理学療法治療学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
多田 智美						
実務経験のある教員						
多田 智美：小児専門医療福祉機関において、理学療法士として勤務した経験を有する教員が、基礎となる正常発達の理解を深めるとともに、小児科特有の疾患や障害の特徴と、評価・治療の展開について教授する。						
授業概要						
小児科領域の理学療法を展開できるようになるために、基礎となる正常発達の理解を深めるとともに、小児科特有の疾患や障害の特徴と、評価・治療の展開について理解する。定型発達児と障がい児の姿勢や動作の確認を行い治療展開に応用できるようにする。						
学習到達目標						
知識・理解	①小児理学療法の対象となる疾患の特長とその理学療法について理解し、論じることができる（DP1, 2）					
思考・判断 ・表現	②小児理学療法の対象となる疾患の特長とその理学療法について理解し、説明することができる（DP1, 2）					
技能	③小児理学療法における正常発達の応用に関する実技を実施することができる（DP1, 5）					
関心・意欲 ・態度	④授業内において考えて自分の意見を発表することができる。実技実習に積極的に参加できる。（DP5）					
授業形態						
実習	教科書とスライドを中心とした講義、及び正常運動発達や反射についての評価など実技を少人数制のグループワークで実施する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	多田	小児理学療法概論	小児理学療法概論（第1章）			
2	多田	正常運動発達①実技	正常運動発達の復習①（教科書第2章-5. 6）実技			
3	多田	疾患①	小児中枢疾患に関する評価（教科書第2章-3）			
4	多田	正常運動発達②実技	正常運動発達の復習②グループワーク（教科書第2章-5. 6）実技			
5	多田	星城発達運動③	正常運動発達のまとめ（第2章-8）			
6	多田	評価学①実技	脳性まひ児の動作姿勢観察法・中枢神経系の診方 グループワーク（教科書第2章-3） 実技			
7	多田	正常運動発達④	胎生期の発達の概論(教科書第2章-3. 4)			
8	多田	疾患③	遺伝性疾患・筋疾患の評価と治療（教科書第10章）			
9	多田	疾患④	小児整形疾患（ベルテス・骨形成不全他）の評価と治療（教科書第3章-4）			
10	多田	疾患⑤	染色体異常・知的障害の評価と治療（教科書第3章-6）			

11	多田	疾患⑥	発達障害の評価と治療（教科書第3章-7）					
12	多田	疾患⑦	重症心身障害呼吸器疾患を有する児の評価と理学療法のまとめ（教科書第3章-3）					
13	多田	疾患⑧	新生児理学療法の評価と治療（教科書第3章-1）					
14	多田	まとめ①	小児領域で使用される機器（教科書全城）					
15	多田	まとめ②	小児理学療法における療育と福祉					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			90	①②
	提出物			●	●	●	10	②③④
評価の 特記事項	筆記試験は最終試験のみ。再試験は定期試験（筆記試験+提出物）で6割に達していなかった場合に実施。提出物は、授業中の発表などによって総合的に判断する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
正常発達部分で学んだ反射の内容、出現時期、消失時期、統合時期などを再確認して、授業に臨んでください。また、正常運動発達の実技を行いますので、この内容は忘れないように復習をしてください（30分程度）。教科書の指定箇所は事前に予習として読んでおくことをお勧めいたします(30分程度）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
授業中に随時質問を受け付けます。								
教科書								
Crasslink理学療法学テキスト「小児理学療法学」編/藪中良彦・木本稔・坂本仁（メジカルビュー社）2020年，ISBN：978-4-7583-2007-8								
参考図書								
「イラストでわかる 小児理学療法」上杉雅之監修(医歯薬出版)，「リハビリテーションのための人間発達学」大城昌平編(メディカルプレス)2014年，ISBN：978-4-944026-95-1ほか、授業中に指導します。								
備考：履修者への要望								
授業には積極的に自身の意見を発信して下さい。また、他人の意見を聞き、その意見に対して自身の意見を発信し、知識を定着させて下さい。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
老年期障害理学療法学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
木村 菜穂子						
実務経験のある教員						
木村菜穂子：医療機関、介護保険サービス等で理学療法士として勤務経験のある教員が、理学療法対象者の多くを占める高齢者の特性について講義する。						
授業概要						
理学療法の対象者の多くを高齢者が占める現在、その人たちが持つ問題を理解することは重要である。本科目では、加齢に伴って起こる高齢者の生理機能・運動機能・精神機能の変化と、高齢者に多くみられる疾患・病態について講義形式で学修する。						
学習到達目標						
知識・理解	①高齢期に起こる生理機能・運動機能・精神機能の変化を理解し、説明することができる。(DP1) ②高齢期に多くみられる疾患・病態について理解し、説明することができる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	③高齢期の患者に対する理学療法において、問題となるリスク等を予測することができる。(DP2、DP5)					
技能						
関心・意欲 ・態度	④高齢期の理学療法に関連する話題に興味を持ち、不足している知識等を補うことができる。(DP2)					
授業形態						
講義	スライドを用いて講義形式で行う。一部グループワークを行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1～2	木村	老化と老年病	・老化とは何か(グループワーク)→発表 ・老化の特徴 ・老年疾患の成り立ち			
3～6	木村	高齢者の身体機能の特性	○高齢期にみられる運動機能の変化 ・筋、筋力 ・骨、関節 ・運動調節 ・神経系 ・体力 ・感覚器(視覚、聴覚等) ・自律機能(脱水、排尿障害、睡眠、めまい)			
7～10	木村	高齢者の精神機能の特性	○高齢期にみられる精神機能の変化 ・精神、神経機能の老化 ・記憶とは ・認知症(認知症の分類／妄想／対応・関わり方など) ○高齢期にみられる認知症以外の精神障害の特徴やリスク ・せん妄 ・気分障害 ・幻覚、妄想など			
11～12	木村	老年症候群	○高齢期に多くみられる症候群 ・廃用症候群 ・フレイル・ロコモティブシンドローム 等			
13～14	木村	高齢期の理学療法	高齢者に対する理学療法の方法とリスク管理			
15	木村	講義まとめ	講義全体のまとめ			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験	●	●			90	①②③
	課題提出	●	●		●	10	①②③④
評価の 特記事項	課題提出(10%)は、理解が不十分な知識を補うことを目的として実施し、講義に関連するテーマについてまとめたレポートについて、提出状況、内容を評価します。 なお、受講態度が不良な者に対しては、成績評価の際に筆記試験から10%減ずることがあります。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施することがあります。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>予習：シラバスに記載されている授業内容を確認し、教科書の当該部分に目を通す（約30分～1時間）。</p> <p>復習：毎回、ノート代わりに配布する資料に講義中の学習内容を書き込むため、不足部分を追記するなど整理し、見直す。 その上で理解が不十分な部分に関しては、次回の講義までに解決する（約30分～1時間）。</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<p>提出課題は、評価後返却します。</p> <p>筆記試験の答案は返却しませんが、希望者には個別に開示します(事前連絡必要)。</p>							
教科書							
「シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト」細田多穂監修 南江堂							
参考図書							
<p>「シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト」細田多穂監修 南江堂</p> <p>「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 老年学第2版」大内尉義編集 医学書院</p> <p>「理学療法MOOK10 高齢者の理学療法」黒川幸雄他編集 三輪書店</p> <p>その他、配布資料（ノート代わり）で必要な内容は補足します。</p>							
備考：履修者への要望							
<p>講義中心となりますが、理解を深めるように努め、積極的な態度で講義に臨んでもらいたいと思います。また、懸命に学びたいと考えている周囲の人の妨げになるような態度（講義中の私語、グループワーク等への非協力的態度）は、厳禁とします。</p>							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活活動学		リハビリテーション学科 理学療法専攻	2学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
藤本 大介						
実務経験のある教員						
藤本 大介:医療機関や介護保険分野で理学療法士としての勤務経験のある教員が、理学療法対象者と関わる上で重要な概念である日常生活活動の概念、範囲、意義を講義する。						
授業概要						
日常生活活動（以下、ADL）は、理学療法対象者のQOL向上に深く関わる理学療法の重要な概念である。この科目では、ADLの概念・範囲・意義を学ぶとともに、セルフケアを構成する主な動作・機能を学ぶ。またその動作を評価する手段を学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①ADLの概念が説明できる。(DP1) ②ADLの範囲(セルフケア、生活関連動作、QOL)が説明できる。(DP1) ③ADLの評価方法を説明できる。(DP1) ④福祉用具の種類や適応について説明できる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	⑤セルフケアを構成する主な動作、工程、必要となる心身機能を説明できる。(DP1, 5)					
技能	⑥セルフケアを構成する主な動作を運動学的に分析することができる。(DP1)					
関心・意欲 ・態度	⑦他者と協力して課題を解決することができる。(DP5)					
授業形態						
講義	教科書を使用した講義を中心に行う。一部グループディスカッションによるアクティブ・ラーニングを行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	藤本	ADLの概要	当該科目のオリエンテーション ADLの定義、範囲を学修する。			
2	藤本	ADL評価	ADL評価の役割と範囲について学修する。代表的な評価法であるBIとFIMについて詳しく学修する。「できるADL」と「しているADL」について学修する。			
3	藤本	①福祉用具・セルフケアの工程分析の概要 ②セルフケア（整容動作）	セルフケアを助ける福祉用具について学修する。 セルフケアの工程分析の概要を理解し、基盤となる心身機能とのつながりを学修する。 「整容動作」に関わる工程分析、福祉用具の適応について学修する。			
4	藤本	ADLの基盤となる心身機能	トランスファーの基礎知識を学修する。 「食事動作」に関わる工程分析、福祉用具の適応について学修する。			
5	藤本	①トランスファーの基礎知識 ②セルフケア（トイレ動作）	トランスファーの基礎知識を学修する。 「トイレ動作」に関わる工程分析、福祉用具の適応について学修する。			
6	藤本	①トランスファーの基礎知識 ②セルフケア（更衣動作）	トランスファーの基礎知識を学修する。 「更衣動作」に関わる工程分析、福祉用具の適応について学修する。			
7	藤本	①トランスファーの基礎知識 ②セルフケア（入浴動作）	トランスファーの基礎知識を学修する。 「入浴動作」に関わる工程分析、福祉用具の適応について学修する。			
8	藤本	講義とまとめ	講義とまとめ			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●	●		60	①②③④⑤⑥
	小テスト		●	●	●		30	①②③④⑤⑥
	リフレクションシート		●	●	●	●	5	①②③④⑤⑥⑦
	提出レポート		●	●	●	●	5	①②③④⑤⑥⑦
評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験（筆記試験）を実施する。 再試験の評価は、小テスト、リフレクションシート、提出レポートを含めた合計点で評価する。授業終了後のリフレクションシートの内容によってはリフレクションシートの項目を減点とする場合がある。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>当該科目は、「反転学習（＊）」を主とし、実施する。受講前に、事前に提示する予習課題をしっかりと学修をすること（各回、１時間程度）。小テストは、予習課題に基づいた内容となる（前回の復習の場合もある）。</p> <p>＊：授業と宿題の役割を「反転」させ、授業時間外に教材等により知識習得を済ませ、教室では知識確認や問題解決学習を行う授業形態のこと。</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
リフレクションシートについては、全体にフィードバックする。試験については、個別もしくは全体にフィードバックする。								
教科書								
「PT・OTビジュアルテキスト ADL」柴 喜崇 編集 羊土社 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」鶴見隆正 編集 医学書院（「生活環境論」の科目でも使用する）								
参考図書								
備考：履修者への要望								
グループワークの際は、個々が責任を持ち、他と協力して課題遂行することを望む。また、提示されたことだけを行うのではなく、自ら疑問を持ち解決しようとする姿勢で取り組むこと。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活活動学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	45時間
担当教員名						
加藤 真弓、藤本 大介						
実務経験のある教員						
加藤 真弓・藤本 大介:医療機関や介護保険分野で理学療法士としての勤務経験のある教員が、理学療法対象者と関わる上で重要な概念である日常生活活動における実際の各疾患別の動作指導等について講義し、実習やグループワークを通してその技術をを教授する。						
授業概要						
ADL評価の代表的な評価法であるBIとFIMの具体的な採点方法を学修します。また、移動補助具の基本的な使用方法、起居動作の基本的介助のポイントを学修します。その上で、各疾患・障害(脳卒中片麻痺、脊髄損傷、パーキンソン病、人工関節置換術後、関節リウマチ等)に応じたADL練習・指導、介助法の実際を学修します。						
学習到達目標						
知識・理解	①BI、FIMの採点内容や基準等を説明できる。(DP1) ②移動補助具の基本的な使用方法を理解し説明できる。(DP1) ③各疾患のADLの特徴を説明できる。(DP1, 5) ④運動学的な知識等を活用した介助方法を説明することが。(DP1) ⑤各障害に必要な環境調整について説明できる。(DP1, 5)					
思考・判断 ・表現	⑥各疾患の病態を踏まえた上で、症例に応じたADLを考え、説明することできる。(DP1, 5) ⑦各動作の手順を説明し、必要な介助方法を示すことができる。(DP1, 5)					
技能	⑧BI、FIMを使用してADL評価が行える。(DP1, 5) ⑨各障害に応じた起居・移乗動作の介助・誘導を適切に行うことができる。(DP1, 5) ⑩各障害のADL指導を実際に行える。(DP1, 5) ⑪対象者に適切な補助具を選択し、実際に動作指導が行える。(DP1, 5)					
関心・意欲 ・態度	⑫技術を身につけるために他者と積極的に協力し、課題解決ができる。(DP2, 3)					
授業形態						
実習	グループディスカッションを交え、実習を中心に行います。一部、教科書を使用した講義を行います。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	加藤	ADL評価	オリエンテーション BIとFIMの採点法を学習する :テキスト① 第2章、別途資料			
2	加藤	ADL評価	BIとFIMの採点法を学習する :テキスト① 第2章、別途資料			
3	加藤	ADL評価	BIとFIMの採点法を学習する :テキスト① 第2章、別途資料			
4	加藤	基本的な介助・誘導法	寝返り、起き上がり、立ち上がりの基本的な介助・誘導方法を学習する			
5	加藤	基本的な介助・誘導法	歩行と移乗の基本的な介助・誘導方法を学習する			
6	加藤	疾患特性や障害に応じたADLを検討する	脳卒中片麻痺(弛緩性麻痺・痙性麻痺)、関節リウマチ、人工関節置換術後、脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)、神経筋疾患(パーキンソン病・運動失調症)等の症例に応じたADL指導・訓練方法、環境調整等をグループにて検討する。検討した内容は発表に向けてPower Point等にまとめる。			
7	加藤	疾患特性や障害に応じたADLを検討する	脳卒中片麻痺(弛緩性麻痺・痙性麻痺)、関節リウマチ、人工関節置換術後、脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)、神経筋疾患(パーキンソン病・運動失調症)等の症例に応じたADL指導・訓練方法、環境設定等をグループにて検討する。検討した内容は発表に向けてPower Point等にまとめる。			
8	加藤	疾患特性や障害に応じたADLを検討する	脳卒中片麻痺(弛緩性麻痺・痙性麻痺)、関節リウマチ、人工関節置換術後、脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)、神経筋疾患(パーキンソン病・運動失調症)等の症例に応じたADL指導・訓練方法、環境設定等をグループにて検討する。検討した内容は発表に向けてPower Point等にまとめる。			
9	加藤	疾患特性や障害に応じたADLを検討する	脳卒中片麻痺(弛緩性麻痺・痙性麻痺)、関節リウマチ、人工関節置換術後、脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)、神経筋疾患(パーキンソン病・運動失調症)等の症例に応じたADL指導・訓練方法、環境設定等をグループにて検討する。検討した内容は発表に向けてPower Point等にまとめる。			
10	加藤・藤本	片麻痺のADL障害とADL練習法、介助法	片麻痺患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第3章-①、テキスト②各論①			
11	加藤・藤本	片麻痺のADL障害とADL練習法、介助法	片麻痺患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第3章-①、テキスト②各論①			

12	加藤・藤本	片麻痺のADL障害とADL練習法、介助法	片麻痺患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第3章-①、テキスト②各論①					
13	加藤・藤本	片麻痺のADL障害とADL練習法、介助法	片麻痺患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第3章-①、テキスト②各論①					
14	加藤・藤本	関節リウマチのADL障害とADL練習法、介助法	関節リウマチの障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第4章-⑨、テキスト②各論④					
15	加藤・藤本	関節リウマチのADL障害とADL練習法、介助法	関節リウマチの障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第4章-⑨、テキスト②各論④					
16	加藤・藤本	人工関節置換術後のADL障害とADL練習法、介助法	人工関節術後患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第4章-⑨、テキスト②各論⑤					
17	加藤・藤本	人工関節置換術後のADL障害とADL練習法、介助法	人工関節術後患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第4章-⑨、テキスト②各論⑤					
18	加藤・藤本	脊髄損傷のADL障害とADL練習法、介助法	脊髄損傷患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第3章-②③、テキスト②各論②					
19	加藤・藤本	脊髄損傷のADL障害とADL練習法、介助法	脊髄損傷患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第3章-②③、テキスト②各論②					
20	加藤・藤本	脊髄損傷のADL障害とADL練習法、介助法	脊髄損傷患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第3章-②③、テキスト②各論②					
21	加藤・藤本	神経筋疾患のADL障害とADL練習法、介助法	神経筋疾患の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第4章-①②、テキスト②各論⑧					
22	加藤・藤本	神経筋疾患のADL障害とADL練習法、介助法	神経筋疾患の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学習する :テキスト①第4章-①②、テキスト②各論⑧					
23	加藤・藤本	介助・誘導法のまとめ	授業で扱った疾患・障害を具体的に想定した介助・誘導方法を学習する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●	●		40	①～⑪
	実技試験		●		●		40	①～⑤、⑧～⑪
	小テスト		●				10	①～⑤
	授業への参加態度及び発表					●	10	⑫
評価の 特記事項	筆記試験、実技試験で各6割を得点し、総合点で6割以上の者を合格とする。左記の条件を満たしていない学生は再試験を実施する。再試験は、筆記試験のみ、実技試験のみ、筆記及び実技試験のいずれかのパターンとなる。再試験においても、小テストと授業への参加態度及び発表を含めて評価する。日常生活活動学の未履修者および不合格者の受講は認めない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
講義に臨む前に、講義計画に記載された該当する教科書範囲をしっかりと学修するとともに、各疾患の病態・障害について知識を整理してください。小テスト実施については、授業中に案内をします。動作誘導・介助法については、復習時間を十分にとり、様々な人と練習を重ねてください。（1時間程度） 症例検討については授業時間外も活用し、よりよい内容となるようにしてください。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
小テストについては、次回の授業内に全体にフィードバックします。 筆記試験・実技試験については、個別もしくは全体に対し行います。								
教科書								
「新版日常生活活動（ADK）第2版 評価と支援の実践」 編集：伊藤利之、江藤文夫 医歯薬出版								
参考図書								
「イラスト わかりやすい移動のしかた」井口恭一 著 三輪書店 「姿勢と動作」齋藤宏 他著 メガカルフレンド社								
備考：履修者への要望								
・実習、グループワークが中心である。個々が責任を持ち、他者と協力して課題遂行することを望みます。また、提示されたことだけを行うのではなく、自ら疑問を持ち解決しようとする姿勢で受講してください。 ・症例検討では、グループメンバーとしっかりディスカッションしてください。その際、自らの意見の表出しましょう。 ・接遇、動作説明、人への接触の仕方など、実際の臨牀的なことを考えて実技に取組んでください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
義肢装具学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	15時間
担当教員名						
山田 南欧美						
実務経験のある教員						
山田 南欧美：医療機関で理学療法士として勤務し、装具処方・義肢装具装着訓練の実務経験がある教員が、義肢装具の処方・評価・調整についての講義を行う。						
授業概要						
義肢装具は、障害児・者が障害を克服し、充実した日常生活を送るために必要不可欠な手段であり、リハビリテーションと密接している。義肢装具の変遷や現況、また義肢装具の構造や機能、評価方法を学修することで、適切な義肢装具を処方するための知識を習得する。また、切断患者のリハビリテーションや装具を使用したリハビリテーションの実践について学修することで、リハビリテーションにおける義肢装具の役割や使用方法について理解する。						
学習到達目標						
知識・理解	①切断術について理解することができる。(DP1~2) ②義足の構造や部品について理解することができる。(DP1~2) ③義足の適合および異常歩行について理解することができる。(DP1~2)					
思考・判断 ・表現	④切断者に対するリハビリテーションについて説明できる。(DP1~2) ⑤大腿義足・下腿義足・その他の義足について説明できる。(DP1~2) ⑥異常歩行の原因究明およびその対処法の提案を行うことができる。(DP1~2)					
技能	⑦対象者の症状や動作から、適切な義肢装具を処方し、適合性を評価することができる。(DP1~2)					
関心・意欲 ・態度	⑧処方および調整・チェックアウトに必要な知識について積極的にインプット・アウトプットすることができる。(DP1~2)					
授業形態						
講義	教科書やスライドを用いた講義を中心とする。 最終回には実技を交えたアクティブラーニングを実施する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	山田	義肢装具の基礎知識	義肢装具療法の流れ、歩行のバイオメカニクス、支給体系について学ぶ。(第1章 1-3)			
2	山田	切断総論	切断の疫学・部位名称・機能を学ぶ。(第3章 1)			
3	山田	切断のリハビリテーション	術前・術後管理、断端管理、義肢装着訓練について学ぶ。(第3章 2)			
4	山田	義肢総論	義肢の種類、構成要素、適合判定、幻肢について学ぶ。(第4章 1)			
5	山田	大腿義足	大腿義足の特徴と適合判定、異常歩行について学ぶ。(第4章 2)			
6	山田	下腿義足	下腿義足の特徴と適合判定、異常歩行について学ぶ。(第4章 3)			
7	山田	股、膝、サイム、足部切断用義足、義手	各義足の特徴と適合、義手について学ぶ。(第4章 4、5)			
8	山田	授業全体の総まとめ	切断・義肢範囲のまとめ、および実技を交えたアクティブラーニングを実施する。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●	●	●	80	①～⑧
	小テスト		●	●	●	●	20	①～⑧
評価の 特記事項	筆記試験で6割に満たない場合、再試験の対象となる。 小テストで6割に満たない場合、課題を提示する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>各講義前に必ず教科書の講義範囲を読み、内容を把握しておくこと。疑問点等は講義中に確認できるよう、書き出したり、マーカーを引いたりすること。（必要な時間：約1～2時間）。各講義後には講義中に学んだことを復習し、理解できていない部分については教員に確認を取ること。第2回以降の講義中には小テストで前講義範囲の習熟度を確認する。講義中の資料や講義時間外に復習した内容、その他自主学修で自ら収集した資料を合わせて、ポートフォリオを作成すること。</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（筆記試験、小テスト、ポートフォリオ等）についての質問は随時受け付ける。メール・クラスルーム投稿等を積極的に活用すること。								
教科書								
「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学」佐伯覚 編 医学書院								
参考図書								
「リハビリテーション義肢装具学」清水順一 青木主税 編 メジカルビュー社 「義肢装具のチェックポイント 第8版」 日本整形外科学会 監修 医学書院 「装具治療マニュアル」加倉井周一 他 編 医歯薬出版 「義肢装具学」川村次郎 他 編 医学書院								
備考：履修者への要望								
<p>本講義では初めて学ぶ用語が多く、覚えなければならぬことが多いため、各用語の意味をその都度理解するように心掛けてください。不明な点があった場合は、すぐに質問をすること。事前にテキストを読んできたことを前提に講義を行います。</p>								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
義肢装具学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
山田 南欧美、奥野 雅大						
実務経験のある教員						
山田 南欧美：医療機関で理学療法士として勤務し、装具処方・義肢装具装着訓練の実務経験がある教員が、義肢装具の処方・評価・調整についての講義・実習を行う。 奥野 雅大：医療機関等で義肢装具士として義肢装具作成・調整・チェックアウト等の実務経験がある者が、義肢装具の作成・調整・チェックアウトについての講義・実習を行う。						
授業概要						
本講義は、臨床において適切に義肢装具を処方・調整する能力を養うことを目的とする。義肢装具学で学んだことと結びつけながら、疾患別適応を学習することで、より実践的な場面で必要な知識や考え方を習得する。さらに、グループワークを通して、実際の異常歩行や疾患を想定しながら適切な義肢装具について互いに議論することで、適切な処方や調整に必要な思考過程を学修する。						
学習到達目標						
知識・理解	①各種装具の疾患別適応および適合と評価について理解することができる。（DP1～2） ②体幹装具、各種下肢装具の意義・目的を理解することができる。（DP1～2）					
思考・判断 ・表現	③体幹装具、各種下肢装具の適応疾患や種類について説明できる。（DP1～2） ④各種装具の処方および調整とチェックアウトを行うことができる。（DP1～2、5）					
技能	⑤対象者の症状や動作から、適切な義肢装具を処方し、適合性を評価することができる。（DP1～2、5）					
関心・意欲 ・態度	⑥まとめ回のアクティブラーニングにおいて、処方および調整・チェックアウトに必要な知識について積極的にインプット・アウトプットすることができる。（DP1～2、3、5）					
授業形態						
実習	教科書やスライドを用いた講義を中心とする。 まとめ回には実技を交えたアクティブラーニングを実施する。 講義内容に関する意見について、Google Formsで回収し、次回の講義時に回答する。 現役の義肢装具士による、義肢装具の実物を交えた講義・演習も行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	山田	装具総論	装具の目的・役割、基本構造、材料力学、代表的な継手の種類と特徴を学ぶ。（第2章 1）			
2	山田	脳卒中片麻痺の装具	下肢装具の処方と適合、長下肢装具について学ぶ。（第2章 2）			
3	山田	脳卒中片麻痺の装具	短下肢装具について学ぶ。（第2章 2）			
4	山田	整形外科治療装具	上肢装具・下肢装具について学ぶ。（第2章 1・2）			
5	山田	整形外科治療装具	脊椎疾患装具について学ぶ。（第2章 3）			
6	山田	脊髄損傷の装具	脊髄損傷の装具の種類・特徴について学ぶ。（第2章 4）			
7	山田	関節リウマチの装具	関節リウマチの装具の種類・特徴について学ぶ。（第2章 5）			
8	山田	末梢神経障害の装具	末梢神経障害の装具の種類・特徴について学ぶ。（第2章 6）			
9	山田	小児用装具	小児用装具の種類・特徴について学ぶ。（第2章 7）			

10	山田	補装具・福祉用具	車椅子、座位保持装置、歩行補助具について学ぶ。（第5章 1・2・3）					
11	山田	補装具・福祉用具	移乗用具、自立生活支援用具、環境制御装置について学ぶ。（第5章 4・5・6）					
12～13	山田	授業全体の総まとめ	装具・補装具・福祉用具範囲のまとめ、および実技を交えたアクティブラーニングを実施する。					
14	奥野	義足を構成する部品と義足歩行体験	義足を構成する各部品について画像と実物を紹介し、模擬義足を用い義足歩行を体験する。					
15	奥野	プラスチック短下肢装具の種類と機能	プラスチック短下肢装具の画像と実物を紹介し、種類や機能および特徴を説明する。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●	●		70	①～⑤
	小テスト		●	●	●		20	①～⑤
	参加貢献度					●	10	⑥
評価の 特記事項	筆記試験が6割に満たない場合、再試験の対象となる。 小テストの合計が6割に満たない場合、課題を提示する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
各講義前に必ず教科書の講義範囲を読み、内容を把握しておくこと。疑問点等は講義中に確認できるよう、書き出したり、マーカーを引いたりすること。（必要な時間：約1～2時間）。各講義後には講義中に学んだことを復習し、理解できていない部分については教員に確認を取ること。第2回以降の講義中には小テストで前講義範囲の習熟度を確認する。講義中の資料や講義時間外に復習した内容、その他自主学修で自ら収集した資料を合わせて、ポートフォリオを作成すること。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（筆記試験、小テスト、ポートフォリオ等）についての質問は随時受け付ける。メール・クラスルーム投稿等を積極的に活用すること。								
教科書								
「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学」佐伯覚 編 医学書院 2018								
参考図書								
「義肢・装具学 第2版」高田治実 監 羊土社 2023 「リハビリテーション義肢装具学」清水順一 青木主税 編 メジカルビュー社 2017 「義肢装具のチェックポイント 第9版」日本整形外科学会 監修 医学書院 2021 「装具治療マニュアル」加倉井周一 他 編 医歯薬出版 2000 「義肢装具学 第4版」川村次郎 他 編 医学書院 2009								
備考：履修者への要望								
本講義の内容は、身に付けた知識を自分なりに解釈し、応用し、アウトプットすることで習得されます。講義中の議論やグループワークに積極的に参加し、自分の中で考えたことをしっかりと他者に伝えるように心掛けてください。また、可能な限り実物を紹介して講義を進めます。3階の義肢装具等の陳列棚に保管してあるので、実物を使用して学修を深めたい場合は主担当教員に連絡をしてください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
物理療法学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	2単位	30時間
担当教員名						
臼井 晴信						
実務経験のある教員						
臼井 晴信：医療機関で理学療法士として勤務し、物理療法を用いた患者治療経験のある教員が、物理療法に関する講義を行う。						
授業概要						
本科目は、温熱療法、電気刺激療法、超音波療法、水治療法などの物理療法の理論と実践を学修する。また物理療法機器の取り扱い、適応と禁忌についても詳しく学修する。はじめに、各物理療法を実際に体験し、実際に生体におこる反応を観察したのち講義を行う。講義の最後には模擬症例に対して物理療法の適応を考えたグループワークを行う。また日々進歩する分野であるので、講義の中で最新の物理療法にも触れる。						
学習到達目標						
知識・理解	①理学療法における物理療法の位置づけを論じることができる。 (DP1, 2) ②各物理療法の実施方法と生体への効果を論じることができる。 (DP1, 2)					
思考・判断 ・表現	③各物理療法の適応と禁忌を説明できる。 (DP1, 5) ④生理学的根拠をもって物理療法を選択できる。 (DP1, 2, 5)					
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	教科書とスライドによる講義を行います。実際に物理療法機器を使った実習と一部グループワークを行います。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	臼井	物理療法概論	コースオリエンテーション 物理療法の概要を学修する。理学療法における物理療法の位置づけを学修する。 (教科書 1章)			
2	臼井	物理療法機器	物理療法で用いる機器について学修する 物理療法の種類を学修する			
3	臼井	疼痛のメカニズム	疼痛の種類と発生機序について学修する			
4	臼井	寒冷療法の実習	寒冷療法を実演し、方法を身につける 寒冷療法による生体の変化について考察する			
5	臼井	寒冷療法	寒冷が生体に及ぼす生理学的変化について学修する 寒冷療法の実際を学修する (教科書 3章)			
6	臼井	温熱療法の実習	温熱療法を実演し、方法を身につける 温熱による生体の変化について考察する			
7	臼井	温熱療法	熱に関する物理学、生理学を学修する (教科書 2章) 温熱が生体に及ぼす生理学的変化について学修する (教科書 2章)			
8	臼井	極超短波療法の実習 超音波療法の実習	極超短波療法、超音波療法を実演し方法を身につける (教科書 2章)			
9	臼井	極超短波療法 超音波療法	極超短波療法、超音波療法が生体に及ぼす生理学的変化について学修する (教科書 2章)			
10	臼井	電気刺激療法の実習 水治療法の実習	電気刺激療法・水治療法を実演し、方法を身につける (教科書 4-5章)			

11	白井	電気刺激療法	電気刺激療法が生体に及ぼす生理学的変化について学修する (教科書 5章)					
12	白井	水治療法 光線療法 牽引療法	水治療法について学修する (教科書 4章) 光線療法について学修する (教科書 6章) 牽引療法について学修する (教科書 8章)					
13	白井	ケーススタディ	グループワークによる症例検討を行う					
14	白井	発表	グループワークによる症例検討の発表・ディスカッションを行う					
15	白井	最新の物理療法	臨床で行われている最新の物理療法を学修する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験		●	●			70	①～④
	小テスト		●				10	①②
	レポート		●	●			20	①～④
評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
各講義の初めに前回講義の内容および生理学的内容の復習事項について的小テストを行います。生理学の復習をして臨んでください（2時間程度）。講義の中では物理療法機器などを使った演習を行います。演習を行った際はレポートの提出を求めます（2時間程度）。積極的に自分の意見を書くようにしてください。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
小テスト、レポートは返却します。筆記試験は結果を開示します。								
教科書								
「標準理学療法学 専門分野 物理療法学」第5版 網本和 編 医学書院								
参考図書								
備考：履修者への要望								
学修内容が多く多岐にわたります。解剖学、生理学、運動学の知識を整理して学修してください。質問はいつでも受けつけます。疑問を持って講義に参加してください。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
物理療法学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
臼井 晴信、濱田 光佑						
実務経験のある教員						
臼井 晴信、濱田 光佑：医療機関で理学療法士として勤務し、物理療法を用いた患者治療経験のある教員が、物理療法に関する実習を行う。						
授業概要						
本科目は、物理療法学で学修した温熱療法、電気刺激療法、超音波療法に関する実験をグループで行い、データを測定し考察する。さらに授業の最後で資料を作成して各グループの実験結果を発表する。実験を通して、物理療法機器の操作、生体へ起こる反応、適応と禁忌を学修し、物理療法によって生じる生理学的変化を考察する。						
学習到達目標						
知識・理解						
思考・判断 ・表現	①物理療法によって発生した生体反応を説明できる。（DP1, 2） ②実験結果からデータを解析し、考察することができる。（DP1, 2） ③物理療法の効果について討論することができる。（DP1, 2, 5）					
技能	④物理療法の安全かつ効果的に実施できる。（DP1, 2） ⑤物理療法機器の操作・保守・管理ができる。（DP1, 2）					
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
実習	物理療法機器を使いデータ測定および考察を行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	臼井、濱田	オリエンテーション、実習準備	物理療法機器説明、注意事項、実習のための機器操作、手順を予習。			
2～3	臼井、濱田	寒冷療法の実習	寒冷療法の実習を行い、寒冷療法による生理学的効果を検証する。			
4～5	臼井、濱田	温熱療法の実習	温熱療法の実習を行い、温熱療法による生理学的効果を検証する			
6～7	臼井、濱田	超音波療法の実習	超音波療法の実習を行い、超音波療法による生理学的効果を検証する			
8～9	臼井、濱田	電気刺激療法の実習	電気刺激療法の実習を行い、電気刺激による生理学的効果を検証する			
10～11	臼井、濱田	物理療法と運動療法の実習	物理療法と運動を組み合わせた実習を行い、物理療法が運動に及ぼす生理学的効果を検証する。			
12～13	臼井、濱田	発表準備	測定したデータをまとめ発表できるように資料を準備する。			
14～15	臼井、濱田	発表	実習結果の発表と討論を行う。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	レポート		●	●		60	①～⑤
	発表		●	●		30	①～④
	参加貢献度		●	●		10	①～④
評価の 特記事項	合格点に満たない場合でも、再試験は実施しない。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
各実習項目の目的、機器の操作方法を予習しておく。（1時間程度）							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
レポートは返却します。							
教科書							
「標準理学療法学 物理療法学 第5版」網本 和 編 医学書院							
参考図書							
備考：履修者への要望							
物理療法の実践を体感してください。実習からデータをとり、レポート・発表でアウトプットすることで考察能力を高めてください。互いに議論し考察を深めてください。グループワークは主体的に参加してください。							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法特論Ⅰ (神経生理学的アプローチ)		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	3学年	選択	1単位	15時間
担当教員名						
加藤 真弓、濱田 光佑						
実務経験のある教員						
加藤 真弓:医療機関や介護保険分野で理学療法士としての勤務経験があり、PNFに関係するコースを受講した教員が、理学療法の対象疾患として関わることの多い脳血管疾患の理学療法についてグループワーク等を通して必要な知識の確認をする。またPNFについて講義および実技を行う。 濱田 光佑:医療機関等で理学療法士としての勤務経験があり、認知神経リハビリテーションのコースを修了した教員が、認知神経リハビリテーションの概念に基づく脳血管疾患の理学療法について講義および実技を行う。						
授業概要						
学内での講義、実習や自習、臨床実習で学んだことを整理し、脳血管疾患患者に対するリハビリテーションならびに理学療法について共に考える。また、脳科学に基づくリハビリテーション、神経生理学的アプローチの1つであるPNF、さらに認知神経リハビリテーションについて学修する。						
学習到達目標						
知識・理解	①脳血管疾患患者の障害と回復過程について説明できる。(DP1) ②PNF、認知神経リハビリテーションについて、その基本的概念を理解し説明できる。(DP1, 5) ③専門書の記述内容や説明を批判的に読み、理解できる。(DP1) ④脳科学に基づく理学療法及びリハビリテーションについて理解し、説明できる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	⑤授業で学んだことと臨床実習での体験を融合させ、主に脳血管疾患に対するリハビリテーションや理学療法について考えを整理し、説明することができる。(DP1, 5)					
技能	⑥基本的なPNF手技を模倣できる。(DP1) ⑦認知神経リハビリテーションの概念に基づいた理学療法の模倣ができる。(DP1)					
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
演習	講義やグループディスカッション及び発表、実技を行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	加藤	脳血管疾患患者に対する理学療法およびリハビリテーション	3年次までの授業や臨床実習での経験を整理し、急性期・回復期・生活期において何を目的に、どのような理学療法が実施されているのかを検討する。また、リハビリテーションの流れを考える。			
2	加藤	脳血管疾患患者に対する理学療法およびリハビリテーション	脳血管疾患患者に対する理学療法、リハビリテーションを脳科学や神経生理学的側面から考える。			
3	濱田	認知神経リハビリテーション	認知神経リハビリテーションの定義・歴史・基本原則			
4	濱田	認知神経リハビリテーション	認知神経リハビリテーションの定義・歴史・基本原則とその実際			
5	濱田	認知神経リハビリテーション	認知神経リハビリテーションの実際			
6	加藤	固有受容性神経筋促通法(PNF)	PNFの定義・歴史・基本原則			

7	加藤	固有受容性神経筋促通法 (PNF)	PNFの基本手技					
8	加藤	固有受容性神経筋促通法 (PNF)	PNFの基本手技と臨床応用。 筆記試験(ミニテスト)。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合 (%)	到達目標
	授業への参加態度		●	●	●		60	①②③④⑤⑥⑦
	レポート		●	●			20	①③⑤
	筆記試験		●	●			20	①②③④⑤
評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかったとしても再試験は実施しない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
1、2年次や臨床実習時に学んだ理学療法の知識・技術について受講前にまとめる（開講前に掲示連絡します）（7～8時間）。 中枢神経障害への理学療法に関する関係成書・ジャーナルを読み、今後の臨床に繋がるよう学習を行うことに加え、授業内で紹介できるようにまとめる。（7～8時間） 授業内容に関する復習を行う。（各1.5時間）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
筆記試験については、個別対応します。レポートについては口頭発表時にコメントします。また、レポート返却します。								
教科書								
特になし								
参考図書								
「理学療法ハンドブック第1～4巻」 細田多穂 他編 協同医書出版など関係成書								
備考：履修者への要望								
臨床につながる知識・技術のまとめになるような積極的な受講態度を望む。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法特論Ⅱ (関節運動学的アプローチ)		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	3学年	選択	1単位	15時間
担当教員名						
齊藤 誠、鈴木 惇也						
実務経験のある教員						
齊藤 誠、鈴木 惇也：理学療法士としての実務経験がある教員が、臨床現場で使用されることもある治療方法を講義、実技を通して指導する。						
授業概要						
本講義は、徒手的な理学療法治療のひとつである関節運動学的アプローチを中心に解説、実技練習を行う。関節運動学的アプローチを経験することで、患者にとって負担の少ない関節運動の方法などを学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①関節運動学的アプローチに代表される徒手療法について調べ、メカニズムや適応疾患、禁忌などを理解することができる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	②徒手的理学療法について調べ、症例に対して適応可能かを妥当性をもって判断することができる。(DP2)					
技能	③基本的な徒手的理学療法の方法を経験し、健常者を対象に模倣することができる。(DP1)					
関心・意欲 ・態度	④科学的な態度で徒手的理学療法を学ぶことができる。(DP2)					
授業形態						
演習	講義、実技を中心に行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	齊藤	関節運動学的アプローチ 概論	運動学の復習、関節運動学的アプローチの概念について学習する。			
2	齊藤	関節運動学的アプローチ 実技	上肢を中心とした大関節に関する関節運動学と動かし方を解説し、実際に実技を行う。			
3	齊藤	関節運動学的アプローチ 実技	下肢を中心とした大関節に関する関節運動学と動かし方を解説し、実際に実技を行う。			
4	齊藤	関節運動学的アプローチの効果、対象とする疾患の検討	実技練習を行った手技はどのような効果が期待されるかを、解剖学、運動学的観点から考察する。また、どのような疾患を対象とすべきかも検討する。			
5	鈴木	腰痛症について	腰痛症に対する理学療法評価、治療について解説する			
6	鈴木	腰痛症について	腰痛症に対する理学療法評価、治療について解説する			
7	齊藤	関節運動学的アプローチの効果、対象とする疾患の検討	実技練習を行った手技はどのような効果が期待されるかを、解剖学、運動学的観点から考察する。また、どのような疾患を対象とすべきかも検討する。			

8	齊藤	実技練習と全体のまとめ		関節運動学的アプローチの概念や適応疾患を理解した上で、実技練習を行う。 それぞれのアプローチについて質疑応答を行い、全体を総括する。				
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	レポート		●	●	●	●	90	①②③④
	参加貢献度		●	●	●	●	10	①②③④
評価の 特記事項	レポートは個人で作成し、提出する。詳細は初回講義時などに適宜説明する。 また、すべての評価方法の合計点数に満たない場合でも、再試験は実施しない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
運動学（筋の作用、関節構造）について復習（1時間程度）をしてくると講義内容が理解しやすくなる。 また全ての手技を講義時間内で修得することは困難であり、自主的な練習（3時間）が必要となる。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポート内容についてのフィードバックは第8回目の講義時の総括にて行う。								
教科書								
「理学療法ハンドブック 第2巻」 細田多穂 編 協同医書出版 「図解 四肢と脊椎の診かた」 野島元雄 監訳 医歯薬出版								
参考図書								
特になし（講義時に適宜、紹介、配布する）。								
備考：履修者への要望								
実技が主体となるため、積極的な参加を期待する。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法特論Ⅲ (筋生理学的アプローチ)		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	3学年	選択	1単位	15時間
担当教員名						
宮津 真寿美、加藤 真弓、川村 皓生						
実務経験のある教員						
宮津 真寿美、加藤 真弓、川村 皓生：医療機関で理学療法士として勤務し、理学療法の経験のある教員が、理学療法の筋生理学アプローチについての講義を行う。						
授業概要						
理学療法士は、対象者の筋機能を評価し、筋機能の向上を目指す。本科目では、筋機能について再学習するとともに、高齢者に対する理学療法を行う上で重要となるサルコペニア、フレイルの概念を学ぶ。また、筋徒手療法の臨床応用と問題点について学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①筋の構造や機能を理解した上で、筋肥大や筋萎縮などの筋機能が説明できる。（DP1, 2） ②サルコペニア、フレイルの概念について説明できる。（DP1, 2） ③軟部組織モビライゼーションとストレッチについて説明できる。（DP1, 2）					
思考・判断 ・表現						
技能	④軟部組織モビライゼーションやストレッチの臨床応用を考え、実施できる。（DP1, 2）					
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
演習	配布資料、スライドを使用した講義を中心に、一部ゼミ形式で行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	宮津	筋肉の構造、機能	筋肉の構造、機能について、再学習する。質疑応答を含めたゼミ形式で行う。			
2	宮津	筋機能の基礎：筋肥大	筋肥大のメカニズムを学習する。			
3	宮津	筋機能の基礎：筋萎縮	筋萎縮のメカニズムを学習する。			
4	川村	サルコペニアについて	サルコペニアの概念、病態、関連因子や介入方法などについて学術的背景を中心とした講義を行う。			
5	川村	フレイルについて	近年注目されているフレイルの概念や病態の捉え方、理学療法士としての関わり方などについて学ぶ。			
6	加藤	筋の柔軟性に対するアプローチ	軟部組織モビライゼーションやストレッチに関する文献抄読を行う。			
7	加藤	軟部組織モビライゼーション	軟部組織モビライゼーションとは。 軟部組織モビライゼーションの種類、適応・禁忌を学ぶ。また手技を体験的に学ぶ。			

8	加藤	ストレッチ	神経筋生理を応用したストレッチ、リラクゼーションを体験的に学ぶ。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	レポート・課題		●				60	①②③
	口頭試問		●		●		40	①③④
評価の 特記事項	口頭試問（40％）（20％：宮津担当、20％：加藤担当）、レポート・課題40％（宮津および川村担当：各20％）、受講参加態度（加藤担当：20％） なお、すべての評価方法の合計点数に満たない場合でも、再試験は実施しない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
様々な成書がある。積極的な自己学習によりこの科目の理解につながる。 教員からの課題レポートの作成：約1～3時間								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポートや課題は、返却する。								
教科書								
なし。 適宜、資料を配布する。また、他の科目で使用した教科書の持参を指示をすることがある。								
参考図書								
筋機能改善の理学療法とそのメカニズム（ナツプ） 葛谷雅文、雨海照祥編；フレイラー超高齢社会における最重要課題と予防戦略：医歯薬出版、2014。 島田裕之編；サルコペニアと運動－エビデンスと実践：医歯薬出版、2014。								
備考：履修者への要望								
臨床実習後、改めて理学療法を学習する機会とし、臨床につながる知識・技術のまとめになるような積極的な受講態度を望む。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法特論Ⅳ (スポーツ障害理学療法)		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	3学年	選択	1単位	15時間
担当教員名						
藤本 大介						
実務経験のある教員						
藤本 大介：スポーツ理学療法の活動実績のある教員がスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについて指導する						
授業概要						
スポーツ外傷・障害に対する理学療法は、単に日常生活レベルに戻すことだけではなく、競技復帰に向けて心身共にそのスポーツに適応出来る状態まで戻す必要がある。また、再発予防の為に内容を積極的に取り入れる必要がある。この講義では、スポーツ障害の特徴とアスレティックリハビリテーションの概念を理解し実践できる内容を展開する。						
学習到達目標						
知識・理解	①スポーツ外傷および障害の原因や状態について説明することができる。(DP1) ②スポーツ外傷および障害に対する理学療法について説明することができる。(DP1) ③スポーツ外傷および障害の予防について説明することができる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	④スポーツ外傷および障害の原因について自らの体験から考察することができる。(DP2)					
技能	⑤スポーツ外傷および障害に対する基本的な処置や理学療法を実施することができる。(DP1)					
関心・意欲 ・態度	⑥スポーツ外傷および障害について積極的に学び、仲間と共同して実技に取り組むことができる。(DP5)					
授業形態						
演習	基本的に講義と実技を取り混ぜながら実施する。 実技はグループにおいて課題解決のためのアクティブラーニングを実施する。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	藤本	スポーツ外傷・障害概論	スポーツ外傷・障害の概要を学ぶ□ 競技特性・部位別のスポーツ外傷・障害を学ぶ			
2	藤本	テーピング	テーピングの基本技術と効果について学ぶ□ テーピングの応用技術と効果について学ぶ			
3	藤本	スポーツ外傷・障害概論（第1回の続き）	スポーツ外傷・障害の概要を学ぶ□ 競技特性・部位別のスポーツ外傷・障害を学ぶ			
4	藤本	テーピング（第2回の続き）	テーピングの基本技術と効果について学ぶ□ テーピングの応用技術と効果について学ぶ			
5	藤本	アスレティックリハビリテーションにおける評価（講義）	動作分析、動作指導、競技復帰のためのアスレティックリハビリテーションの実践について学ぶ			
6	藤本	アスレティックリハビリテーションにおける評価（演習）	提示した課題に沿って、必要なアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、発表し、ディスカッションを行う			
7	藤本	アスレティックリハビリテーションにおける治療（講義）	動作分析、動作指導、競技復帰のためのアスレティックリハビリテーションの実践について学ぶ			

8	藤本	アスレティックリハビリテーションにおける治療（実技）	動作分析、動作指導、競技復帰のためのアスレティックリハビリテーションの実際について体験する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	知識確認レポート		●	●			70	①②③④
	技術確認テスト		●		●	●	30	①②③⑤⑥
評価の 特記事項	知識確認レポート（70％）は第1回、第6回に提出、技術確認テスト（30％）は第4回の講義の中で実施する。 なお、すべての評価方法の合計点数に満たない場合でも、再試験は実施しない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
テーピングを含めた実技は講義時間外で自己研鑽が重要である。時間を作って練習すること（3時間程度）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
講義の中で、全体にフィードバックしながら進める。								
教科書								
適宜、講義資料を配布する。								
参考図書								
スポーツ医学、スポーツ理学療法等の成書								
備考：履修者への要望								
卒業後の臨床に向けて、具体的な技術を中心に行います。積極的な受講を望みます。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
生活環境論		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	15時間		
担当教員名								
木村 菜穂子								
実務経験のある教員								
木村 菜穂子：医療機関、介護保険サービス分野で理学療法士として地域・在宅理学療法に携わってきた経験のある教員が、理学療法対象者の多くを占める高齢者や障害者を支援する上で重要になる生活環境へのアプローチ方法について講義する。								
授業概要								
高齢者や障害者が、自立した生活や社会参加を図っていくためには、その生活環境へのアプローチが不可欠となります。 本科目では、理学療法士がリハビリテーション専門家として対象者に関わっていくために必要な、生活環境に関する基本的な概略を踏まえた上で、街づくりの観点からの生活環境整備、住宅改修を考えたときの評価方法や具体的なアプローチ方法を講義形式にて学びます。加えて、これらの整備の前提となる社会福祉制度・社会保障制度を学びます。								
学習到達目標								
知識・理解	①生活環境とは何か、生活環境と障害問題について、多角的な考え方を自分の言葉で述べることができる。（DP1） ②生活環境整備の前提となる社会福祉制度・社会保障制度について述べることができる。（DP1）							
思考・判断 ・表現	③住宅改修を行うために必要な評価を考えることができる。（DP1、DP3、DP5） ④対象者が持つ障害特性や家庭環境を踏まえた住宅改修プランを考えることができる。（DP3、DP5）							
技能								
関心・意欲 ・態度								
授業形態								
講義	スライドを用いた講義形式が中心となります。一部、グループワークを実施します。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1～2	木村	生活環境の概念	・生活環境とは ・高齢者・障害者にとって生活環境はどのような意味を持つのか ・生活環境整備に必要な視点					
3～5	木村	生活環境に対するアプローチ	・狭義の生活環境(住宅)の整備計画策定に必要な視点 ・住宅改修に必要な評価と改修計画 ・住宅整備の具体的な方策、基準					
6～7	木村	広義の生活環境～まちづくりの視点	・高齢者・障害者の住みよいまちづくりの視点と、現在の問題点 ・高齢者・障害者を取り巻く生活環境の整備に関する具体的な基準					
8	木村	まとめ	講義まとめ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・ 理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			80	①②③
	レポート課題		●	●			20	①②③④
評価の 特記事項	筆記試験(80%)とレポート課題(20%)にて成績評価しますが、本講義の単位取得に、レポート課題の提出は必須としません。このため、提出期限を守れなかった場合は評価しません。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験(筆記試験)を実施することがあります。 受講態度が不良である者は、筆記試験点数から10%減ずることがあります。							

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習：シラバスの授業内容を確認し、教科書の当該部分に目を通す(約30分～1時間)。 復習：毎回、ノート代わりに配布する資料に講義中の学習内容を書き込むため、 みなおして不足部分を追記するなど整理する。 その上で理解不十分な部分は、次回の講義までに解決する(約30分～1時間)。 初回講義で提示した課題について、学習内容に沿って毎回すすめる(2～3時間)。
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
筆記試験の答案は返却しませんが、希望者には個別に開示します(事前連絡必要)。レポートはコメントを付して返却します。
教科書
「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」奈良勲監修 医学書院
参考図書
「生活環境論」千住秀明監修 神稜文庫 その他、配布資料（ノート代わり）に必要な内容は補足します。
備考：履修者への要望
講義中心となりますが、理解を深めるように努め、積極的な態度で講義に臨んでください。また、懸命に学びたいと考えている周囲の人の妨げになるような態度（講義中の私語、グループワーク等への非協力的）は、厳禁とします。

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
予防理学療法学実習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	45時間
担当教員名						
加藤 真弓、臼井 晴信、濱田 光佑、齊藤 誠、山田 南欧美、藤本 大介、宮津 真寿美						
実務経験のある教員						
加藤真弓・臼井晴信・山田南欧美・濱田光佑・齊藤誠・藤本大介・宮津真寿美 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士として勤務した経験を有する						
授業概要						
理学療法士が関わる予防には一次予防から三次予防までである。本科目では、一次予防を中心に学ぶ。官学連携事業として実施する「清須市民げんき大学」や地域での体力測定会などへの参加を通して地域高齢者に対する介護予防や疾病予防、地域づくり等を実践を通して学ぶ。また、附属こども園の未就学児に対する運動遊びや体力測定等から発達支援を考える。その他、理学療法士が関わる地域イベントへ参加を通して、予防領域での理学療法士の役割について学習する。 ※介護予防領域と発達領域の2領域に分けて実施する						
学習到達目標						
知識・理解	①高齢者の身体的側面や心理的側面を理解することができ、介護予防、健康増進の必要性を理解し説明できる。(DP1) ②身体機能測定(体力測定)・認知機能測定の方法を理解し、安全面に配慮し正確に測定することができる。(DP1) ③地域包括ケアを理解し、介護予防や地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解し説明できる。(DP1) ④未就学児の発達の理解ができる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	⑤各状況に応じた適切な判断のもと行動することができ、かつ必要な報告・連絡・相談を行うことができる。(DP3)					
技能	⑥高齢者に対する基本的な接遇やコミュニケーションをとることができる。(DP3, 4, 6) ⑦サポートスタッフの一員として構成員と協力し、状況に応じたサポートができる。(DP3, 4, 6) ⑧身体機能測定(体力測定)・認知機能測定の方法を理解した上で、安全面に配慮し正確に測定することができる。(DP1, 5) ⑨未就学児に対する、運動やレクリエーションを計画し、他者との協力のもと実施及び指導ができる。(DP3, 4, 6) ⑩未就学児とのコミュニケーションをとることができる。(DP3, 4, 6) ⑪未就学児の発達を踏まえた体力測定を、安全面に配慮し、的確に実施できる。(DP1, 5)					
関心・意欲 ・態度	⑫チームメンバーと協力し、自己の役割を考え積極的に果たすことができる。(DP3, 5)					
授業形態						
実習	ガイダンス等は、パワーポイントや資料を用いて行う。実習では主にグループ単位で活動に取り組む。 発達領域に関する授業において、昨今の世間状況により直接交流が不可になる場合は、代替となる課題を提示する場合がある。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	加藤・臼井・濱田	予防とは 介護予防	介護予防領域のガイダンス(目的、役割など)			
2	加藤・臼井・濱田	介護予防	地域包括ケア、介護予防とは(講義及びグループワーク)を既有的知識を活かし、地域課題を結び付け考える。			
3	加藤・臼井・濱田	介護予防	運動方法、リスク管理を含めたサポート方法、指導法などについて学ぶ。			
4	加藤・臼井・濱田	介護予防	体力測定方法の実際			
5～15回	加藤・臼井・濱田 (5～15回のうち1回を齊藤が担当)	介護予防	実習 期間：6月8日～3月8日 実習場所：本学、清須市内公共施設他 ＊現場実習は全ての期間を通し、一人12回程度出席する。 ＊参加高齢者の体力測定、運動のサポート、リスク管理等を行う。 ＊その他			

16	藤本・宮津	発達領域	オリエンテーション 未就学児の発達とは					
17、18	藤本・宮津	発達領域	運動遊び、体力測定、指導方法などについて資料を基に考え、計画を立案する。					
19～23回	藤本・宮津・山田	発達領域	実習 場所：本学、ゆうあいこども園他 *運動あそび教室、体力測定会に一人4回程度参加する *状況に応じて、オンライン開催、オンデマンド開催とする					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	【介護予防】実習貢献態度		●	●	●	●	30	①～⑧、⑫
	【介護予防】課題レポート・報告書		●	●			20	①②③⑤
	【発達領域】実習貢献態度		●	●	●	●	30	②～⑤、⑦～⑫
	【発達領域】課題レポート・報告書 等		●	●			20	①～⑤
評価の 特記事項	無断欠席・遅刻やレポート・報告書の未提出・遅延は減点とし、場合によっては追加課題を課す。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>【介護予防領域】 高齢者の身体的特性、心理的特性について文献調査しレポートにする(掲示連絡します)。体力測定、運動指導については事前に十分な練習をしてください。（30分程度） 運動指導をする立場として相応しい姿を考え、普段から実践する(まずは、自身の姿勢や機敏な動き、コミュニケーション等)。</p> <p>【発達領域】 子どもの動きをつかむ為、子ども向け番組や外で出会った子ども達の様子を観察をして下さい。また、未就学児が理解できる言葉使いが必要になります。改めて、自分自身の言葉使いや行動が子ども達の手本になるかどうかを見直して下さい。また、小学校に入学する前の子ども達に必要な事を調べて下さい。(1時間程度)</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
【介護予防領域】レポート等は、後日返却します。【発達領域】レポート等は、後日返却します。								
教科書								
特になし								
参考図書								
<p>【介護予防領域】 「予防理学療法要論」大淵修一 他監修 医歯薬出版株式会社 「高齢者理学療法学」島田裕之 他編 医歯薬出版株式会社 その他、老年期理学療法学で使用する教科書・参考書に準ずる。</p> <p>【発達領域】 小児科学、小児疾患系障害理学療法治療学・同実習で使用する教科書・参考書に準ずる。</p>								
備考：履修者への要望								
<p>【介護予防領域】 ・学生スタッフとして運営に関わっていることを自覚し、参加高齢者が安全に、安心して運動ができるように対象者に対する目配り・気配りを怠らず積極的に行動すること。 ・指示待ちで何もしないのではなく、自ら考え行動を起こすこと。 ・人と人との触れ合いを大切に、積極的に交流を図ること。 ・リスク管理面から、報告・連絡・相談を怠らないこと。</p> <p>【発達領域】 ・学生スタッフとして運営に関わっていることを自覚し、対象者に対する目配り・気配りを怠らず積極的に行動すること。 ・理学療法士はすべての年代の方を対象とします。未就学児に対しても積極的に交流を図ること。</p> <p>※予防領域での理学療法士の役割について考え行動する</p>								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域理学療法学		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
木村 菜穂子						
実務経験のある教員						
木村菜穂子：医療保険・介護保険領域において理学療法士として勤務経験のある教員が、地域理学療法についての講義を行う。						
授業概要						
障害を持ちながらも地域で生活することを望む高齢者・障害者は増えています。介護保険制度等の導入以降、その人たちを取り巻く状況も変化してきており、その生活を支える役割を担う者として、リハビリテーション、特に理学療法士にかかる期待は大きいといえます。これらを踏まえて、本科目では地域リハビリテーションや地域理学療法とは何か、その中で求められる理学療法士の役割は何か、ということについて、講義を通して考え、理解していきます。						
学習到達目標						
知識・理解	①地域リハビリテーション、地域理学療法概念について理解する。(DP1) ②障害者・高齢者を取り巻く社会資源や制度について理解し、説明することができる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	③地域リハビリテーションを支える他職種の役割や、チームアプローチの必要性について説明することができる。(DP3.5) ④地域リハビリテーションの中での理学療法士の役割について考え、自分の意見を述べることができる。(DP5.6)					
技能						
関心・意欲 ・態度						
授業形態						
講義	スライドを用いた講義中心に行います。一部グループワークを実施します。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	木村	地域リハビリテーションとは	・講義導入（オリエンテーション） ・地域リハビリテーションとは何か(グループワーク→発表)			
2	木村	地域リハビリテーションの概念	・地域リハビリテーションの概念			
3	木村	地域リハビリテーションの変遷	・世界と日本における地域リハビリテーション			
4	木村	地域リハビリテーションの背景	・日本における地域リハビリテーションの変遷と背景			
5	木村	介護保険制度導入の背景	・介護保険制度の導入の背景と目的			
6	木村	介護保険制度の仕組み	・介護保険制度の基本的な仕組み			
7	木村	介護保険制度の変遷	・介護保険制度導入時からこれまでに行われた改訂 ・社会的背景をふまえた変更点			
8	木村	介護保険制度の今後	・介護保険制度改訂のポイント ・今後の社会情勢変化を見据えた制度変化の動向			
9	木村	障害者福祉制度	・これまでの障害者福祉施策の変遷 ・リハビリテーションとの関連			
10	木村	関連機関との地域連携	・地域リハビリテーションにおける主な関連機関と支援体制			

11	木村	急性期・回復期の理学療法	・急性期における理学療法の目的・対象者・基本的内容 ・回復期における理学療法の目的・対象者・基本的内容					
12	木村	維持期・生活期の理学療法	・維持期（主に療養型病院・老人保健施設）における理学療法の目的・対象者・基本的内容					
13	木村	介護保険分野の理学療法	・介護保険分野（訪問リハ・通所リハ等）における理学療法の目的・対象者・基本的内容					
14	木村	介護予防分野の理学療法	・介護予防について、介護保険分野での事業 ・理学療法士の関与					
15	木村	地域リハビリテーションに必要な知識等	・地域リハビリテーションを実施する際に知っておくべき知識（権利擁護対策・身体拘束問題等）					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	筆記試験		●	●			90	①②③④
	参加貢献度(提出物等)		●	●			10	①②③④
評価の 特記事項	参加貢献度(10%)には、小テスト・提出物・グループワークへの参加度等を含みます。 受講態度不良者は、筆記試験点数から10%減ずることがあります。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施することがあります。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
予習：シラバスの授業内容を確認し、教科書の当該部分に目を通す(約30分～1時間)。 復習：毎回、ノート代わりに配布する資料に講義中の学習内容を書き込むため、 みなおして不足部分を追記するなど整理する。 その上で理解が不十分な部分に関しては、次の講義までに解決する (約30分～1時間)。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
筆記試験の答案は返却しませんが、希望者には個別に開示します(事前連絡必要)。								
教科書								
シンプル理学療法シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト 改訂第3版 / 細田多穂（南江堂）								
参考図書								
備考：履修者への要望								
講義中心となりますが、理解を深めるように努め、積極的な態度で講義に臨んでください。また、懸命に学びたいと考えている周囲の人の妨げになるような態度（講義中の私語、グループワーク等への非協力的態度）は、厳禁とします。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床実習Ⅰ（見学）		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	1学年	必修	1単位	45時間
担当教員名						
松村 仁実、加藤 真弓、宮津 真寿美、木村 菜穂子、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介						
実務経験のある教員						
松村仁実・加藤 真弓・宮津真寿美・木村菜穂子・臼井晴信・山田南欧美・齊藤誠・濱田光佑・藤本大介 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士として勤務した経験を有する						
授業概要						
病院・施設の見学を通じて社会や医療の中における、理学療法士の役割と責任を全体的に理解するため、また、2、3年次における専門的な学習を通しての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備するために行う。						
学習到達目標						
知識・理解	①理学療法士の役割や専門的な内容を体系的に理解できる。(DP1) ②症例を把握し、その問題解決のために理学療法士として可能なことを概念的に把握できる。(DP1,5) ③見学した病院・施設の目的・役割・治療方針・施設組織、および理学療法部門の役割を把握し、その中でリハビリテーションとしての理学療法の意義を把握できる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	④1年次に学んだ基礎知識が実際にはどのような意味を持つのかを考え、これ以降の専門的な学習を通じての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備できる。(DP1)					
技能	⑤理学療法の対象者やスタッフおよび診療現場全体に対して必要な配慮、心配りなどができる。(DP3,4)					
関心・意欲 ・態度	⑥先輩理学療法士、他の医療スタッフと積極的に交流し、将来、理学療法士(専門職)としての資質向上のために役立てることができる。(DP2) (DP3,4)					
授業形態						
外部実習	医療、介護施設においての実習					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習前学習	病院・施設の見学を通じて社会や医療の中における、理学療法士の役割と責任を全体的に理解するための準備をする。実習の目的、目標を確認し、実習への心構え、接遇、個人情報保護、SNSに関する事項、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)			
2	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習	医療機関・介護施設などへ赴き、規定期間実習実施(※) ※①2月13日～2月19日、②2月19日～2月27日(このうちの5日間)のどちらかに実習を行う。			
3	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習後学習	実習終了後、実習報告レポートを提出し、学内での実習報告会に参加・発表を行う。また、各自実習の振り返りをして、2年次の学習につなげる準備をする。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	総合評価	●	●	●	●	100	①②③④⑤⑥
評価の 特記事項	各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の専攻における実習判定会議にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。事前、事後ガイダンス等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもあります。また、不合格となることもあります。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>（予習・復習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習前には、1年次に学んだ「リハビリテーション、理学療法・作業療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自身の考えも踏まえ説明ができるようにすること。また、1年次次に学んだ知識の整理をしておくこと。 ・臨床実習前に、医療従事者として社会人として身につけておくべき資質について考えまとめておくこと。実習中・後には、自身の課題を整理し、理学療法士としての資質向上に努めること。 ・実習中において、解らないことや疑問に思ったことは積極的に自己学習すること。 ・実習後は、経験してきた内容を振り返りまとめ、以後の学習に繋がられるようにすること。 							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・実習中に解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめること。その内容は「デイリーレポート」や自己学習ノートに記し、実習指導者からフィードバックをその都度受け、解決するよう努めること。また、指導者に直接的に質問や指導を仰ぎ、解決を図る。デイリーレポート等は、実習後に学内教員に提出し、教員から口頭もしくは紙面にてフィードバックを受ける。 ・実習で学んだことを「実習レポート」にまとめ、実習中に実習指導者からその内容について指導を受ける。実習指導者により認可されたレポートを、実習後に学内教員に提出し、内容確認をしてもらう。 ・実習で学んだことを「実習後セミナー」で発表する。発表は、レジュメを事前に作成し、発表の場で教員からのフィードバックを受ける。 							
教科書							
必要に応じ資料を配布する							
参考図書							
関係成書							
備考：履修者への要望							
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むこと。 ・受け身的な態度ではなく積極的に指導者や職員に働きかけ、疑問を解決すること。 ・2年次の専門学習に繋がられるような実習をすること。 							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床実習Ⅱ（地域）		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	1学年	必修	1単位	9時間
担当教員名						
松村 仁実、加藤 真弓、宮津 真寿美、木村 菜穂子、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介						
実務経験のある教員						
加藤 真弓・松村 仁実・宮津真寿美・木村菜穂子・臼井晴信・山田南欧美・齊藤誠・濱田光佑、藤本大介 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士として勤務した経験を有する						
授業概要						
通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション実施施設に赴き、臨床実習指導者の指導のもとで実習を行う。地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの役割や理学療法士としての役割を見学を通して学ぶ。また、リハビリテーションマネジメント、多職種連携などについても学ぶ。						
学習到達目標						
知識・理解	①通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションについて説明できる。(DP1) ②通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解し説明できる。(DP1) ③多職種連携について理解できる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	④利用者にとって通所リハビリテーション、訪問リハビリーションが必要な理由及び目標を考え説明することができる(DP1, 5)					
技能						
関心・意欲 ・態度	⑤先輩理学療法士、他の医療スタッフと積極的に交流し、将来、理学療法士(専門職)としての資質向上のために役立てることができる。(DP2) ⑥理学療法の対象者やスタッフおよび診療現場全体に対して、医療従事者としてふさわしい態度で必要な配慮・心配りができる。(DP3, 4)					
授業形態						
外部実習	通所リハ、訪問リハ実施施設においての実習					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
	加藤・宮津・松村・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習前学習	見学を通じて通所リハもしくは訪問リハにおける理学療法士の役割と責任を全体的に理解するための準備をする。地域包括ケアシステムにおける通所リハ・訪問リハの位置づけを考える。実習の目的、目標を確認し、実習への心構え、接遇、個人情報保護、SNSに関する事項、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)			
	加藤・宮津・松村・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習	医療機関・介護施設などへ赴き、規定期間実習実施 ※1年次の8月～9月に1日行う。 ※3年次の4月～11月に4日間行う。			
	加藤・宮津・松村・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習後学習	実習終了後、実習報告レポートを提出し、学内での実習報告会に参加・発表を行う。また、各自実習の振り返りをする。			

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	総合評価	●	●		●		①～⑥
評価の 特記事項	実習指導者によって実習目標に基づいた具体的項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の専攻における実習判定会議にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。事前、事後ガイダンス等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもあります。また、不合格となることもあります。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>（予習・復習）</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習前には、1年次に学んだ「リハビリテーション、理学療法・作業療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自身の考えも踏まえ説明ができるようにすること。また、1年次今に学んだ知識の整理をしておくこと。 臨床実習前に、医療従事者として社会人として身につけておくべき資質について考えまとめておくこと。実習中・後には、自身の課題を整理し、理学療法士としての資質向上に努めること。 実習中において、解らないことや疑問に思ったことは積極的に自己学習すること。 実習後は、経験してきた内容を振り返りまとめ、以後の学習に繋がられるようにすること。 							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・実習中に解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめること。その内容は「デイリーレポート」や自己学習ノートに記し、実習指導者からフィードバックをその都度受け、解決するよう努めること。また、指導者に直接的に質問や指導を仰ぎ、解決を図る。デイリーレポート等は、実習後に学内教員に提出し、教員から口頭もしくは紙面にてフィードバックを受ける。 ・実習で学んだことを「実習レポート」にまとめ、実習中に実習指導者からその内容について指導を受ける。実習指導者により認可されたレポートを、実習後に学内教員に提出し、内容確認をしてもらう。 ・実習で学んだことを「実習後セミナー」で発表する。発表は、レジュメを事前に作成し、発表の場で教員からのフィードバックを受ける。 							
教科書							
必要に応じ資料を配布する							
参考図書							
関係成書							
備考：履修者への要望							
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むこと。 ・受け身的な態度ではなく積極的に指導者や職員に働きかけ、疑問を解決すること。 							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
臨床実習Ⅲ（評価）		リハビリテーション学科 理学療法専攻	3学年	必修	7単位	315時間		
担当教員名								
松村 仁実、加藤 真弓、宮津 真寿美、木村 菜穂子、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介								
実務経験のある教員								
松村仁実・加藤真弓・宮津真寿美・木村菜穂子・臼井晴信・山田南欧美・齊藤誠・濱田光佑・藤本大介 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士として勤務した経験を有する								
授業概要								
2年次までに学んだ理学療法の検査・測定を、実習指導者のもとで、見学・協同参加・実施を通し(監視レベル)、対象者の状態に合わせて実施する。また、得られた検査結果を統合・解釈し、障害像を理解する。さらに、実習を通し医療者に相応しい態度を身につける。								
学習到達目標								
知識・理解	①疾患や障害の知識及び検査測定の適切な知識を持つことができる。(DP1)							
思考・判断 ・表現	④収集した情報および実施した個々の検査結果をもとに、対象者の主要な問題点を把握できる。 ⑤実習での経験を通して、最終的に実習指導者からのある程度の助言で、対象者に応じた評価計画を立案することができる。(DP1, 5)							
技能	②医学的・社会的に必要な情報を多方面から収集することができる。(DP1, 5) ③疾患や障害の知識及び検査測定の適切な知識を持った上で、検査測定を実際の対象者に実施できる。(DP1, 5) ⑥必要な事項を記録し、適切に報告することができる。(DP1, 5)							
関心・意欲 ・態度	⑦知識・技術・人格が理学療法士の三本柱であることを理解し、専門職として資質の向上・充実を図るために課題に取り組むことができる。(DP2, 3, 4, 6)							
授業形態								
外部実習	医療、介護施設における実習							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習前学習	対象者に対し、適切な検査・測定や理学療法評価を実施するための準備をする。実習の目的、目標を確認し、実習への心構え、接遇、個人情報保護、SNSに関する事項、その他準備すべきことを周知する。その上で、主に検査・測定の知識・技術、臨床的思考について実習前学習を行う。(実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)					
	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習(理学療法評価)	指定期間(※)のうち6週間を医療機関・介護施設などへ赴き、最後の1週間を学内で実習目標が達成できるよう実習を行う。 ※①4月3日～5月20日、②5月29日～7月15日のどちらかで行う。					
	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習後学習	実習終了後、学内での実習報告会などに参加し、実習内容を報告する。また、デイリーレポート・関連図等を提出し、教員からフィードバックを受け、自身の過不足について振り返る。そして、不足を補う。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合(%)	到達目標
	総合評価		●	●	●	●	100	①②③④⑤⑥⑦
評価の 特記事項	・各施設において、クリニカルクラークシップに則り実施された各種検査・測定及び評価、理学療法等の状況(見学・協同参加・実施(監視レベル))に関し て、実習目標に基づいた具体的項目についての評価を実習指導者に受ける。 ・その評価内容と、学内実習での取り組み状況、実習後に学内にて開催される報告会・報告書等の提出物・OSCE(客観的臨床試験)等の状況から、理学療法専攻における実習判定会議にて、総合的に学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。 ・なお、単位認定に必要な出席日数には、各施設での実習・学内実習だけでなく、実習前ガイダンス、実習後報告会等への参加も含まれる。また、正当な理由なく学内ガイダンス等を欠席した場合は、臨床実習への参加を認めない、単位不認定とするなどの処置を行うことがある。							

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>(実習前)</p> <ul style="list-style-type: none">・「リハビリテーション、理学療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自分の考えも踏まえ説明ができるようにすること。・理学療法に必要な基礎的知識・専門知識を整理しておくこと。また、検査・測定技術、起居・移乗等の動作誘導・介助技術の練習を十分に行うこと。・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめること。 <p>(実習中)</p> <ul style="list-style-type: none">・患者の障害像把握に努めること(関連図を用いる)。・不足する自己の知識・技術を客観的に把握し、補う努力をすること。・見学・協同参加・実施(監視レベル)の経験を通して、適切な評価計画を立案し、実施できるようになるために必要な準備を行うこと。また、最終的に統合と解釈、問題点抽出、ゴール設定を行えるようになることを念頭に置き、実習に取り組むこと。・実習での経験内容を振り返り、デイリーレポート等にまとめることにより、自らの学習目標・行動目標を見直し、それ以降の学習に繋げられるようにすること。
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none">・実習中は、実習指導者に直接的に質問をしたり指導を仰ぎ、その都度解決するよう努力する。間接的には、日々の実習内容や疑問点等を「デイリーレポート」等に記し指導を仰ぐ。・実習後には実習の成果(学習内容等)を各種報告書等としてまとめ、担当教員に提出し指導を受ける。・実習での成果(学習内容等)を学内での実習後報告会にて発表し、教員や他学生からフィードバックを受ける。
教科書
これまでに使用した教科書や授業で配布した資料すべて
参考図書
標準理学療法学シリーズ「臨床実習とケーススタディ」 鶴見隆正編 医学書院 関係成書
備考：履修者への要望
<ul style="list-style-type: none">・理学療法士になるための実践的な学びの場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。・実習では多くの解らないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋げてください。・実習前のガイダンスにおいて詳細な説明をするため、必ず出席し十分な理解をした上で臨床実習に参加すること。

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
臨床実習Ⅳ（総合１）		リハビリテーション学科 理学療法専攻	3学年	必修	7単位	315時間		
担当教員名								
松村 仁実、加藤 真弓、木村 菜穂子、宮津 真寿美、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介								
実務経験のある教員								
松村仁実・加藤真弓・宮津真寿美・木村菜穂子・臼井晴信・山田南欧美・齊藤誠・濱田光佑・藤本大介 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士として勤務した経験を有する								
授業概要								
理学療法についての知識・技能を、実習指導者のもとで見学・協同参加・実施(監視レベル)を通し、評価(検査・測定含む)・ゴール設定・治療計画・治療及び訓練・指導等を学び、指導者の監視下にて実施できることを広げていく。また、評価実習時よりも評価の精度を高められるようにする。1つ1つの実践を積み重ね、理学療法における臨床的思考を理解し実践に繋げられるようにする。さらに、理学療法部門の管理・運営に関する基本的事項についての自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動を取れるようになることを目的とする。								
学習到達目標								
知識・理解	①疾患や障害及び評価の適切な知識を持ち、どのような治療計画のもとに理学療法が実践されているかを理解する。(DP1)							
思考・判断 ・表現	③検査・測定結果をもとに統合と解釈をし、最終的には実習指導者からのある程度の助言で治療計画を立てることができる。(DP1, 5)							
技能	②対象者のもつ問題点やその原因をつかむために、実習指導者のある程度の助言のもと、必要かつ適切な評価を行うことができる。(DP1, 5) ④治療計画に沿って、実習指導者の指導のもとで適切な治療訓練ができる。(DP1, 5) ⑤理学療法士として必要な記録および報告ができる。(DP1)							
関心・意欲 ・態度	⑥医療専門職にふさわしい責任ある態度・積極的な行動ができる。(DP2, 3, 4, 6)							
授業形態								
外部実習	医療、介護施設においての実習							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習前学習	対象者に対し、適切な検査・測定や理学療法評価を実施するための準備をする。実習の目的、目標を確認し、実習への心構え、接遇、個人情報保護、SNSに関する事項、その他準備すべきことを周知する。その上で、理学療法における一連の臨床的思考や理学療法の基本的技術について実習前学習を行う。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)					
	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習(理学療法評価、治療)	指定期間(※)のうち6週間を医療機関・介護施設などへ赴き、最後の1週間を学内で実習目標が達成できるよう実習を行う。 ※①5月29日～7月15日、②7月24日～9月9日のどちらかで行う。					
	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習後学習	実習終了後、学内での実習報告会などに参加し、実習内容を報告する。また、デイリーレポート・関連図等を提出し、教員からフィードバックを受け、自身の過不足について振り返る。そして、不足を補う。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	評価方法							
	総合評価		●	●	●	●	100	①②③④⑤⑥
評価の特記事項		・各施設において、クリニカルクラークシップに則り実施された各種評価、理学療法等の状況(見学・協同参加・実施(監視レベル))に関して、実習目標に基づいた具体的項目についての評価を実習指導者に受ける。 ・その評価内容と、学内実習での取り組み状況、実習後に学内にて開催される報告会・報告書等の提出物・OSCE(客観的臨床試験)等の状況から、理学療法専攻における実習判定会議にて、総合的に学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。 ・なお、単位認定に必要な出席日数には、各施設での実習だけでなく、実習前ガイダンス、実習後報告会等への参加も含まれる。また、正当な理由なく学内ガイダンス等を欠席した場合は、臨床実習への参加を認めない、単位不認定とするなどの処置を行うことがある。						

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>(実習前)</p> <ul style="list-style-type: none">・評価実習の経験を踏まえ、「リハビリテーション、理学療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自分の考えも踏まえ説明ができるようにすること。・理学療法に必要な基礎的知識・専門知識を整理しておくこと。また、検査・測定技術、起居・移乗等の動作誘導・介助技術の練習を十分に行うこと。・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめること。 <p>(実習中)</p> <ul style="list-style-type: none">・患者の障害像把握に努めること(関連図を用いる)。・不足する自己の知識・技術を客観的に把握し、補う努力をすること。・見学・協同参加・実施(監視レベル)の経験を通して、適切な評価計画や理学療法プログラムを立案し、実施できるようになるために必要な準備を行うこと。また、最終的に統合と解釈、問題点抽出、ゴール設定、理学療法プログラムを行えるようになることを念頭に置き、実習に取り組むこと。・実習での経験内容を振り返り、デイリーレポート等にまとめることにより、自らの学習目標・行動目標を見直し、それ以降の学習に繋げられるようにすること。
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none">・実習中は、実習指導者に直接的に質問をしたり指導を仰ぎ、その都度解決するよう努力する。間接的には、日々の実習内容や疑問点等を「デイリーレポート」等に記し指導を仰ぐ。・実習後には実習の成果(学習内容等)を各種報告書等としてまとめ、担当教員に提出し指導を受ける。・実習での成果(学習内容等)を学内での実習後報告会にて発表し、教員や他学生からフィードバックを受ける。
教科書
これまでに使用した教科書や授業で配布した資料すべて
参考図書
標準理学療法学シリーズ 「臨床実習とケーススタディ」 鶴見隆正編 医学書院 関係成書
備考：履修者への要望
<ul style="list-style-type: none">・理学療法士になるための実践的な学びの場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。・実習では多くの解らないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋げてください。・実習前のガイダンスにおいて詳細な説明をするため、必ず出席し十分な理解をした上で臨床実習に参加すること。

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
臨床実習Ⅴ（総合２）		リハビリテーション学科 理学療法専攻	3学年	必修	7単位	315時間		
担当教員名								
松村 仁実、加藤 真弓、木村 菜穂子、宮津 真寿美、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介								
実務経験のある教員								
松村仁実・加藤真弓・宮津真寿美・木村菜穂子・臼井晴信・山田南欧美・齊藤誠・濱田光佑・藤本大介 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士として勤務した経験を有する								
授業概要								
理学療法についての知識・技能を、実習指導者のもとで見学・協同参加・実施(監視レベル)を通し、評価(検査・測定含む)・ゴール設定・治療計画・治療及び訓練・指導等を学び、実習指導者の監視のもとで実施できることを広げていく。また、総合実習Ⅰよりも評価の精度を高められるようにする。1つ1つの実践を積み重ね、理学療法における臨床的思考を理解し実践に繋がられるようにする。さらに、理学療法部門の管理・運営に関する基本的事項についての自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動を取れるようになることを目的とする。								
学習到達目標								
知識・理解	①疾患や障害及び評価の適切な知識を持ち、どのような治療計画のもとに理学療法が実践されているかを理解する。(DP1)							
思考・判断 ・表現	③検査・測定結果をもとに統合と解釈をし、最終的には実習指導者からのある程度の助言で治療計画を立てることができる。(DP1, 5)							
技能	②対象者のもつ問題点やその原因をつかむために、実習指導者のある程度の助言のもと、必要かつ適切な評価を行うことができる。(DP1, 5) ④治療計画に沿って、実習指導者の指導のもとで適切な治療訓練ができる。(DP1, 5) ⑤理学療法士として必要な記録および報告ができる。(DP1)							
関心・意欲 ・態度	⑥医療専門職にふさわしい責任ある態度・積極的な行動ができる。(DP2, 3, 4, 6)							
授業形態								
外部実習	医療、介護施設においての実習							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習前学習	対象者に対し、適切な検査・測定や理学療法評価を実施するための準備をする。実習の目的、目標を確認し、実習への心構え、接遇、個人情報保護、SNSに関する事項、その他準備すべきことを周知する。その上で、理学療法における一連の臨床的思考や理学療法の基本的技術について実習前学習を行う。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)					
	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習(理学療法評価、治療)	指定期間(※)のうち6週間を医療機関・介護施設などへ赴き、最後の1週間を学内で実習目標が達成できるよう実習を行う。 ※①7月24日～9月9日、②9月18日～11月4日のどちらかで行う。					
	松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本	実習後学習	実習終了後、学内での実習報告会などに参加し、実習内容を報告する。また、デイリーレポート・関連図等を提出し、教員からフィードバックを受け、自身の過不足について振り返る。そして、不足を補う。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	総合評価		●	●	●	●	100	①②③④⑤⑥

評価の特記事項	<ul style="list-style-type: none">・各施設において、クリニカルクラークシップに則り実施された各種評価、理学療法等の状況(見学・協同参加・実施(監視レベル))に関して、実習目標に基づいた具体的項目についての評価を実習指導者に受ける。・その評価内容と、学内実習での取り組み状況、実習後に学内にて開催される報告会・報告書等の提出物・OSCE(客観的臨床試験)等の状況から、理学療法学専攻における実習判定会議にて、総合的に学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。・なお、単位認定に必要な出席日数には、各施設での実習だけでなく、実習前ガイダンス、実習後報告会等への参加も含まれる。また、正当な理由なく学内ガイダンス等を欠席した場合は、臨床実習への参加を認めない、単位不認定とするなどの処置を行うことがある。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>(実習前)</p> <ul style="list-style-type: none">・評価実習及び総合実習①の経験を踏まえ、「リハビリテーション、理学療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自分の考えも踏まえ説明ができるようにすること。・理学療法に必要な基礎的知識・専門知識を整理しておくこと。また、検査・測定技術、起居・移乗等の動作誘導・介助技術、基本的理学療法の練習を十分に行うこと。・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめること。 <p>(実習中)</p> <ul style="list-style-type: none">・患者の障害像把握に努めること(関連図を用いる)。・不足する自己の知識・技術を客観的に把握し、補う努力をすること。・見学・協同参加・実施(監視レベル)の経験を通して、適切な評価計画や理学療法プログラムを立案し、実施できるようになるために必要な準備を行うこと。また、最終的に統合と解釈、問題点抽出、ゴール設定、理学療法プログラム立案・実施が行えるようになることを念頭に置き、実習に取り組むこと。・実習での経験内容を振り返り、デイリーレポート等にまとめることにより、自らの学習目標・行動目標を見直し、それ以降の学習に繋がられるようにすること。	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	
<ul style="list-style-type: none">・実習中は、実習指導者に直接的に質問をしたり指導を仰ぎ、その都度解決するよう努力する。間接的には、日々の実習内容や疑問点等を「デイリーレポート」等に記し指導を仰ぐ。・実習後には実習の成果(学習内容等)を各種報告書等としてまとめ、担当教員に提出し指導を受ける。・実習での成果(学習内容等)を学内での実習後報告会にて発表し、教員や他学生からフィードバックを受ける。	
教科書	
これまでに使用した教科書や授業で配布した資料すべて	
参考図書	
標準理学療法学シリーズ 「臨床実習とケーススタディ」 鶴見隆正編 医学書院 関係成書	
備考：履修者への要望	
<ul style="list-style-type: none">・理学療法士になるための実践的な学びの場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。・実習では多くの解らないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋げてください。・実習前のガイダンスにおいて詳細な説明をするため、必ず出席し十分な理解をした上で臨床実習に参加すること。	

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
卒業研究		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2学年、3学年	必修	1単位	30時間		
担当教員名								
松村 仁実、加藤 真弓、臼井 晴信、宮津 真寿美、木村 菜穂子、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介								
実務経験のある教員								
松村 仁実、加藤 真弓、宮津 真寿美、木村 菜穂子、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介：医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士として勤務した経験を有する教員が、卒業論文をまとめる過程を通して、理学療法士として必要な思考過程や問題解決能力を教授する。								
授業概要								
この科目では、これまで学習した基礎・専門的な知識をもとに、理学療法研究法で学んだ研究手法を使って研究を実施し、具体的に卒業論文としてまとめ上げることを最終目標としている。論文にまとめるためには、各自が、研究テーマに沿って様々な調査や実験を行い、結果を先行文献などと比較検討し考察しなくてはならない。それは、単に教科書を読むだけの学習にとどまらず、多角的な知識を得ることにつながる。この卒業論文をまとめる過程を通して、理学療法士として必要な思考過程や問題解決能力を修得することを目的とする。								
学習到達目標								
知識・理解								
思考・判断 ・表現	①研究計画を立案、実施し、その結果から論理的な考察を導き出すことができる。（DP 1, 2, 5） ②自らの研究の成果を論文にまとめることができる。（DP 1, 2, 5）							
技能								
関心・意欲 ・態度	③研究の実施、研究成果の公開発表、論文作成のために、指導教員に相談、討論し、研究をすすめることができる。（DP2, 5）							
授業形態								
演習	担当教員によるゼミ形式で行う。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1-3	松村、加藤、宮津、木村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究の実施	指導教員の指導の下、研究の実施					
4	松村、加藤、宮津、木村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究のまとめ	仮論文作成（2年次3月末）					
5	松村、加藤、宮津、木村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究発表	発表準備					
6	松村、加藤、宮津、木村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究発表	卒業研究発表会で発表（3年次11月下旬～12月初旬）					
7	松村、加藤、宮津、木村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究論文作成	論文作成					
8	松村、加藤、宮津、木村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	研究論文作成	論文作成（3年次12月中旬）					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	発表			●		●	40	①②③
	論文			●		●	60	①②③
評価の 特記事項	卒業研究発表会で発表する予定の学生は、発表年度の前年度3月末に、論文の草稿を提出すること。 研究成果の発表（40％：抄録10%、発表内容10%、わかりやすさ10%、質疑応答10%）、論文（60％：内容50%、体裁10%）で評価する。ただし、指導教員が認めない抄録提出は発表できない。また、指導教員が認めない卒業論文は、評価対象にならない。 また、研究を進める上で、著しい品行不良、倫理的問題があった場合には本科目の受講を取り消す場合がある。							

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
この科目は、特定の授業時間のみで行うものではなく、指導教員の指導の下、各自の研究計画によって行われる。研究計画を立てて、計画的に遂行していくよう努めてほしい。
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
すべての過程において、学生から指導教員に意見を述べ、助言やフィードバックを受けてほしい。積極的な討論により、研究はすすむ。また、卒業研究発表会で研究成果を公開し、教員や他の学生からフィードバックを受け、論文作成に活かす。
教科書
なし
参考図書
各分野の成書
備考：履修者への要望
理学療法研究法の単位を修得したものが、本科目の評価対象者となる。 本科目で、卒業論文をまとめ上げることは、総合的な学習成果の指標になる。他の科目で学習した知識にとどまらず、実習や自己学習で得た知識や経験を活かして、積極的に研究活動を進め、理学療法士に必要な思考過程や問題解決能力を向上してほしい。

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
総合演習		リハビリテーション学科 理学療法学専攻	1～3学年	必修	1単位	30時間		
担当教員名								
松村 仁実、加藤 真弓、宮津 真寿美、木村 菜穂子、杉山 成司、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介								
実務経験のある教員								
松村 仁実・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑・藤本 大介 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士として勤務した経験を有する								
授業概要								
本演習は主として各講義や実習などで学んだ知識を整理し、卒業後の診療活動における専門職として必要な総合的能力を統合させることを目的とし、本学におけるすべての講義、演習、実習の成果を総括する。 理学療法士国家試験に必要な事項についての対策講義と、複数の教員によるゼミナール形式で、これまでに学習した内容をより臨床に向けて整理し、一人の理学療法士の専門家として活躍できるように準備を行う。 また、医療人としての素養としての救命救急や災害医療の知識や技術も身につけるものとする。								
学習到達目標								
知識・理解	①理学療法士国家試験に合格できるだけの総合的な知識を身につける(他者に適切に説明できる)(DP1) ②理学療法士としてだけでなく、一医療人、一社会人として医療施設、福祉施設、地域などにおいて求められる能力を理解することができる(DP1)							
思考・判断・表現	③理学療法士として臨床における問題解決能力を身につけることができる(DP1)							
技能								
関心・意欲・態度								
授業形態								
演習	グループおよび個人において演習を行う							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1-2	加藤、宮津、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	国家試験の概要 ※1年次	国家試験の概要と3年間での学び学習方法について					
3-4	加藤、宮津、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	国家試験について ※2年次	国家試験に向けた学習方略、自己調整					
5-6	加藤、外部講師	社会に出るにあたり ※2年次	就職活動についての必要事項の確認					
7-8	加藤、杉山、宮津、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達分野					
9-10	加藤、杉山、宮津、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進分野					
11-12	加藤、杉山、宮津、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念分野					
13-14	加藤、杉山、宮津、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	専門分野	【PT】理学療法評価学分野・治療学分野					
15	加藤、杉山、宮津、木村、松村、臼井、山田、齊藤、濱田、藤本	まとめ	総まとめ					
観点別成績評価と到達目標の関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合(%)	到達目標
	筆記試験		●	●	●		100	①②③
評価の特記事項	3年次の最終の筆記試験で100%評価する(受講態度などにより減点する場合もある) ※受験要件として、1年次(9月、3月)、2年次(9月、3月)に実施される実力(国家試験対策)テスト(4回)を受験していること							
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間								
各専攻とともに、3年間の集大成として理学療法士国家試験に合格することは大切な学習成果である。そのための学習は本講義のみでは不十分であるため、積極的な課外学習を1コマあたりにつき少なくとも1時間はしておく必要がある。								
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法								
模擬試験など、各課題終了時点で紙面もしくは口頭でフィードバックを行う。								
教科書								
関係各成書全般								
参考図書								
関係各成書全般								
備考：履修者への要望								
最終的に国家試験を合格し、臨床現場へ就職していくことになるが、その為の絶対的な必須条件が国家試験合格である。そのため、各自が自身の能力を客観的に自覚し、積極的な取り組みをする必要がある。この科目は、主に3年次はその集大成であるという心構えで取り組んで欲しい。								